(8) サン・ジョアキン移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州サン・ジョアキン郡 MUNICIPIO DE SÃO JOAQUIN, ESTADO DO SANTA CATALINA	
面積		
経緯	サン・パウロ市コチア産業組合では，古くから国産リンゴ生産について多大の関心をもっていたがラーモス，カフサドール等の移住地でのリンゴ生産実績を踏まえ，組合の拓植事業の一部として入植地区を買収，1ロッテ25haに分割，主として有力組合員の2，3男分家用地として分譲したものである。 この間の土地代，住宅代にかゝわる融資は，中央銀行から州立銀行に手当された原資による地域開発投融資々金によってまかなわれた。なお同移住地は一般にはサン・ジョアキン，コチア村と呼ばれているが，彼の積極的なコロニア誘致運動に呼応したもので，道路，電化等の諸設備費には，移民自の相当な援助をうけているようである。入植開始は昭和19年からで現在の入植者は35戸である。	
自然環境	地形	傾斜1～5°の丘陵地帯で，ジェラル山脈の頂原野の一部である。各所に散在する低湿地帯には無数の自然湧水源があり低地部はかなり湿潤である。
	地質・土壌	玄武岩と変質片岩を母岩とする土壌，土壌は中心でpH値4.5～6度で酸性はかなり強い。鉄，アルミナが比較的多く，燐酸の吸収力は低い。石礫が多いので，農耕適地以外には適していない。
	植生・林相	町に近く使用した所で，パラナ松の伐採後相当の年月がたっているようで，現在までは殆んど完全な自然牧場として利用され，極く一部の急傾斜地以外は残存森林なく，草地は天然の自然牧草である。
	気候	1965～1975年の11カ年平均（サン・ジョアキン農業試験場—1,118m誇く） 年平均気温　13.9℃，平均最高気温　18.8℃，平均最低気温　9℃ 降雨量　1553mm
社会環境	主要都市への交通手段	植民地～サン・ジョアキン市間5km砂利敷道。 サン・ジョアキン市～ラージェス市80km砂利道（将来アスファルト道路化計画中） ～ボン・ジェルジン・ダ・セーラ町50km砂利敷道 ～ボン・レテーロ町50km砂利敷道 サン・ジョアキン市～ラージェス市間定期バス1日1往復 サン・ジョアキン市　人口　1万人 ボン・ジェルジン・ダ・セーラ町　人口　2,000人 ボン・レテーロ町　人口　3,000人 ラージェス市　人口　12万人

社会環境	市場	果樹，蔬菜園芸産物は殆んど全部サンパウロ中央市場向け出荷され，コチア産組の委託販売である。（全員が組合員である。）
	地区内道路整備状況	役所で必要に応じて補修している。
	電気・飲料水	農村電化資金で大部分電化済，飲料水は各農家の個人掘抜井戸を利用。
	公共施設	サン・ジョアキン市にコチア産組自療 移住地内に医療機関，教育施設なし。サン・ジョアキン市に総合病院（入院設備有） 小，中，高校あり。大学はラージェス市に商経単科大学がある。

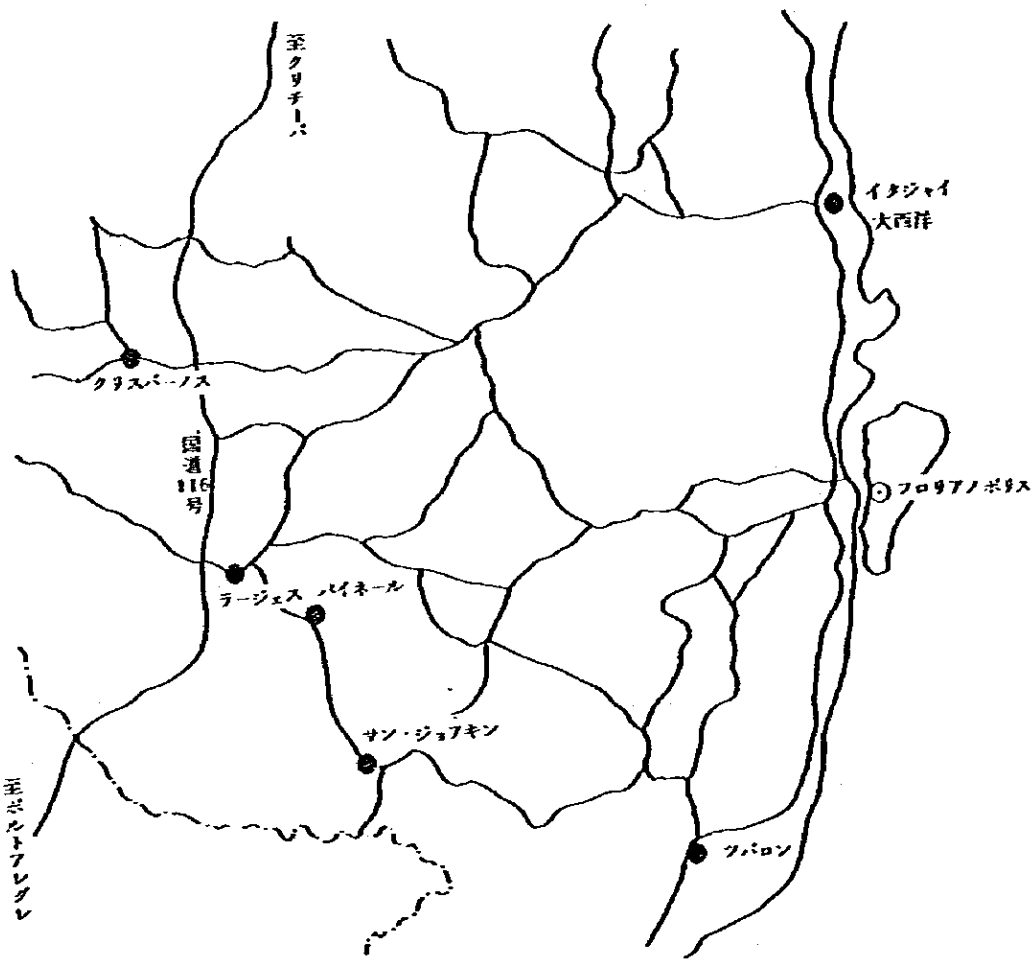
主な出身県名：ブラジル生れ，高知，福島

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	35	162	35
		非居住	—	—	—
		計	35	162	35
	現地人		—	—	—

昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	不詳
		確認済（確定入植者20戸分は712.57haとなっている。1戸平均35.63ha）
	分譲条件及び価格：	分譲価格はha当り約 5,000 ～ 6,000クルゼイロス，長期銀行の公定銀行 利息は年15％，据置3年，8ケ年払いである。
	地権取得	地権取得済
		昭和56年10月現在
農業	主作目	リンゴ
	形態	入植地設定計画に沿って殆んど大部分がリンゴ主体農家で，果樹栽培面積5,000本～10,000本と比較的大きく半企業的経営といえる。
	営農機関	
	営農指導	コチア産業組合 サン・ジョアキン果樹試験場，農業技術（ACARESC）
	金融機関	銀行，コチア産業組合

地区略図


至クリチーバ
イタジャイ
大西洋
クリスバーノス
国道116号
フロリアノポリス
ラージェス
パイネール
サン・ジョアキン
至ポルトアレグレ
ツバロン

(9) イタプアン移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州ヴィアモン郡イタプアン村 VILA ITAPUÃ, MUNICIPIO DE VIAMÃO, ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL	
面積	455ha（但し日本人入植地区　19ロッテ）	
経緯	昭和50年度，イポチ移住地ふどう祭りに招待した州農務長官より，上記地区で，かつて州政府が造成した農地解放植民地の一部に未分譲地があるので，若し日本人農家が入植するのであれば，これを分譲してもよいとの下話があった。この情報は，いち早くポルト・アレグレ市郊外の借地農業農家に伝わり，入植したいとするグループが自然に出来上り，直接州との話合いの結果率先入植するに至った。現在の入植戸数は12戸である。	
自然環境	地形	傾斜丘陵から水平湿地となっており，この湿地区は延々と約8.5km続いて，グワイバ川となっている。
	地質・土壌	傾斜丘陵区は，全くの砂地で，降雨による表土流失が著しく，地味は劣悪な状態にある。 低湿地は，グワイバ川に対して湾形になった部分に，川の浮遊物が多年吹きよせられて集積されて出来たものではないかと思後される地質である。 地下水位が非常に高く，溝を掘るとそこに殆んどそのまま湧水するが，これは乾湿期の為，川の水位の上下とも密接な関係があるように思われる。
	植生・林相	丘陵は貧弱な灌木草原で，丁度セラードを思わせるものがある。現在殆んど切りつくされているので，ひどい荒廃地となっている。草生はまばらな木本科植物が主である。低湿地はカヤツリグサ，チリヲカとよばれる湿生多年草が主である。
	気候	最寄りのポルト・アレグレ市（65km）の平均気候は次のとおりで，概ねこの数値に近いように思われるが，相対湿度がより高く，更に海岸からの風が比較的強いので，冬期にも殆んど目に残るような霜柱がないのが特徴となっている。 年平均気温　19.3℃　　年降雨量　1,322mm 平均最高気温　24.5℃　　降雨日数　123日 平均最低気温　14.5℃
社会環境	主要都市への交通手段	ポルト・アレグレ市より約30kmのラミ地区まではアスファルト道路で，あとの35kmは砂利舗装道路である。入植地より5kmの地点からポルト・アレグレ向けバスが日数往復，ラミ地区からは30分おきにバス便がある。 ポルト・アレグレ市　65km　人口　117万人　州首都 ヴィアモン市　30km　人口　3万人
	市場	ポルト・アレグレ中央卸市場

社会環境	地区内道路整備状況	州農務局のコロニア管理事務所で必要により補修しているが，砂利投入をせず地ならしだけのため，降雨時後は通行にかなり苦心している。
	電気	現在電気はない。
	飲料水	各自の手掘井戸であるが，水質は余りよくない。
	公共施設	地区内には無し。 移住地より3kmの地点に農村小学校がある。（4年課程） その後はイタプアン町に本校がある。 中学以上は殆んどベレン・ノーボ村又はポルト・アレグレ市。 医療関係は主としてポルト・アレグレ市又はベレン・ノーボ村（20km）。

入植世帯数

区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
日本人	居住	12	71	12
	非居住	1	18	4
	計	12	71	16
現地人		—	—	—

昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	155ha（但し日本人入植地区　19ロッテ）
	ロッテ面積	平均23.94ha
	分譲状況	譲渡
	土地取得	猶予なし，10年々賦で，土地代の完済をもって土地が与えられる。 すでに土地を取得したものもある。 昭和56年10月現在
農業	主作目	チシャ，トマト，キュウリ，ニンジン，カリフラワー
	形態	チシャ，トマト，キュウリ，ニンジン等の園芸専業。柑橘類，カキ等の果樹類が若干植え付けられている。
	農機具の普及状況	トラック1.0台，トラクター0.1台，耕耘機1.3台台（昭和52農年度）
	家畜飼育頭数	豚0.6頭
	営農援護機関	
	営農指導	事業団
	金融機関	銀行

(4) その他主な移住地の概況

入植地名	州名	入植者数		農家戸数	備考
		戸数	人数		
ペロッタス	リオ・グランデ・ド・スール	66	249	24	都市近郊農業兼商業
サンタ・マリア	リオ・グランデ・ド・スール	31	138	20	都市近郊農業兼商業
計		97	387	44	

昭和58年4月1日現在

アルゼンティン共和国

Ⅵ　ブエノス・アイレス支部

アルゼンティン共和国

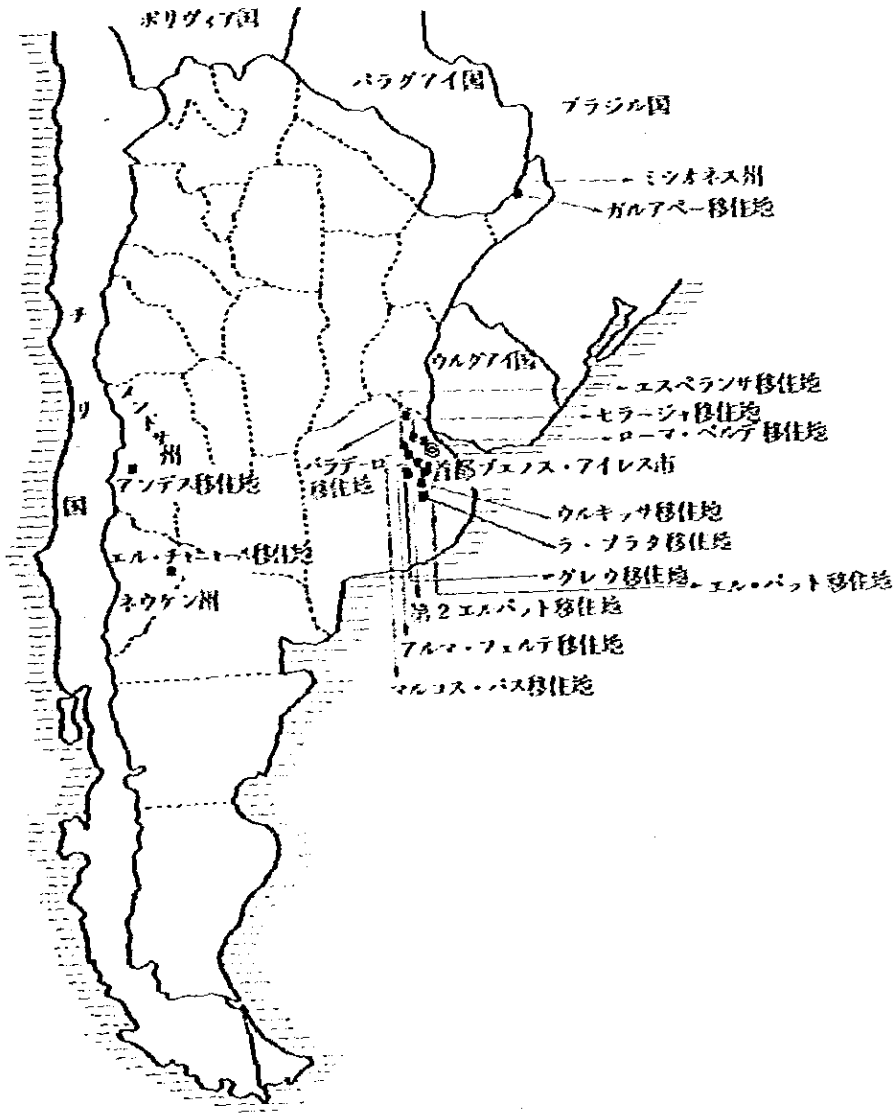
Ⅵ ブエノス・アイレス支部

支部機構

ブエノス・アイレス支部（ブエノス・アイレス市）
- 総務課
- 業務一課
- 業務二課
- アンデス事業所（アンデス移住地）
- アルゼンティン農業センター（グレウ移住地）

管　轄

アルゼンティン国全域



1. アルゼンティン国の基礎指標

首都、ブエノス・アイレス

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨
km² 2,791,810	1861.7.9	立憲共和制	カトリック（国教）	スペイン語	スペイン・イタリア系 移民（97%）	$a Peso ARGENTINO

1. 人口，人口密度・人口増加率

年度 / 人口	1960	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981
人口（千人）	20,850	23,748	24,070	24,390	24,720	25,050	25,380	25,720	26,060	26,390	27,241	27,863	28,200
人口密度	75	85					9.1					10.0	10.1
人口増加率	← 1.39 →						1.58					→	1.2

2. 国民所得

所得 / 年度	1979	1980	備考
国民総所得	60,310	66,430	百万ドル
1人当り国民所得	2,210	2,390	ドル

出典：経済協力の現状と問題点，1982（通産省）

3. 国内総生産（単位：百万$）（%）

区分 / 年度	1977	1978	1979
農牧業	26,983（1.29%）	27,302（1.37%）	26,715（1.22%）
鉱業	3,363（1.6%）	3,112（1.7%）	3,505（1.6%）
製造工業	76,127（3.65%）	70,075（3.52%）	77,725（3.54%）
建設業	7,764（3.7%）	6,347（3.2%）	11,829（5.4%）
電気・ガス・水道	6,136（2.9%）	8,205（4.1%）	6,895（3.1%）
運輸・通信	14,890（7.2%）	14,328（7.2%）	15,701（7.2%）
商業	37,231（17.9%）	34,962（17.6%）	38,117（17.4%）
金融業	7,933（3.8%）	7,646（3.8%）	8,440（3.9%）
サービス業	28,141（13.5%）	26,772（13.5%）	30,314（13.8%）
合計	208,568（100%）	199,069（100%）	219,271（100%）

出典：IMF（注）1980年＝8,016（百万米ドル），1981年＝9,175（百万米ド

4. 輸出入構成（単位：百万$）

区分	年度	1977	1978	1979（1～11月間）
輸出	鉱物産品	2,071	2,200	2,642
	食料，飲料，嗜好品	857	845	937
	動物及び同産品	621	798	1,057
	繊維及び同製品	387	473	324
	皮革類及び同製品	307	433	609
	油脂類	370	391	489
	計	4,613	5,140	6,058
輸入	機械，器具類	998	1,097	1,238
	鉱物産品	809	583	1,187
	化学製品	590	528	758
	金属及び同製品	516	380	520
	車輌，船舶，航空機等	455	335	668
	製紙原料及び紙	159	181	220
	計	3,527	3,104	4,591

（注）1980年輸出：8,016，輸入：10,514（単位：百万ドル）—（出典：IMF）

5. 物価指数

年度 / 物価	1975	1976	1977	1978	1979	1980
卸売物価	1000	5993	1,4051	3,6078	9,1686	160841
消費者物価	1000	5432	1,4996	4,1314	10,7214	215244

年度 / 物価	1981
卸売物価	337100
消費者物価	410120

出典：IMF

2. アルゼンティンへの日本人移住の歴史

ア国への日本人移住者は明治―大正期はわずか1,300人で，昭和初期から盛んになり，昭和16年までに約4,000人に達し，合計5,300人（内沖縄県人約2,800人）で，1940年当時の在留邦人は2世を含めて約7,000人に達している。当時は独身男子が圧倒的に多く成年男女の比率は3：1であった。

ア国への移住者は，ブラジルの契約移民と異なり，アンデス越えのペルーへ移民の流れや，故星清彦氏（福島県出身，果樹園経営。1908年笠戸丸移民の転住）などのブラジルからの転住者及び，日本からの直接の自由移民（渡航費の補助なし）や外務省海外実習生（1935年～41年に116人）などであった。その中には，故伊藤清彦博士（牧場主）（山形県出身，1910着亜）のような海外進出や牧場経営のロマンを求めた青年達もあったが，大半は出稼ぎ移住であった。又，大正期までの初期移民の転業は外人の農場の雇長や，工場の労働者，家庭奉公，庭番，食堂や洗濯屋の下働きなどが大部分であった。大正中期になって小金を貯めると，とりつき易くて日銭が入る職業として先ず洗濯屋，コーヒー店を始める者や，野菜栽培として独立した。蔬菜栽培の先駆者は故石川倉次郎氏（1910年着亜茨城県出身）であった。次いで昭和初期になると，故高市茂氏（1916年着亜，愛媛県出身）や賀集九平氏（1918年着亜，北海道出身）などの先覚者の指導もあり，花卉栽培者として独立する者がふえた。又，これらの中には，県立中学や農学校卒業のインテリも多く，その大半はブエノス市及びその近郊60kmの圏内に集中して居住していた。ブラジルのように海外興業会社やブラジル拓殖組合などの植民団体もなく，又日本政府の特別の援助もなくて自らの手で，蔬菜（1923年），洗染（1929年）及び花卉（1933年）など夫々の同業組合を作り，頼母子講によって相互に助け合いながら試行錯誤をくりかえし苦難の道を開いてきたのである。1940年頃になると今日のような洗染業と花卉及び蔬菜栽培を主とする日系社会の職業分布の基礎が形成されたといわれている。

ア国は1944年1月になって漸く日独と断交し1945年3月宣戦布告し第2次大戦に参加したが，行動制限や日本人学校の閉鎖位で日本人は不安の中にも食料にも恵まれ，抑留などの特別な迫害は受けなかった。母国の敗戦により，戦前組は永住の意志を固め定住するようになった。

昭和23年にはブラジルにさきがけて，呼寄移住が再開され，神奈川県実習生移住も始められた。1953年10月ア国拓殖協同組合が設立され，400戸の導入許可取得に伴ない，ガルアペー，アンデス移住地への計画移住も始まり，次いで海外実習生や花卉雇用青年を含めて現在まで約5,800人（内，沖縄県人約800人）が日本から直接移住している。

また，戦後隣接国へ移住した人の中で，1965年頃からア国への転住が増え「要拓救い」分のみでも次のとおりである。

パラグアイ	281件	746人
ボリヴィア	175件	361人
ブラジル	25件	60人
計	181件	1,167人

この他に，旅行業者扱いによる転住者が，推定1,000人位あると思われ，戦後移住者総数は約9,700人と推定される。現在においても日本人については，その勤勉性と犯罪の少ないことを評価し，一定の技術，資本を有する者については，受入れを歓迎している。

アルゼンチン在留邦人及び日系人数比較

総数（1＋2）			1. 長期滞在者			2. 永住者（日本国籍保有者）			3. 日系人		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
8,810	7,143	15,953	568	272	840	8,242	6,871	15,113	7,868	8,288	16,156

出典：昭和56年度及び58年度海外在留邦人数調査統計（外務省領事移住部発行）より抜萃

3. 移住地所在地域の概要

(1) ミシオネス州の概要

州移住地	ガルアペー移住地
概要	ミシオネス州はアルゼンティンの最北東に位置する。 面積は29,801 km²で九州の7割（英国の1.5倍に当る）。人口54万人で平方キロ当りの人口密度は18.0人である。 地形は丘陵状の起伏の多い南西から北東に細長く伸びる地形である。北側はアルト・パラナ河（ブラジル領内を流れるパラナ河の下流）によってパラグアイと境を接し，南側はウルグアイ河によってブラジル国パラナ州と接している。ミシオネス州の中央部（丁度アルト・パラナ河とウルグアイ河とから等距離の所）は山の背にあたり，パラグアイ，ブラジルの両国を眺めることができる箇所も少くない。標高は最低200m，最高600mである。 地質的には主として玄武岩台地で，土壌は主としてその風化したティエラ・コロラド（テーラ・ロシャ）である。しかしパラグアイ南部やブラジル国の北部パラナ州のテーラ・ロシャに比して，酸性化しているのが多い。特に中央高地の土壌に甚だしい。 気象は一般に亜熱帯に属し，内陸に入っているので温度日較差の大きい大陸性気候である。夏期の温度はさして凄き暑いものでないが，夜間は大変涼しい。冬期は地形の低い窪地に霜を見ることもあるが日中は暖かく成る。雨量は年間1,600～2,200mmで，ブエノス・アイレス州などの大パンパ（大草原）地帯の500－700mmに比較しても，また，アルゼンティン全体からみても多雨地帯である。
産業	産業は主として林業および農業である。この州はアルゼンティンにおける植林面積の約26％，115,000ha を，また，林産物生産量では21％を占めている。この関連企業である板材工場，製材加工場を始め，パルプ工場等がある。 農業では，マテ茶，茶，綿花，オレンジ類等が主に生産されている。 畜産物はブエノス・アイレス州を中心とする大パンパに比較すれば，ものの数ではないが割合に盛んである。

州内主要都市	ゼサーダス市 同州の西端アルト・パラナ河河畔に位置し，対岸にエンカルナシオン市がある。人口は１３万人である。 オベラ市 オベラ市はゼサーダス市から約１００粁，国道１４号線上にあり，人口６４千人，ミシオネス州第２の都会で，農産物（ジェスパ・マテ，紅茶等）の集散地として発展した都市である。

(2) メンドサ州の概要

州内移住地	アンデス移住地
概要	メンドサ州はブエノス・アイレス市より西方約1,０００km，南緯30°59 より37°33，西経68°30より南緯70°35にあり，面積は166,905 km²である。チリーとの西境にはアコンカグア山（標高海抜7,０３５m）を含むアンデス山脈の高峰が連なっており，州都メンドサ市はその麓にある。 同州は地形上，南北メンドサに大別され，北部メンドサの中心はメンドサ市である。南部メンドサの中心はサン・ラファエル市およびヘネラル・アルベアル市となっている。 気候は四季に大別でき，平均気温はだいたい東京付近と同じで年１６℃位であるが夏季には最高４２℃，冬季は降雪もあり最低マイナス９℃を記録したこともある。年間降雨量は３００mm以下と少ない。 人口は約１１５万人，スペイン人（混血を含む）が最も多く，次いでイタリア人，フランス人，ドイツ人など，ヨーロッパ人種で人口の大部分を占め，商業にはトルコ人も多い。
産業	（農業） 豊かな日照と地味により，果樹，農業野菜が盛んで，北米のカリフォルニア州と気候，風土，農作物，農産農業等類似した点が多く「南米のカリフォルニア」とも称せられている。主な農作物は，果樹については，ブドウ，オリーブ，モモ，スモモ等，農業類については，トマト，ピーマン，たまねぎ等，牧草類ではアルファルファー，大麦，ライ麦等である。これら農産物のうち，ブドウについてはアルゼンティンにおける総生産量3,２３９千トンのうち，2,０００千トンが同州で出産されており，また，ブドウ酒も多く産する。トマト，ピーマンは全州至るところに缶詰，ジュースの加工工場がある。
州内主要都市	ヘネラル・アルベアル市 移住地の東方１４km の地点にあり，サン・ラファエル市と並んで南部メンドサの中心都市となっている。ブエノス・アイレス市より約９００km，メンドサ市からは３２０km で，市の郊外には小飛行場がある。ブエノス・アイレス市との交通には，長距離バスが毎日２回往復しているので長

州内主要都市	利である。人口は4.4万人。ヘネラル・アルベアル郡の郡都である。 サン・ラファエル市 移住地より約100kmの地点にあり，南部メンドサ第一の都会で，人口15万人，鉄道のほか郊外には飛行場があり，ブエノス・アイレス市，メンドサ市方面への定期便がある。サン・ラファエル郡の郡都である。 メンドサ市 メンドサ州の主都。人口131千人，ブエノスアイレスから西方へ1000km余，アンデス山麓標高750mの盆地である。付近の盆地は地味肥沃であるが，気候がきわめて乾燥しているため，メンドサの北20kmのラハン川から水路がひかれ，ブドウ，桃，すももなどの果樹栽培が盛んである。

(3) ブエノス・アイレス州の概要

居住地	エスペランサ，アルマ・フェルテ，ローマ・ベルデ，マルコス・パス，エル・パット，第2エル・パット，セラージャ，ラ・プラタ，グレウ，パラデーロの各小移住地，ブエノス・アイレス市近郊移住地
概	ブエノス・アイレス州は，西はパンパ州およびリオ・ネグロ州，北はネグロ川に囲われている。 面積は300,000Km²あり，23州のうちで最も大きく，アルゼンティン国土の9%を占めている。 人口は，8,700千人（1970年）で（アルゼンティン総人口27,000千人）， 州の南端にあるバイア・ブランカ市が工業都市，最大の輸出港として発展しており，石油化学工業等が発達している。今後はこの地域の農産物の一大消費地となることが予測される。 ブエノス・アイレス州の農業地帯は，東部パンパ・ウメダ地帯が大部分で，残は南部の乾燥地帯で，この地帯ではコロラド川，ネグロ川の水を利用して，前者については70万haの灌漑計画（CORFO），後者については7万haの灌漑計画（IDEVI）が推進されている。 農業の主体は牧畜であるが，灌漑農業地帯では，ピーマン，ジャガイモ，トマト，玉ネギ，ニンニク等の農業が作付けられている。 また，農産加工場も多く，トマト，ピーマンなどの缶詰を多量に生産されており，また，アルファルファの脱水工場も発生している。 社会資本の整備状況については，道路は国道3号及びに22号線が整備されている。飲料水は，ネグロ川，コロラド川の水利用が図られており，これらが完成すれば上水道普及率は80%程度となる。電力については現在小火力発電所が建設されているものの電力不足で，ブエノス・アイレス市から南の方にかけて大容量の送電設備が建設中である。 農村地帯では，広大な農場であるため過疎が問題で，この地帯に人口を定住させるよう教育が行なわれている。
要	

国内主要都市	ブエノス・アイレス市 アルゼンティンの首都，１５８０年に創設され昨年４００年を迎えた。南米のパリと呼ばれている。 気候は一年を通じ概して穏かであるが，湿度は年間を通じ高い。月平均最高気温は２８.６℃，最低は７月の８.０℃である。冬期でも市内で降雪を見ることは殆んどない。 現在の人口は２０世紀初頭僅かに８５万人であったのが３２６万人にも達し，周辺の衛星都市を含めたいわゆる「大ブエノス・アイレス」の人口は８９２万人にも及んでいる。 ブエノス・アイレス市はアルゼンティンの政治，経済の中心地ばかりでなく，市内に多くの公園，広場，美術館，博物館があり，訪れる観光客も多い。

(4) ネウケン州の概要

州移住地内	エル・チョコニール
概要	ネウケン州はブエノス・アイレス市の西南約1,３００粁のところにある。首都ネウケン市よりアンデス山脈に向って長状に拡がった州で，国内ではメンドサ，ラ・パンパ及びリオ・ネグロの各州に接し，西側はアンデス山脈を挟んでチリーと国境を接している。総面積９４,０７８km²，総人口２１５,２９９人（１９７９年現在）１km²当り人口密度は2.3名である。総人口２１５,２９９人の内，半数以上の（６４.１％）１３７,９７０人が，ネウケン市に集中している。またネウケン州においては近年急速に人口が増加しており，その増加率は１９７０年～７９年で３９.３％（全国平均１６.６％）に上っている。 ネウケンにおける農業生産は主として灌漑による果樹農業に依存しており，その大部分はLimay河とNeuqen河の合流する地帯で行われている。りんご，梨，桃，すもも，ぶどう等の果樹栽培の外，くるみ，アルファルファ，ホップ等の栽培が挙げられる。 牧畜の主なものは綿羊で，主として，州の中部から南部にかけての地帯が中心であり，羊毛の品質も良好である。又，南部アンデス山麓地帯に１８０,０００ha に及ぶ自然林がある。この内，１００,０００ha 程度は用材として用いられる種類である。この他，鉱物資源に富んでいるが，石油と天然ガスを除いては余り開発は進んでいない。 一方，ネウケン州の西部，アンデス山脈沿いの山麓地帯は，風光明媚な地区が多い。西北部は峻々たる山岳地帯で西南部は深緑の森林地帯である。特にSan Martin de Los Andes，リオ・ネグロ州と境を接するBariloche地区等，西南部の森林地帯とその間に散在する多数の清澄な湖，河川は絶望絶佳，南米のスイスと称されている程である。

4. 移住地の概要

(1) ガルアペー移住地

所在地	ミシオネス州リベルタドール・ヘネラル・サン・マルティン郡 QARUHAPE, DEPARTMENTO GRAL, SAN MARTIN, PROVINCIA DE MISIONES	
面積	3,110ha	
経緯	ガルアペー移住地の所在するミシオネス州は，移住者（戦前約100世帯，戦後約30世帯）がすでに在住してその大部分が農業に従事し，かなりの成功をおさめていたことから，亜国拓殖振興組合（通称「亜拓」）が昭和30年Luis M. Garacino氏から220haの土地を導入し，家族ならびに青年呼寄の母体として，実習農場や種苗育成農場の経営をすすめていた処，当地方の広大な土地を所有するGaracino氏は，日本人の勤勉さに目をつけ，同氏の所有土地を日本人に分譲し日本人移住地が実現すれば同地方の発展に大いに寄与するであろうとして，亜拓に土地の分譲を申し入れた。これを契機に，亜拓がアルゼンチン移民局に400家族の導入許可申請を行い，昭和32年1月11日移民局から400家族の導入許可を取得して（ただし1期80家族導入を限度とする），移住振興KKが同年8月3日Garacino 氏所有の土地の一部3,110haを導入し，80家族の入植を目標とした移住地の造成が開始され，昭和34年5月日本から第1陣4家族が入植した。 その後，昭和40年までドミニカからの転住者12世帯を含めて84世帯が入植したが，其後退耕者もあって，現在の定住者は21家族となっている。	
自然環境	地形	アルト・パラナ河畔にあり河に向ってゆるく傾斜している波状丘陵地で標高250～300mである。地区内には小川が多い。
	地質・土壌	母岩は主として玄武岩で，土壌はその風化土壌であるティエラ・コロラド（ティエラ・ロシャ）で極めて肥沃である。所々にトスカといって黄色味を帯た比較的軽い石混りの土壌地帯もあり，また，アルト・パラナ河畔には砂質の所もある。
	植生及び林相	高さ20mから25mの高木が密集に生い茂っている原生林であるが有用材は殆んど伐りつくされている。
	気候	雨期，乾期の別ははっきりしない。年間降雨量は1,500mm，平均気温は20℃，最高平均気温33.3℃，最低平均気温8.5℃。
社会環境	主要都市への交通手段	ミシオネス州の州都ポサーダス市（人口約130,000人）より東北に160kmの国道12号線沿にあり，国道12号線はイグアスへの観光道路で舗装されている。ポサーダス市よりガルアペー間は，1日バスが数便あり所要時間1～5時間である。
	市場	中堅市場はポサーダス市，主なる市場はブエノス・アイレス市である。
	移住地内道路整備状況	幹線は土道である（昭和56年度事業費により補修工事実施，補修工事費総額13,753千円）
	電気	昭和49年8月25日電化された（220V）（事業費総額約7,935千円）

社会環境	飲料水	素掘井戸14～15mの深さで初めて良質の水を得ることができる。
	公共施設	
	事業団援助	学校相立86小学校
		カルアベー日語学校　教師1人　生徒33人（昭和58年5月現在）
		診療所　特約医師　週2回
		警察駐在署
	農協・自治体等	組合事務所兼倉庫
		選果工場

入植戸数（内訳）	年度	33	34	35	36	37	38	39	41	46	現地入植者
	戸数	10	168	4	13	32	2	9	1	1	19
	人員	53	86	19	59	175	6	27	6	8	60

(注) (1) 37年ドミニカ転住者12家族72名を含む。

(2) 現地入植者に社団企業（8社）を1戸として管理人1名。

(3) 退耕者ロッテ購入入植1戸を加え計上した。

(4) 分家完全独立1戸6名を加え計上した。

主な出身県名：北海道，熊　本，広　島，東　京，長　野，高　知

昭和56年12月末

入植世帯数

区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
日本人	居住住	21	94	21
	非居住	--	—	26
	計	21	94	47
現地人		8	—	55

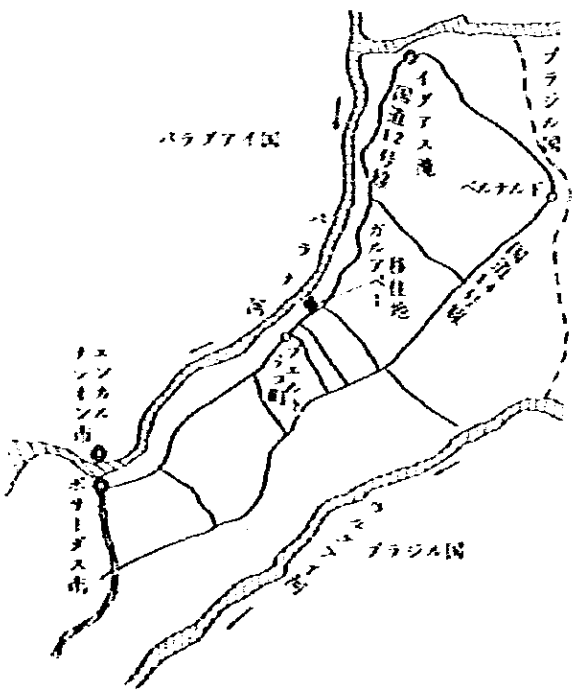
昭和58年4月1日現在

分譲状況	分譲可能面積	2,993.3 ha（99ロッテ）			
	1ロッテ面積	30 ha内外			
	分譲条件及び価格	一括払い　521.3千円　分割払頭金　52千円　4年据置　5年償却　利息19%			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路，河川，市街地等	除地
		分譲完了	公共用地のみ	----	----
	地権取得	取得済　89ロッテ　未取得　100ロッテ（昭和58年3月現在）			
	主作目	温州みかん，トマト，植林，造林			

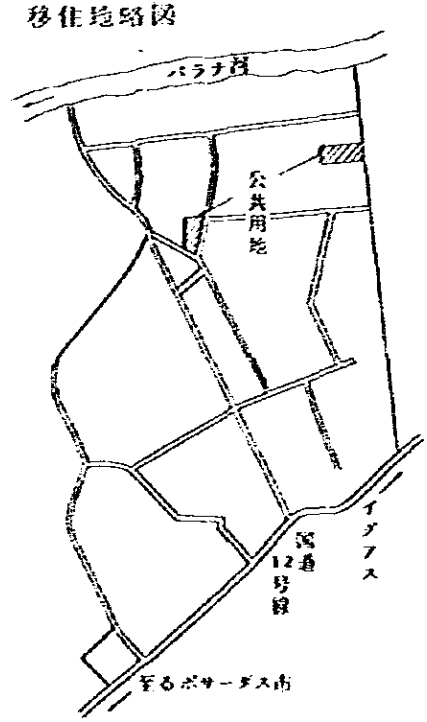
農業	形態	温州みかん，椪柑，温州と養蚕を加えた複合経営。
	農機具普及状況（1戸当り）	トラック0.9台　トラクター1.0台他（昭和57農年度）
	家畜飼育頭数（1戸当り）	乳牛（成0.7頭・仔0.1頭），豚0.6頭（成0.3・仔0.3）（昭和57農年度）
	営農援護機関	
	営農指導	INTA（国立農業技術院），事業団
	金融機関	銀行，事業団
	主作物販売取扱い	ガルアペー農協を通じ，主にプエノス市であるが，ポサーダス市にも出荷されている。

移住地区内日系団体
- ガルアペー農協（法定）
- ガルアペー日本人会
- ガルアペー電化組合（法定）

地区略図



移住地略図



(2) アンデス移住地

所在地	メンドサ州サン・ラファエル郡 ANDES, DEPARTMENTO DE SAN RAFAEL, PROVINCIA MENDOZA	
面積	1,312ha	
経緯	アンデス移住地は，ガルアペー移住地に次いで集団移住地として，旧日本海外移住振興K．K．が，昭和34年5月，メンドサ州アトエルスード地区に1,812haの土地を購入し，要拓が取得した日本人移住者導入許可条件（1州80家族を限度とする）に基づき，80家族の導入を計るべく設定されたものである。 昭和37年現地入植を皮切りに，昭和38年北米カリフォルニアで，酒米短期農務者として就労経験をもつ青年10名が集団入植し，併せて昭和41年までに27家族が入植したが，其後退耕者があり定住者は現在12家族である。	
自然環境	地形	標高600m，所々に起伏があるが概して東南に向ってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。
	地質・土壌	埴質土壌を含んだ砂質土で砂は粒子，頗る細かく粘土分も含まれているが，その含有率は所により異なる。弱アルカリ性土壌でpHは7.5～8.0位。
	植生・林相	乾燥性の強い約40～70cm位の灌木類が密生しており，巨木はない。
	気候	1年を通じ最も暑い時期が1月で最高平均気温24.7℃，最も寒いのは7.9℃となっている。7～8月頃に1～2回雪の降ることがある。平均年間降雨量280mm。
社会環境	主要都市からの交通手段	本地区は首都ブエノス・アイレス市より西方960km，州都メンドサ市より直々東330kmにある。ヘネラル・アルベアル市およびハイメ・プラッツ町（この間4km目未舗装）レアル・デル・パードレ町サン・ラファエル市に至る道路は舗装されている。 なお，メンドサ市へは毎日3回のバス便（所要時間約5時間半）があり，ブエノス・アイレス市へは1日2往復（所要時間約15時間）長距離バスが運行している。 航空便は，ブエノス・アイレスからサン・ラファエル市まで週3便，所要時間約1時間である。サン・ラファエル市からヘネラル・アルベアル市まで毎日8往復のバス便（所要時間約2時間半）が運行されている。
	市場	主な農産物の販売取扱機関及び主市場は次のとおりである。 ○ぶどう サン・ラファエル市，ヘネラル・アルベアール市，ハイメ・プラッツ町各農産所の外，半官半民のGIOL農産所と取引されている。

	○トマト レアル・デル・パドレ町，ヘネラル・アルベアル市の生果加工場と取引きされている。 ○桃，アンズ，スモモ 近傍乾果工場と取引きされている。 ○カンピョウ，切干大根 （畜拓）その他ブエノス・アイレス邦人対象でかなりの需要がある。
移住地内道路整備状況	幹線は土道である。（事業費より昭和56年度及び57年度補修工事実施。補修工事費総額58,760千円）
電　　気	昭和12年に全戸電化されている。（事業費総額6,847千円）。家庭用単相交流220V。
飲　料　水	用水路に流れる灌漑水を地下槽に貯水して利用している。天水も一部利用している。
公共施設	
事業援助	宿泊所 移住地内診療所はないが，ヘネラル・アルベアル市に特約医があり，診療にあたっている。
そ　の　他	学校 小学校　　移住地入口より2kmにあり自転車または徒歩で通学。 ヘネラル・アルベアル市社会環境が整っている。 南部メンドサ日語校　教師2人　生徒17人（昭和58年5月現在） 北部メンドサ日語校　教師1人　生徒　9人（　〃　）

入植状況

年度	37	39	40	41	現地入植者
戸数	1	14	1	1	12
人員	5	60	4	5	48

昭和56年10月現在

入植世帯数

区分		入植数 戸数	入植世帯数 人数	現存戸数 戸数
日本人	居住	12	40	12
	非居住	—	—	11
	計	12	40	23
現地人		4	—	4

主な出身県名：香川，広島，鹿児島，兵庫，栃木

昭和58年4月1日現在

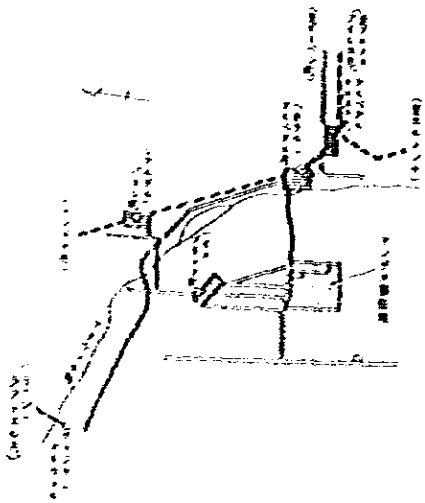
分譲状況	総面積	1,312ha
	ロッテ面積	10ha（標準ロッテ）
	分譲条件および価格	一括払　592.9千円 分割払　頭金59.3千円，据置1年，5年賦払，利息3千円建による分譲契約
	分譲可能面積	675.6ha（69ロッテ）
	分譲状況	

分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	残地
571.3ha(58ロッテ)	101.3ha(11ロッテ)	636.4ha	0

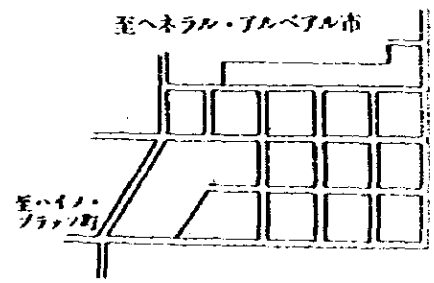
	地権取得	58ロッテ中取得24ロッテ，申請中22ロッテ，未申請12ロッテ
農業	主作目	ブドウ，モモ，イチゴ，トマト
	形態	ブドウを基幹作物とし，これと畜産を加えた複合経営
	農機具普及状況（一戸当り）	トラクター0.9台　トラック0.5台他（昭和57農年度）
	家畜飼育頭数	役馬0.4頭(成)　乳牛(成0.2頭・仔0.1頭)　豚0.4頭(仔)(昭和57農年度)
	営農支援機関	
	営農指導	事業団，INTA
	金融機関	事業団
	主作物販売取扱	イチゴ生産組合，要拓，その他
	その他	同移住地一帯は半乾燥地帯でアトリエ用から取水し，灌漑農業を行っている。 全戸「アンデス移住地水利組合」に加入，水利の権利を図っている。

移住地内日系団体　：　コロニア・アンデス協会

地区略図



移住地略図



(3) エスペランサ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州モレーノ郡 LUGAR MORENO, PARTIDO MORENO, Pcia. BUENOS AIRES	
面積	37 ha	
経緯	戦後移住した花卉青年等を対象に，その独立援護の一環として10～15戸（小移住地）の独立用地を事業団が買収ブエノス・アイレス市近郊50km内外に一括購入して，雇用契約満了後の青年に予約分譲方式で漸次分筆分譲してきたものである。 独立用地は，当事業団ならびに独立希望者，専門の協力を得て選定を行い，現在までに10カ所の小移住地を設定している。 当移住地は，その第1番目の小移住地で，昭和42年から入植が開始された。	
自然環境	地形	全体として南東に向ってゆるやかな傾斜をなす。 平坦地，標高29～30m
	地質・土壌	腐植土性のある黒色土，表土の深さ35～50cm 排水性良好，地力がありカーネーション栽培に良。 塩類濃度極めて低濃である。
	植生・林相	牧草草野の一部で，樹木の自然植生は殆んど見られない。 1～2月頃が最も暑い，最高平均気温22.4℃。6～7月が最も寒い，最低平均気温9.5℃ 平均年降雨量850mm
社会環境	主要都市への交通手段	国道197号線（舗装道路）を30分毎にバスが運行しており，ホセ・C・パス，モレーノに通じてそる。 ホセ・C・パス，モレーノからブエノス・アイレスまで郊外電鉄線が通じている。
	市場	ブエノス・アイレス市
	地区内道路整備状況	土道
	電気	電化ずみ
	飲料水	深井戸60m前後で良質の水が得られる。
	公共施設	地区内には皆無であるが，近郊のホセ・C・パス市及びモレーノ市の社会環境は良く整備されている。
主な出身県名：東京，長野，神奈川，群馬		

全戸現地入植者，１２戸４９人，この外アンディーノ産組（法人）が１ロッテ購入し，バラ栽培を行っている。

入植世帯数

区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
日本人	居住	11	44	11
	非居住	--	—	5
	計	11	44	16
現地人		—	—	—

昭和５８年４月１日現在

分譲状況

総面積	37.8 ha
ロッテ面積	1.9 ha
分譲条件および価格	一括払い1,135千円 分割払頭金113.5千円，　4年据置，5年分割払利息19％
分譲可能面積	34.8 ha（18ロッテ）
分譲状況	

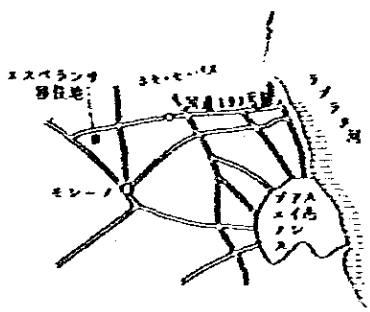
分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
318ha(18ロッテ)	0ha	3ha	0

売権取得	18ロッテ中取得8ロッテ，申請中1ロッテ，未申請9ロッテ 昭和５８年３月現在

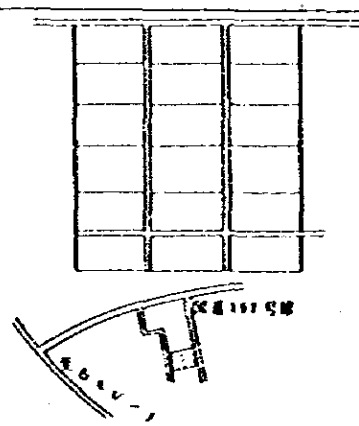
農業

主作目	バラ，キク，イチゴ，カーネーション
形態	花卉と蔬菜との複合経営
農機具普及状況（一戸当り）	トラック0.5台　耕耘機1.0台　動噴1.2台，農用冷暖房装置6.2式 （昭和５７農年度）
営農援護機関	
営農指導	事業団，ＩＮＴＡ　ホセ・セ・パス出張所
金融機関	事業団，銀行
主作物の販売取扱い機関	アルゼンティン花卉産業組合

地区略図



移住地略図



(4) アルマ・フェルテ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州サン・ビセンテ郡 CUARTEL 8°—PARTIDO SAN VICENTE, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	38 ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の目的・規模で設定された第2号移住である。入植開始は昭和42年	
自然環境	地形	全体に西に向つてゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高27～30m
	地質・土壌	表土は粘土質ある黒色土で，有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均40cmあり，花卉栽培に適している。
	植生・林相	牧草原野，自然生育の樹木はない。
	気候	乾期雨期の区分が明確でない。1～2月頃が最も暑く，最高平均気温28.4℃。6～7月が最も寒く，最低平均気温6.0℃。平均年間降雨量890mm
社会環境	主要都市からの交通手段	ブエノス・アイレス市からグレウまで往復路35km，鉄道，バスが頻繁に往復も便である。グレウ駅から日本地区より200mの地点まで，バスが10分おきに往復しており道路は舗装されている。
	市場	ブエノス・アイレス市
	地区道路整備状況	土道
	電気	電化されている。
	飲料水	深井戸60m掘削すると良質の水が得られる。
	公共施設	移住地内に日本語学校がある。（教師1名，生徒16名（昭和58年5月現在）。移住地より1り約3kmでグレウの市街地に達し，社会生活環境は整っている。
入植状況	全戸現地入植者，14戸 主な出身県名：神奈川	

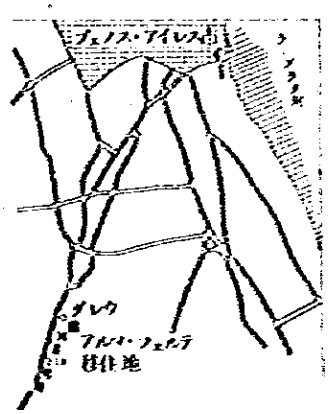
	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
入植世帯数	日本人	居住	14	64	14
		非居住	--	-	1
		計	14	64	15
	現地人		-	-	-

昭和58年4月1日現在

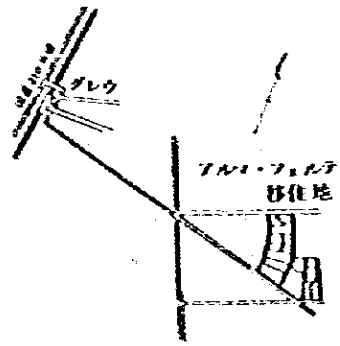
分譲状況	総面積	38.8ha（15ロッテ）
	ロッテ面積	2.6ha
	分譲条件および価格	一括払　1,200千円，分割払　頭金120千円，1年据置5年分割払，利息19%
	分譲状況	全て分譲済(15ロッテ)
	土地取得	15ロッテ中取得11ロッテ，未申請4ロッテ 昭和58年3月現在
農業	主作目	カーネーション，キク，イチゴ
	形態	カーネーション，キク，バラ等の花卉及びイチゴ等の蔬菜類を専業農家が主体
	農機具の普及状況	トラック0.4台　耕耘機0.9台　トラクター0.5台，動噴1.2台 台（昭和57農年度）
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ブエノス・アイレス支局，INTA　フロレンシア・バレラ出張所
	金融機関	事業団，銀行
	主作物販売取扱い	アルゼンチン花卉産業組合

移住地区内日系団体：組織だったものはない。

地区略図



移住地略図



(5) ローマ・ベルデ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州エスコバール郡 COLONIA LOMA VERDE, DEPARTAMENTO BELEN DE ESCOBAR, Pcia DE BUENOS AIRES
面積	12 ha
沿革	エスペランサ移住地の別棟の目的，県営で設立された第3号移住地である。 入植開始は昭和41年からである。
自然環境	地形：平坦地で標高約30m程度，ゆるやかな傾斜が西に流れている。 地質・土壌：沿岸土地帯であり，表土は粘土質の黒色土で有機質に富み肥沃である。表土の深さは平均100cm程度で花卉栽培に適している。 植生・林相：牧草草野 気候：乾燥期間の区別は明確でない。1～2月頃が最も暑く，最高平均気温29.8℃。年間平均気温15.9℃　平均年間降雨量855mm
社会環境	主要都市までの交通手段：ブエノス・アイレス市より距離56kmである。道路は舗装されており，交通至便。 エスコバール市より8km（国道9号線）
	市場：ブエノス・アイレス市
	移住地内道路整備状況：土道である。
	電気：昭和49年度に地区内の電化が完成，ブエノス・アイレス州電力局より配電をうけている。
	飲料水：飲料水は深井戸60m程度を掘削すると良質の水が得られる。
	公共施設：地区内には特にないが，移住地より8kmでエスコバール市の中心に達するので市内の小学校，中学校，病院等を利用出来る。

入植者数

区分		入植者数 戸数	入植者数 人数	農家戸数 戸数
日本人	居住	13	68	13
	非居住	2	-	2
	計	15	68	15
現地人		-	-	-

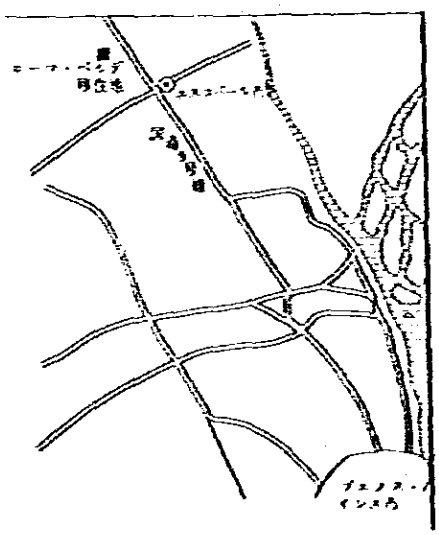
昭和58年4月1日現在

主な出身県名：東　京，青　森，神奈川

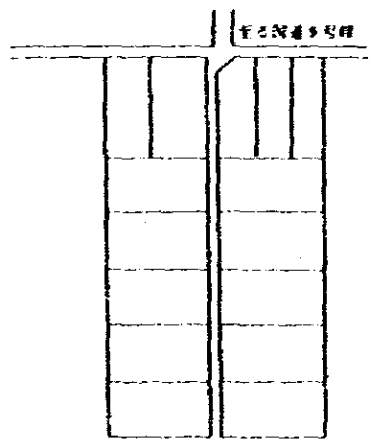
分譲状況	総面積	42.8 ha
	ロッテ面積	2.8 ha
	分譲条件及び価格	一括払　1,684.5千円 分割払　頭金168.45千円，4年据置5年分割，利息19%
	分譲可能面積	41.5 ha（15ロッテ）
	分譲状況	分譲済面積：41.5ha(15ロッテ) 道路市街地等利用地：13ha
	土地取得	15ロッテ中取得10ロッテ，申請中1ロッテ，未申請4ロッテ 昭和58年3月末現在
農業	主作目	バラ，イチゴ，キク
	形態	バラ，キク等の花卉を主幹にイチゴ等の園芸農業を従とした単作一経営
	農機具普及状況	トラック0.8台　耕耘機1.2台　動噴1.8台，農用冷暖房装置1.8式他 （昭和57農年度）
	営農後援機関	
	営農指導	事業団ブエノス・アイレス支部　INTA Delta試験場
	金融機関	銀行，事業団
	主作物販売取扱い機関	アルゼンティン花卉産業組合

移住地内自系農体：組織だったものはない。

地区略図



移住地略図



(6) マルコス・パス移住地

所在地	ブエノス・アイレス州マルコス・パス郡 MARCOS PAZ, Pcia. BUENOS AIRES	
面積	37 ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の経緯・目的で設立された第4号移住地である。昭和45年より入植が開始された。	
自然環境	地形	東西に約1,270m，南北に約1,240m，地形は，ゆるやかな傾斜が西より流れている。標高平均30m。
	地質・土壌	沖積土壌であり，表土は黒色の砂壌土で有機質に富み肥沃である。黒色表土の深さは約30cmであるが，それ以下50cm程度まで褐色砂壌土であり，花卉栽培に適している。
	植生・林相	樹木の植生は1本も見られない。
	気候	1～2月頃が最も暑い，最高平均気温30.1℃，6～7月頃が最も寒い，最低平均気温1.5℃，平均年間降雨量938mm。
社会環境	主要都市までの主な交通手段	移住地よりマルコス・パス市まで約25kmで，ブエノス・アイレス市とマルコス・パス市間は陸路15km，国鉄およびバス便があり，所要時間は国鉄は約1時間20分，バス約40分，交通至便。
	市場	大半がブエノス・アイレス市，陸路15km，マルコス・パス市
	移住地道路整備状況	土道である。
	電気	昭和48年7月に電化された。
	飲料水	飲料水は約50m程度掘削すると良質の水が得られる。
	公共施設	マルコス・パス市に小学校18校，中学校2校がある。 マルコス・パス日系校　教師1人　生徒12人（昭和58年5月現在） 病院は慈善病院1校，個人病院1校がある。

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	13	55	13
		非居住	1	−	1
		計	14	55	14
	現地人		−	−	−

主な出身県：東京，香川，沖縄

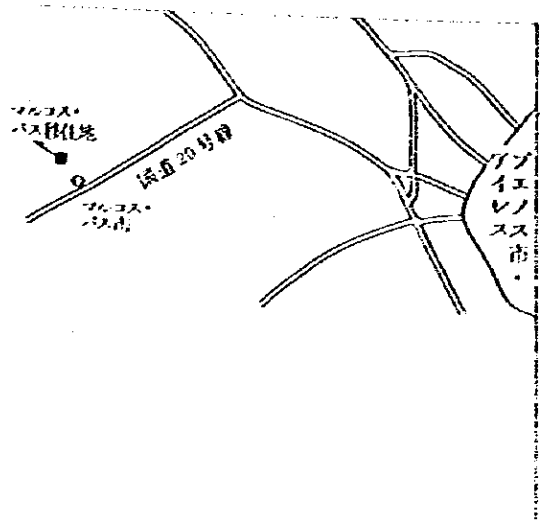
昭和58年4月1日

分譲状況		
	総面積	40.2ha
	ロッテ面積	2.9ha
	分譲条件および価格	一括払　1,500千円 分割払　頭金10%，4年据置5年分割払，利息19%
	分譲可能面積	40.2ha（14ロッテ）
	分譲状況	全て分譲済(14ロッテ)
	地産取得	14ロッテ中取得9ロッテ，未申請5ロッテ 昭和58年3月現在

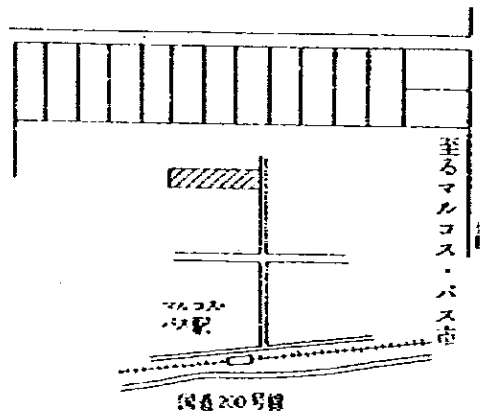
農業		
	主作目	キク，カーネーション，鉢物
	形態	キク，カーネーション等を主体とした花卉園芸単一経営 養鶏農家が一戸ある。
	農機具普及状況	トラック0.4台　トラクター0.8台　耕耘機1.1台　動噴1.3台他 （昭和57年農年度）
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ブエノス・アイレス支部
	金融機関	銀行，事業団ブエノス・アイレス支部
	主作物販売取扱	アルゼンティン花卉産業組合

移住地内日系団体は日系人だったものはない。

移住地略図


マルコス・パス移住地
国道20号線
マルコス・パス市
ブエノスアイレス市

移住地略図


至るマルコス・パス市
マルコス・パス駅
国道20号線

(7) エル・パット移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ベラサテギ郡 RUTA NACIONAL, PARTIDO DE BERAZATEGUI, Pcia.DE BUENOS AIRES	
面積	37ha	
性格	エスペランサ移住地と同様の経緯，目的で設立された第5号の移住地である。	
自然環境	地形	全体的にみて，やや波状形の平坦地で南方に向ってゆるやかに傾斜している。 標高平均28m。
	地質・土壌	沖積地帯であり，表土は若干粘土性のある黒色壌土で，有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均40cm，50cm以下は良質の粘土性を帯びた黒色土で花卉栽培に適している。
	植生・林相	樹木の植生は見られない。
	気候	1～2月頃が最も暑い，最高平均気温28.4℃ 6～7月頃が最も寒い，最低平均気温6.0℃ 平均年間降雨量893mm
社会環境	主要都市よりの交通手段	移住地より東方約1.5kmの地点には，国道2号線（ブエノス・アイレス～マル・デル・プラタ）が通っており，両市間ならびにブエノス・アイレス～ラ・プラタ市間を往復するバスの外，南部各都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 国道41kmの地点にバス停留所があり，ブエノス・アイレス市までの所要時間は，約1時間程度である。 エル・パット町陸路5km，メルチョール・ロメロ町陸路17km，アバスト町陸路17km，ラ・プラタ市（州首都），陸路29km。 ブエノス・アイレス市，陸路41km。
	市場	大半がブエノス・アイレス市
	電気	電化完了
	飲料水	良質の地下水を利用
	公共施設	移住地内に日本語学校がある（教師1名，生徒24名）（昭和58年5月現在） 移住地より北東にあるエル・パット町に小学校，診療所がある。 エル・パット町に警察駐在所がある。

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	12	66	12
		非居住	-	-	1
		計	12	66	13
	現地人		-	-	-

主な出身県：福岡

昭和58年4月1日現在

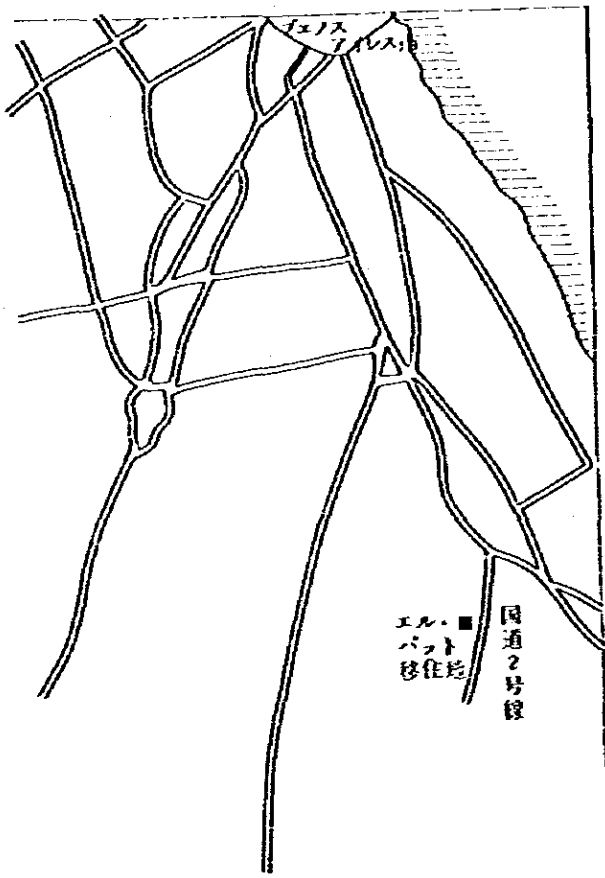
分譲状況		
	総面積	37.1 ha
	ロッテ面積	2.6 ha
	分譲条件および価格	一括払　1,162千円 分割払　頭金162千円，4年据置5年分割払，利息19%
	分譲可能面積	34 ha（13ロッテ）
	分譲状況	分譲済面積：34ha（13ロッテ） 道路・街区等利用地：3.1 ha
	地権取得	13ロッテ中取得7ロッテ，未申請6ロッテ
	地区内道路	1通である。

昭和58年3月現在

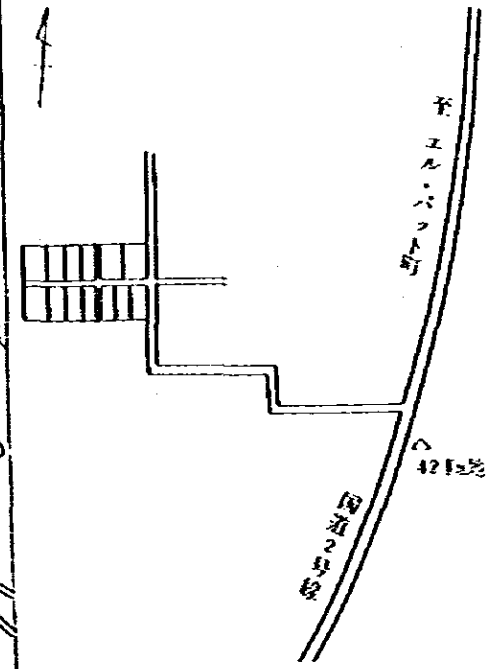
農業		
	主作目	カーネーション，キク，バラ
	経営形態	カーネーション，キクの花卉園芸単一経営
	農機具等の普及状況	トラック1.2台　耕耘機0.6台　トラクター0.5台　動噴1.4台他 （昭和57農年度）
	家畜飼育頭数	特になし。
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ブエノス・アイレス支部，INTA Florence Varela 出張所
	金融機関	銀行，事業団
	主作物取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合

移住地内には耕作だった日系農家はない。

地区略図



移住地略図



(8) セラージャ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ピラール郡 BARRIO ZELAYA, PARTIDO DE PILAR, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	30ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の目的，経緯で設立された移住地で，入植開始は昭和17年である。	
自然環境	地形	全体にやや平坦な地で南方に向って少るやかに傾斜している。
	地質・土壌	沖積土壌で，表土は若干粘土質のある黒色壌土で有機質含有量は普通である。 表土の深さは18～28cmで下層は黒色粘土質である。
	植生・林相	一部に（0.2～0.3ha）ユーカリがあり，放牧中の牛の日陰除けに利用されている外は全面原生草地である。
	気候	1～2月頃が最も暑い，最高気温29.8℃ 6～7月頃が最も寒い，最低気温8.9℃ 平均年間雨量855mm
社会環境	移住地より主要都市への交通手段	移住地は国道8号線と9号線の中間地点にあり，東方約4kmに州道25号線（ピラール市，エスコバール市）が通っており，両市を往復するバスの外ピラール市，エスコバール市発点で但，南北都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 ブエノス・アイレスおよびベルガミーノ市を結ぶ鉄道が，移住地の北方を通っており，700m北方にセラージャ駅がある。 バス，鉄道何れによってもブエノス・アイレス市までの所要時間は，約1時間30分程度である。 セラージャ町人口1,000人，陸路700m，エスコバール市人口5万人，陸路7km。 ピラール市人口52,000人，陸路10km，ブエノス・アイレス市人口326万人，陸路52km。
	市場	大半がブエノス・アイレス市
	地区内道路整備状況	土道である。
	電気	電化完了。
	飲料水	良質の地下水を利用。
	公共施設	移住地内には特にないが，移住地より北方700mにセラージャ町があり，小学校・診療所がある。セラージャ町に警察駐在所がある。

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	離農戸数 戸数
	日本人	居住	10	39	10
		非居住	−	−	1
		計	10	39	11
	現地人		−	−	−

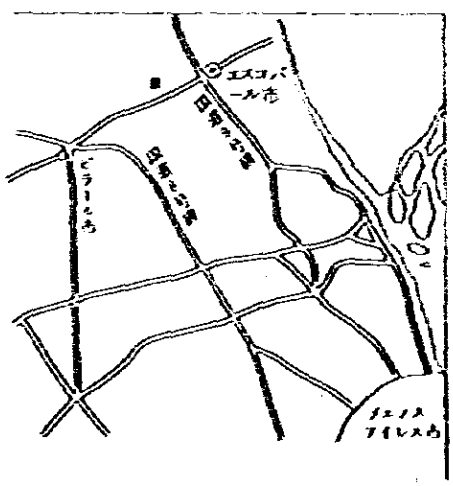
全戸現地入植者

主な出身県名：北海道，福島

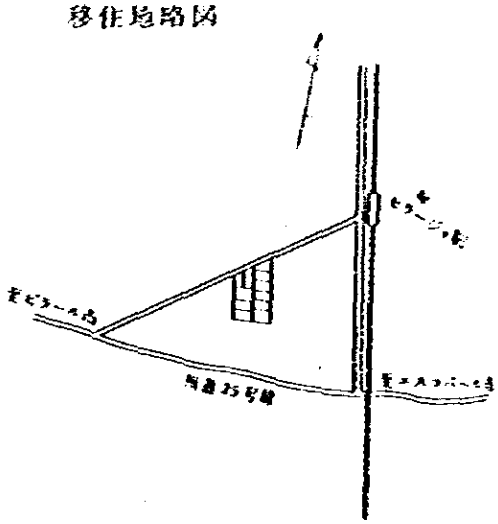
昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	30.4ha
	ロッテ面積	2.7ha
	分譲条件および価格	一括払　1,444.5千円 分割払　頭金144.45千円，4年据置5年分割払，利息19%
	分譲可能面積	29.7ha（11ロッテ）
	分譲状況	分譲済面積：29.7ha（11ロッテ） 保留地：0.7ha
	地産取得	11ロッテ中取得6ロッテ，未申請5ロッテ
		昭和58年3月末現在
農業	主作物	バラ，パイナップル，キク，イチゴ
	形態	バラ，キクの花卉園芸を主体とした単一経営もしくは，これにイチゴ，トマト等の蔬菜及びパイナップル栽培を加えた複合経営。

地区略図



移住地略図



(9) ラ・プラタ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ラ・プラタ郡 LUGAR EL PELIGRO PARTIDO LA PLATA PROVINCIA DE BUENOS AIRES	
面積	120ha	
沿革	エスペランサ移住地と同様の経緯，目的で設立された第8号移住地である。入植開始は昭和50年からで，現在42戸が定住している。	
自然環境	地形	ウルキッサ移住地に隣接する緩傾斜土地で全体的に西北西に向って緩い傾斜があるが，概ね平坦地で標高28mである。
	地質・土壌	洪積土壌層で表土は黒色をし，相当の有機質に富み肥沃である。表土は30～40cmを有し，それに続く下層は良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
	植生・林相	2年前までは乳牛飼育の牧畜場として利用し，購入時まではトウモロコシの耕作をしていた。
	気候	1～2月が最も暑い。最高平均気温24.2℃ 6～7月が最も寒い。最低平均気温11.7℃ 年平均気温が15.8℃，平均年間降雨量1,076mm，降雨5～9月の間に5～7回程度。 全体的に概ね平坦であるが，北東側と西北西側に自然水流を有し，余剰雨水及び花卉栽培用の必要水は充分である。
社会環境	主要都市よりの交通手段	バス：入植地の南西1.5kmの地点に国道2号線が通り，ブエノス・アイレス市ラ・プラタ市間を往復するほか，ローカル線もバスも頻繁に往復している。当地北東側は州道36号に接しており ローカルバス関係の計画がある。 エル・パット町　当地より西北西方約10km メルチョル・ロメロ町　〃　北東方約10km アバスト町　〃　北東方約10km ラ・プラタ市　〃　東南方約25km ブエノス・アイレス市　〃　北西方約45km
	市場	大半がブエノス・アイレス市
	道路整備状況	上道である。
	電気	昭和52年度に電化された（事業費総額3,854千円）。
	公共施設	当移住地に小学校がある。15km離れた国道2号線を横断した地点に銀行，商店街があり，入植者の生活必需品の購入には便利である。大きな病院，中学，

大学は約25kmのラ・プラタ市に存在する。
ラ・プラタ日語学校　教師1人　生徒33人

昭和58年5月現在

入植世帯数 区分		入植数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
入植世帯数	日本人 居住	42	221	42
	日本人 非居住	−	−	8
	日本人 計	42	221	50
	現地人	−	−	−

昭和58年4月1日現在

全戸現地入植者

主な出身県名：熊本，北海道，長崎，岡山，岩手，高知，埼玉，三重，静岡，愛媛，広島，鳥取

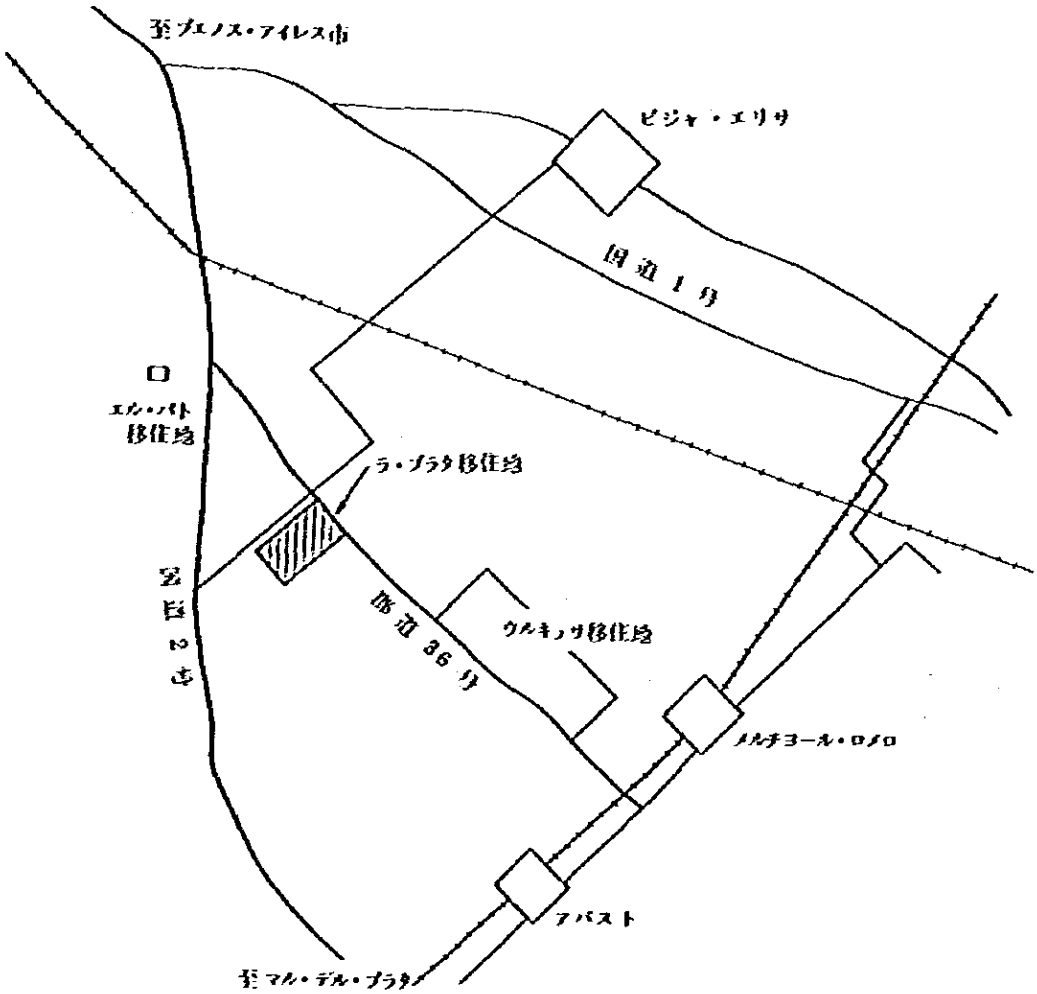
分譲状況	総面積	120.3ha
	ロッテ面積	2.2ha
	分譲条件および価格	一括払　1,075千円 分割払　頭金3225千円　1年据置5年分割払，利息19%
	分譲可能面積	107.1ha（50ロッテ）
	分譲状況	分譲済面積：107.1ha（50ロッテ） 道路市街地等利用地：13.2ha
	地権取得	50ロッテ（うち1ロッテ留保地）全て未取得

昭和58年3月末現在

農業	主作目	カーネーション，バラ，キク
	形態	カーネーション，バラ，キク等花卉園芸経営の単一経営
	農機具の普及状況	トラック0.5台　耕耘機0.7台，トラクター0.2台（昭和57農年度）
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ブエノスアイレス支部，INTA Delta試験場
	金融機関	銀行，事業団
	主作物取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合

移住地内日系団体　コロニア・ラ・プラタ日本人会がある。

地区略図


至ブエノス・アイレス市
ビジャ・エリサ
国道1号
エル・バト
移住地
ラ・プラタ移住地
至ピロトン
国道36号
ウルキッサ移住地
メルチョール・ロメロ
アバスト
至マル・デル・プラタ

(10) グレウ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州アルミランテ・ブロウン郡 GLEW, PARTIDO DE ALMIRANTE BROWN, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	75ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の目的，経緯で設立された第9号移住地で，入植開始は昭和52年である。	
自然環境	地形	中心よりやや西寄りを頂点として臼を伏せたような形で，四方にゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高平均29m
	土質・土壌	沖積土壌地帯で，表土は黒色を呈し，可成り有機質に富み肥沃である。表土は40cmを有しそれに続く下層は，良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
	植生	牧草草野，自然育生の樹木はない。
	気候	気温　年間平均16.1℃　最高平均22.0℃　最低平均10.5℃，雨量年間1,016mm　降雨5月～9月の間に平均18回程度。
社会環境	主要都市からの交通手段	ブエノス・アイレス市からグレウ市までは，鉄道，バスが頻繁に往復している。 グレウ駅から，入植地より約500mの地点まで30分毎にバスが往復している。 入植地より約500m地点までの道路は舗装されている。 グレウ市　距離約　4km ブルチコ市　〃　7km アドロゲ市　〃　10km ブエノス・アイレス市　〃　35km
	市場	大半がブエノス・アイレス市
	地区内道路整備状況	土道である。
	公共施設	移住地内には特にないが，当事業団の購買センターが設けられている。 グレウ市までの途中に診療所がある。近隣都市には医療施設完備。 移住地に隣接する住宅街地区内約2kmのところに小学校がある。 グレウ日語学校　教師1人　生徒19人（昭和58年5月現在）

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	17	78	17
		非居住	−	−	2
		計	17	78	19
	現地人		−	−	−

主な出身県名：長崎，秋田，群馬，山口，大阪，熊本，岩手，福島

全戸現地入植者

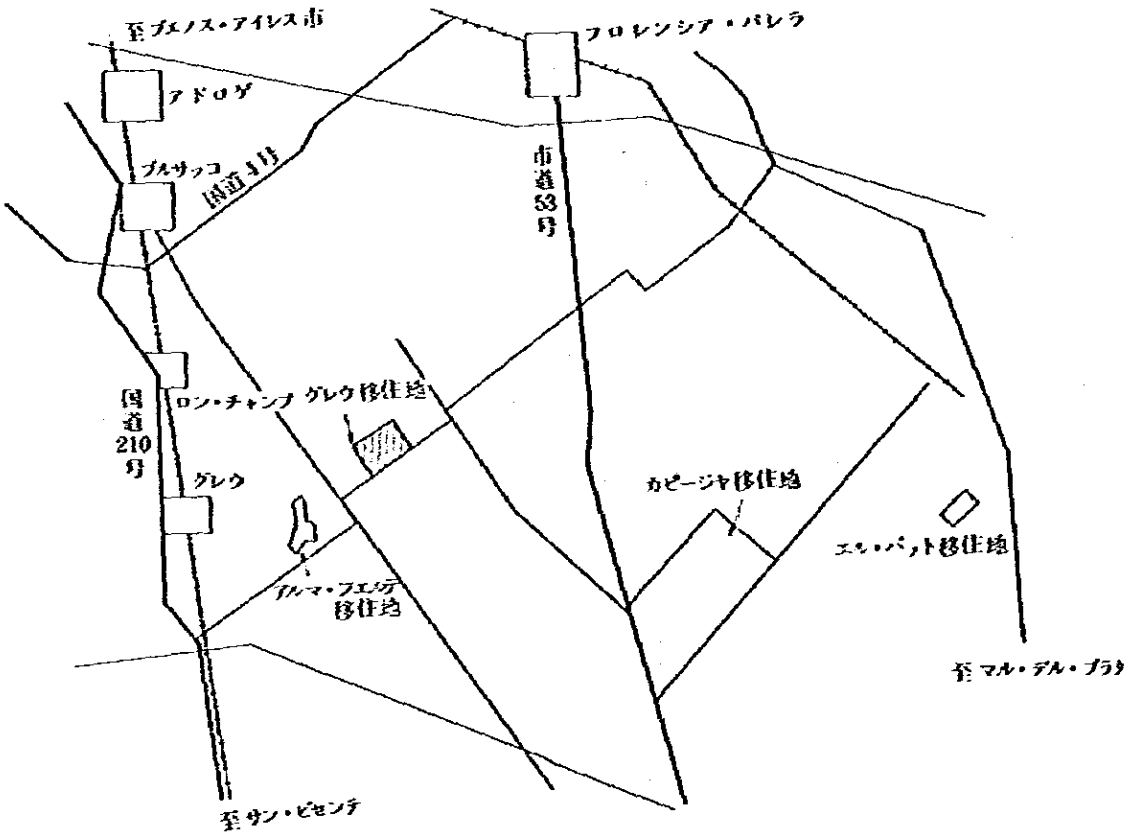
昭和58年4月1日現在

分譲状況		
	総面積	75ha
	ロッテ面積	2.9ha
	分譲条件および価格	一括払　2,405千円 分割払　頭金481.1千円　3年据置3年分割払，利息　19%
	分譲状況	分譲可能面積　62.3ha（21ロッテ）
		分譲済面積：623ha(21ロッテ)　道路公共用地：12.7ha
	地産取得	土地代未完済のため21ロッテ全未取得

昭和58年3月末現在

農業		
	主作目	カーネーション，キク，トマト，パイナップル
	形態	カーネーション，キク，バラの花卉と蔬菜との複合経営
	農機具普及状況	トラック0.4台　耕耘機0.7台　トラクター0.6台　動噴1.1台他 （昭和57農年度）
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ブエノス・アイレス支部，INTA FLORENCE VARELA出張所
	金融機関	事業団ブエノス・アイレス支部，銀行
	主作物取扱機関	アルゼンティン花卉組合

地区略図


至ブエノス・アイレス市
アドロゲ
ブルサッコ
国道4号
フロレンシア・バレラ
市道53号
国道210号
ロン・チャンプ
グレウ移住地
グレウ
カピージャ移住地
エル・パット移住地
アルマ・フエルテ移住地
至マル・デル・プラタ
至サン・ビセンテ

11) エル・チャニャール移住地

所在地	ネウケン州アニェーロ郡 PROVINCIA DEL NEUQUEN DERARTAMENTO AÑELO	
面積	76ha	
経緯	今日までの小移住地設定については，花卉市場の将来性に対する懸念あるいは花卉栽培のみならず，果樹栽培への希望もあって，エル・チャニャール移住地は，ブエノス・アイレス近郊から離れてネウケン州にリンゴを中心として果樹栽培移住地を設定した。 入植開始は昭和48年からである。	
社会環境	主要都市より移住地への交通手段	移住地より約3km地点にビジャ・マンサーノ町があり，移住地より約40kmにネウケン市がある（ビジャ・マンサーノ町～ネウケン市）。バスが頻繁に往復しており，所要時間約1時間，ネウケン市より各都市を結ぶ長距離バス，および国鉄が運行している。交通至便。 ブエノスアイレス人口，陸路1,196km，ネウケン市，陸路10km，シポレエテイ市，陸路16km。
	市場	大半がブエノス・アイレス市
	飲料水	約10m掘削すると水が得られる。
	電化	電化完了。220V50サイクル3相交流
	移住地内道路整備状況	移住地内は砂利道である。
	公共施設	移住地内には特にないが，ビジャ・マンサーノ町に小学校と中学校がある。 高等学校，大学はネウケン市にある。 医療は，簡単な医療施設がビジャ・マンサーノ町にあるが重症患者はネウケンの病院に行かねばならない。
自然環境	地形	ネウケン河，河床地帯にて耕作可能，河岸市（河の北岸）約15km台地の距離約80kmの平坦地であり，標高約280mである。
	地質・土壌	リオ・ネウケンの沖積土壌であり，砂質壌土ないし砂質埴土とみられる。色状は灰黒色を示し，垂直分布は約2～3mであり下方は礫質である。 但し河岸に近いロッテ中には礫の混合している所もある。
	植生・林相	ハリーキ，ピーキラン，チャニャール，サンバア等乾燥地特有の灌木が見られる。 高さ1m程度，又植林は殆ど自然発生の森林はない。
		1～2月が最も暑い。最高平均気温22.5℃ 6～7月が最も寒い。最低平均気温 6.9℃

年間平均降雨量２０９㎜

入植世帯数	区分		入植数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	3	15	3
		非居住	−	−	4
		計	3	15	7
	現地人		−	−	−

昭和５８年１月１日現在

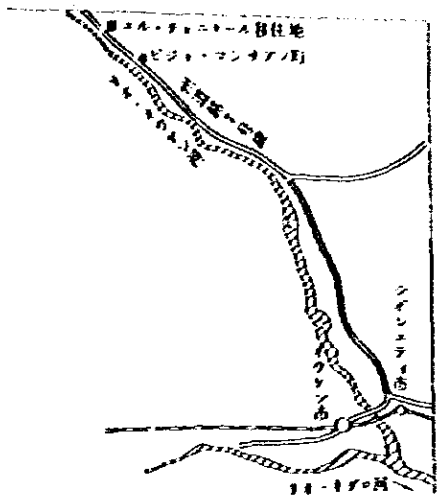
主な出身県名：北海道，沖縄

分譲状況		
	総面積	76ha
	ロッテ面積	10.9ha
	分譲条件および価格	一括払　4,163千円 分割払　116.3千円，4年据置5年分割払，利息19％
	分譲可能面積	76ha（7ロッテ）
	分譲状況	既て分譲済（7ロッテ）
	地権取得	7ロッテ中取得3ロッテ，未申請4ロッテ

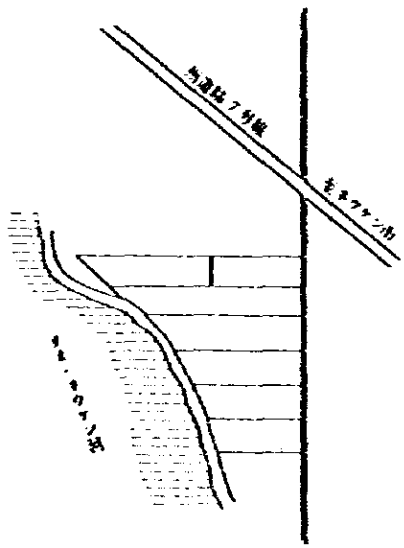
昭和５８年３月末現在

農業		
	主作目	イチゴ，メロン，インゲン，リンゴ
	形態	養蚕とリンゴとの複合経営
	農機具普及状況	トラクター 1.0台　トラック 1.3台，動噴0.7台（昭和５７農年度）
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ブエノス・アイレス支部　El Chañar移住管理事務所
	金融機関	銀行，事業団
	主作物取扱機関	リンゴ出荷組合
	その他	リンゴ植え付け は昭和４９年からである。

地区略図



移住地略図



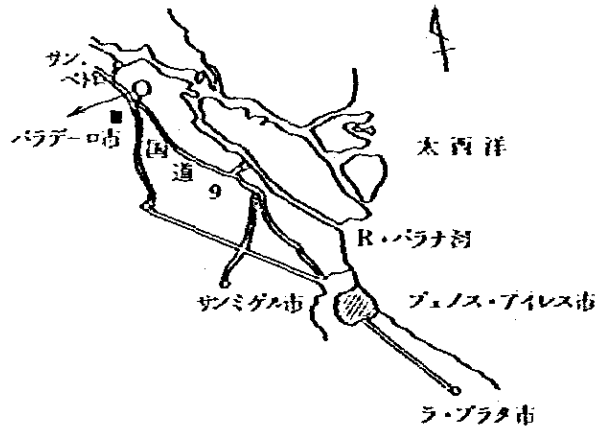
(3) バラデーロ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州バラデーロ郡 BARADERO, PARTIDO BARADERO, Pcia. DE BUENOS AIRES.	
面積	407 ha	
経緯	当事業団では、これまで、花卉栽培を主体とする小規模移住地を10カ所設置し、現に、アルゼンティンに移住していた花卉農業青年を主体とする自営独立希望者に対する農地分譲として便宜をはかって来たが、今般、従来の花卉主体の営農から一歩進めた果樹栽培を目的として、昭和57年3月本入植地を設置した。なお、本入植地の一区域については、本邦から直接入植し、購入を希望する者に対し分譲することとしている。	
自然環境	地形	対象地はパンパ・オンドラーダ（波状）の一部であり、その75％は波状の丘の上にあって、標高325～350m前後で概ね平坦である。残り25％はパラナ河の支流アレシーフェス川右岸に続く湿地に向って、北西の方向へ緩い1～2度の勾配の斜面を成して標高17.5mに達している。
	地質・土壌	土壌は亜熱帯プレーリーの暗赤黒色土壌又はパラナ河による沖積土からなり、粒状構造をもった厚い（30～75cm）暗色の美沃な腐植層をもっている。酸性が可成り強い。土性については、パンパシルトに象徴される如く、シルト質に富むA層はローム、B層は粘土質ロームまたは粘土が強い。
	気候	月平均気温　10.8～23.6℃　年平均気温　16.9℃ 平均最高気温　15.7～30.1℃　平均最低気温　5.5～16.9℃ 絶対最高気温　27.6～40.7℃　絶対最低気温　－6.7～6.7℃ 年平均相対湿度　66～83％ 月平均降水量　52.4～333.3mm　年平均降水量　1,073.7mm 降霜期間は4月末～10月中旬であるが、パラナ河の影響もあって降霜は少ない。 高さ2mにおける月平均風速9.0～11.9km/hr
	地下水	対象地区の地下水層は第1層が17m、第2層が25m、第3層が45mと言われている。現在入植者の飲料水等に利用されている。
社会環境	主要都市よりの交通手段	入植地の入口までアスファルト道路（舗装）が通り、北東約2kmの地点にはパン・アメリカン道路（RUTA 9）が通っている。長距離バス及び鉄道（ブエノスアイレス市、ロザリオ市を結ぶ鉄道が通過するバラデーロ市駅が、地区の北東5km地点にある）の便も良く、ブエノスアイレス市までの143kmは約2時間の行程である。

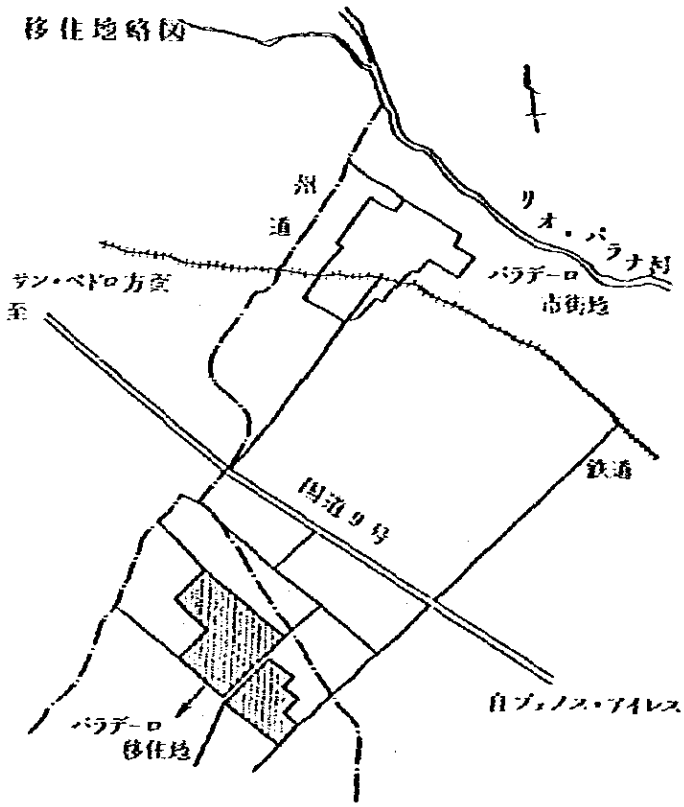
分譲状況		近傍都市状況 パラデーロ市　北東約 6km　人口約 30,000人 サン・ペドロ市　北西〃 30km　35,000人 サン・アントニオ・デ・アレコ市　南〃 55km　25,000人 カピトン・サルミエント市　南西〃 54km　25,000人 ペレン・デ・エスコバール市　東南〃 94km　45,000人 ブエノス・アイレス市　東南〃 143km　3,260,000人
	市場	ブエノス・アイレス市
	地区内道路整備状況	土道
	電気	近くに高圧線が走り，変電施設を設ければ導入は容易である。
	飲料水	適用可能の水質である。
	公共施設	対象地区は現在のところ不在地主が大半であり，一面のパンパ平原となっているため，公共施設の利用は近傍都市になる。 パラデーロ市の公共施設としては， ① 教育施設：幼稚園，小学校，中学校，高校（普通科，商業科，工業科） ② 医療施設：国立，州立の総合病院の他，個人開業医院もある。 ③ その他：市役所，銀行，各種商店，娯楽施設等 があり，日常生活に大きな支障はないと思われる。
分譲状況	総面積	407ha
	ロッテ面積	約15ha
	分譲条件および価格	円建による分譲契約。 一括払：9,541千円（1ロッテ） 分割払：頭金10％（954.1千円），残額は4年据置5年分割払。 利息年3％ なお，総面積407ha（26ロッテの外に公共用地6ha）の中，8ロッテ（約122ha）については，日本からの入植者に対し分譲を予定している。
	分譲状況	26ロッテ造成済，未分譲　昭和58年3月末現在
農業	主作目	果樹
	経営形態	現在のところ標準として考えられているものとして，桃，梨，柑橘などの果樹と，入植当初は換金作物として蔬菜（イチゴ，ピーマン，トマト等），花卉（バラ，カーネーション等），雑穀（トウモロコシ，大豆等）があり，また，梅栽培の導入が検討されている。

農業	近傍地域の営農状況	当該地域の周辺は，パンパ・ウメダ（湿潤パンパ）の中でも地味の豊富な典型的な果樹穀倉地帯である。当該地域では大規模（約５０ha 以上）な穀物栽培（主としてトウモロコシ，小麦，コーリャン，ヒマワリ，亜麻，大豆等）と牧畜が主体である。柊，柑橘等の栽培を行っている者もある。

地区略図



移住地略図



03 ブエノス・アイレス市近郊移住地

概　況

ブエノス・アイレス市は，ラ・プラタ河の左岸に展開し，凡そ半径50kmの範囲内をグラン・ブエノス・アイレスと称され，アルゼンチン総人口28200千人のうち$\frac{1}{3}$に当る約9300千人が居住している。このグラン・ブエノス・アイレスの周辺に，日本人の集団ならびに当事業団創設の小移住地が散在し，アルゼンティン国政府農事審議会（Cosejo Agrario Nacional），あるいはブエノス・アイレス州政府創設にかかる移住地，その他個人所有土地の分割分譲地がある。

日本人の主な栽培作物は花卉栽培であり，カーネーション，バラ，菊が多く，この花卉栽培は戦前，北部のエスコバール方面から発展し，戦後フロレンシオバレーラ・ウルキッサ方面にまで拡がりをみせ，小資本，小面積でしかも短期間に安定した収益を得られたため，戦後移住者で特に青年，またボリビア，パラグアイ国からの転住者の再起あるいは独立に最も有利な業種として広まりをみせていた。

主な日本人集団地（参考）

移住地名または地区名	所在地	日本人入植者数 戸数	日本人入植者数 人数	経営主体
ウルキッサ (URQUIZA)	COLONIA URQUIZA MELCHOR ROMERO, LA PLATA 隣接の個人所有土地分譲入植者を含む	戸 109	(22) 553人	農事審議会
ラス・バンデリータス (LAS BANDERITAS)	COLONIA LAS BANDERITAS CITY BELL, LA PLATA	23	(1) 130	州政府
ビジャ・エリサ (VILLA ELIZA)	VILLA ELIZA CITY BELL, LA PLATA	27	(1) 143	個人所有地の分割分譲地
ポルテーニョ (PORTEÑO)	PORTEÑO CITY BELL, LA PLATA	3	11	同上
アウトゥーロ・セーギ (ALTURO SEGUI)	ALTURO SEGUI, LA PLATA	7	36	同上
サンタ・モニカ (SANTA MONICA)	EX ESTANCIA CHICA ABSTO LA PLATA	36	(4) 179	同上
第2 エル・パット	RUTA NACIONAL, PARTIDO DE BERAZATEGUI, PCIA. DE BUENOS AIRES	5	13	エル・パット移住地を参照
合　計		210	(28) 1065	

（註）（　）内は単身者人数を示す。　　昭和58年4月1日現在

以上の移住地は，ブエノス・アイレス市から凡そ５０ｋｍ隔れ南部に位置し，戦後に開発された地帯で，ウルキッサ移住地を除く他の移住地は，雇用青年あるいはガルアペー移住地，また日ボリビア，パラグアイ国からの転住者が相当数入植し，日本人集団地を形成してきた。

ウルキッサ移住地は，アルゼンティン国農事審議会の直営移住地であって，アルゼンティン人農業者の独立農創設とブエノス・アイレス市ならびにラ・プラタ市へ食業の供給を目的として創設されたもので，アルゼンティン以外にＩＣＥＭ（欧州政府間移住委員会）に１００ロッテを留保し，欧州からの移住者の入植を認めた。折しも，１９６１年（昭和３６年）１２月，フロンディシ大統領訪日の際，アルゼンティン側は派米農業青年訓練に着目し，同訓練終了者を導入すれば，アルゼンティン農業開発に大いなる貢献を行なうであろうとの期待のもとに，特別措置として派米青年の入植を許可することとなった。最初は９戸（９ロッテ）であったが，日本側の追加申請により更に３戸（３ロッテ）が認められ，最終的には１３戸が入植することとなった。また本移住地には亜国人と同様に農事審議会に直接申請し，その選考を経て日本人が１３戸入植し合計２６家族で，日本人入植者は移住地の約半分以上を占め，スペイン，イタリア，ポルトガルその他各国系入植者で構成されるウルキッサ移住地では，大きな比重を占めるに至っている。

営農は酪農を目的として創設された移住地であるが，酪農の収益が極めて不安定なため，温室による花卉栽培が始まり，農事審議会もこれを認め，現在ではウルキッサを中心にした周辺地域は，大きな花卉生産地として発展しているものである。また，ウルキッサ移住地には，事業団の援助により１９８０年４月に建設された公民館がある。

パラグアイ共和国

Ⅶ　アスンシオン支部

パラグァイ共和国

Ⅶ アスンシオン支部

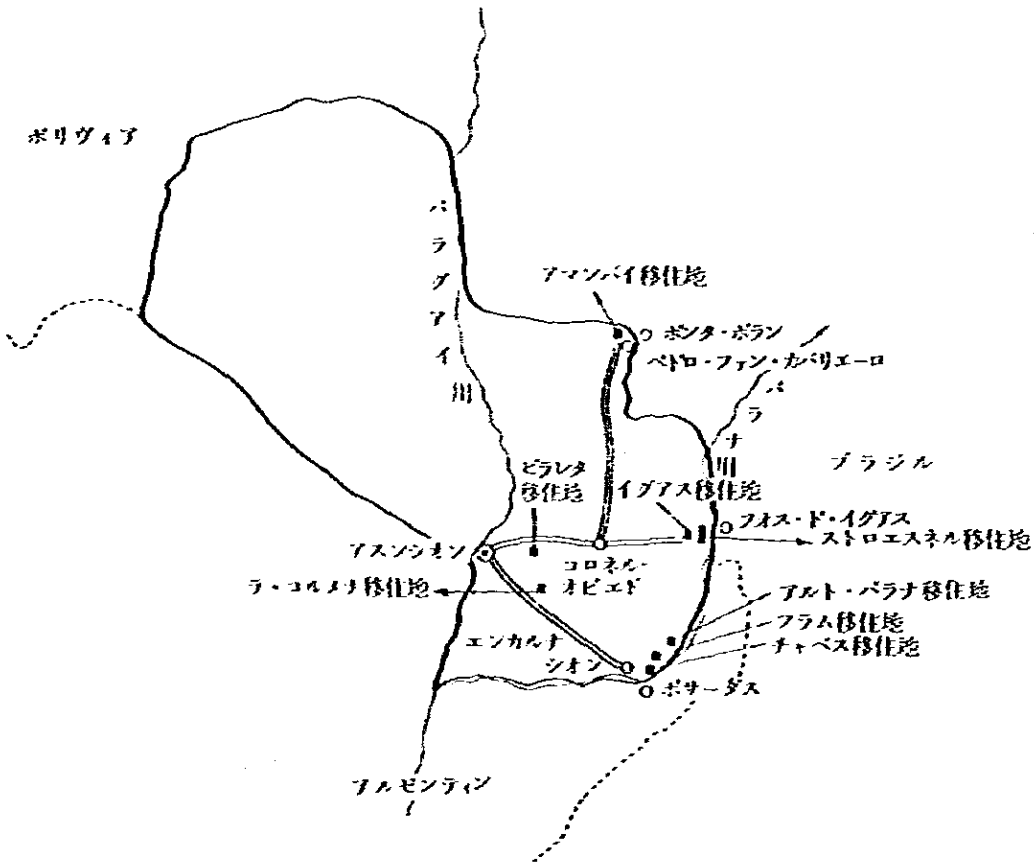
支部機構

アスンシオン支部
（アスンシオン市）

- 総務課
- 業務一課
- 業務二課
- エンカルナシオン支所（エンカルナシオン市）
  - アルト・パラナ事業所（アルト・パラナ移住地）
  - パラグアイ農業総合試験場 アルト・パラナ分場（アルト・パラナ移住地）
- イグアス事業所（イグアス移住地）
- パラグアイ農業総合試験場（イグアス移住地）
- アマンバイ出張所（ペドロ・フォン・カバリエーロ市）

管轄地域

パラグアイ国全域



1. 基礎指標

首都：アスンシオン

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨
km² 406,752	1811. 5. 14	立憲共和制	カトリック(70%)	スペイン語(69%) グァラニー語(12%)	スペイン系とグァラニー族との混血(97%)白人(2%)その他(1%)	(Gs) Guarani

1. 人口，人口密度，人口増加率

人口＼年度	1960	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
人口(千人)	1,751	2,290	2,359	2,433	2,513	2,598	2,686	2,779	2,873	2,970	3,068	3,168
人口密度(人/km²)	−	5.3	5.8	6.0	6.2	6.4	6.6	6.8	7.1	7.3	7.4	7.8
人口増加率	−	−	3.0	3.1	3.3	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3

出典：SECRETARÍA TÉCNICA DE PLANIFICACIÓN

2. 産業別就業人口(1981年)

産業＼人口	人口(千人)	構成比(%)
農業・牧畜	148.3	14.6
鉱業及び採石業	2.4	0.2
工業	145.4	14.5
建業	60.4	6.0
電力・水道・衛生事業	4.5	0.4
運輸・通信	33.1	3.3
金融・商業・保険・不動産	111.6	11.1
サービス業	199.6	19.9
その他	−	−
計	1,005.3	100

出典：SECRETARÍA TÉCNICA DE PLANIFICACIÓN

3. 国民所得

(注)：公定レート：1 us$＝126 Gs (1981年11月1日現在)

所得＼年度	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
国民所得総額(百万Gs)	110,419	151,530	173,224	187,748	224,151	266,464	351,433	459,576
1人当り国民所得(Gs)	43,936	58,331	63,736	67,570	78,910	89,714	114,530	145,069

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY「CUENTAS NACIONALES 1973/1980 No.17, P−7 INGRESO NACIONAL, P−8 INGRESO NACIONAL PER−CAPITA, A PRECIO DE GUARANIES CORRIENTES」

4. 国内総生産（1980年）

項目＼金額	総生産額（Gs）	構成比（%）
農業	101,237,600	18.1
畜産	46,651,860	8.3
林業	16,402,250	2.9
狩猟・漁業	844,710	0.2
鉱業	2,284,700	0.4
工業	92,337,570	16.5
建設	34,317,110	6.1
電気	11,237,980	2.0
上下水道	1,685,240	0.3
運輸・通信	23,783,510	4.2
商業・金融	144,869,860	25.9
一般管理	19,115,040	3.4
住宅	14,992,960	2.7
その他	50,690,430	9.0
計	560,458,820	100.0

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY,「CUENTAS NACIONALES 1973/1980 №17, P－11 PRODUCTO INTERNO BRUTO. APRECIO DE GUARANIES CORRIENTES」

5. 物価指数（アスンシオン市）

1964＝100

項目＼年度	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
平均	142.9	178.9	190.9	199.4	228.1	241.3	309.3	378.7
食糧	155.5	194.0	202.9	211.5	235.3	265.8	344.1	409.3
住宅	120.6	150.8	164.6	169.7	183.2	194.9	238.5	292.8
被服品	121.6	146.8	165.9	175.7	188.8	210.8	259.7	314.7
その他	114.1	185.5	199.4	210.3	224.4	241.4	317.0	418.6

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY, Dpto. DE ESTUDIO ECÓNOMICOS.「INDICE DE PRECIO DEL CONSUMO」

1975＝100

物価＼年度	1976	1977	1978	1979	1980	1981
卸売物価指数	101.1	109.2	123.2	155.6	167.1	188.2
消費者物価指数	104.5	114.2	126.4	162.0	198.4	224.1

出典：海外経済協力便覧，1983

6. 輸出入構成（1982年）　　単位 千US$，%

輸出			輸入		
品目	金額	構成比	品目	金額	構成比
木材	44,189	13.4	食料品	23,899	4.1
肉製品	2,075	0.6	飲物・タバコ	38,185	6.6
皮革	6,911	2.1	燃料・潤滑油	154,242	26.5
タバコ	5,947	1.8	紙	13,357	2.3
工業原料・穀物	90,964	27.6	化学品・薬品	32,737	5.6
果樹・野菜	8,658	2.6	自動車及び部品	47,645	8.2
コーヒー豆	307	0.1	機械製品	9,675	1.7
植物油	18,783	5.7	農業機械及び部品	9,402	1.6
綿繊維	122,415	37.1	鉄鋼製品	39,516	6.8
精油	3,459	1.0	金属製品	14,537	2.5
油粕	2,422	3.8	機械類	105,358	18.1
その他	13,654	4.2	その他	92,921	16.0
計	329,784	100.0	計	581,474	100

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY（BOLETIN ESTADISTICO）

2. パラグァイへの日本人移住の歴史

パラグァイへの日本人集団移住は，1934年ブラジルで外国移住制限法が制定され，ブラジルへの移住が制限されたことがきっかけとなり，パラグァイの許可をとり，アスンシオン市東南132 kmのラ・コルメナに土地を購入，同年8月第一陣11家族81名が入植したことに始まる。ラ・コルメナ移住地には，第二次大戦により移住が中断される迄の間123家族790名が入植した。

戦後は，1954年ラ・コルメナに9家族が入植することにより移住が再開され，またパラグァイ東南部のエンカルナシオン市に近い国営チャベス入植地にも入植した。1954年に設立された日本海外移住振興株式会社（国際協力事業団の前身）は，当時の日本国内の海外移住熱に対応して1955年フラム移住地，1959～61年に亘り，アルト・パラナ移住地，1960年にイグアス移住地とあいついで移住地の取得造成を進めた。一方，1956年～58年にかけて，パラグァイ北部，ブラジル国境に近いペドロ・フォン・カバリエーロ市近郊のアメリカ人経営のコーヒー園に雇用農として173戸が入植するなど，1950年後半から1960年前半にかけ，パラグァイ移住は最盛を極めた。この間において，わが国は移住協定の締結により30年間に亘り85,000人の日本人移住者の受入枠を得たが，わが国の経済の急速な成長に伴い移住者の送出は急減し，今日に至っている。

なお，戦後当国へ9,136名が移住した（昭和58年3月31日現在）

パラグアイ在留邦人及び日系人数内訳

項目 / 地域	総数(1+2)			1. 長期滞在者			2永住者(日本国籍保有者)			3. 日系人		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
アスンシオン	1,370	1,137	2,507	132	93	225	1,238	1,044	2,282	548	615	1,163
エルカルナシオン	1,438	1,351	2,789	34	12	45	1,404	1,339	2,743	369	409	778
計	2,808	2,488	5,296	166	105	271	2,642	2,383	5,025	917	1,024	1,941

出典：昭和56年度及び58年度海外在留邦人数調査統計（外務省領事移住部）より抜萃

3. 移住地所在地域の概要

(1) イタプア県の概要

県内移住地	フラム移住地，チャベス移住地，アルト・パラナ移住地
概要	イタプア県は16,625km² を有し，平均標高は200m，高地で350m，低地100mというなだらかな起伏を持った地形である。平均気温 21.8℃で亜熱帯に属し，夏は暑く多湿，冬は涼しく乾燥する。年間を通じて昼夜温度較差は大きい。降雨は6～8月に多く冬作物を乾燥するが，パラナ河沿いの地方は無霜期間が長い。雨量は年間1,700～1,800mmで比較的年間を通じて平均して分布し，農業に好適な条件を与えている。 県面積のうち85%（14,000km²）は農用地に適し，そのうち9,200km²（56%）は潜在可耕地と推定されているが，現在の耕作面積は3,000km² にすぎない。 総人口は21万人，パラグアイ国の約8%に当る，県庁の所在地はエンカルナシオン市で人口約5万人，同市を含むエンカルナシオン郡をはじめ18の郡（distrito）がある。 1800年代末からヨーロッパ系移住者が入りパラグアイ国の中でも最も多くの外国人移住者を受け入れており国際色豊かな県である。県下に対宣教活動基地の遺跡がJESUS，TRINIDAD，SAN COSME 等に見られ，1609年から1768年のイエズス会神父の引揚げまでの約160年間に文明化と開発の基礎が築かれた。
産業	〔農業〕 農牧業国パラグアイの中での土壌条件をはじめ各自然条件が最も農牧業に適しているイタプア県は早くから開発が進められてきたが，現在まさに中心県になっている。 主作物は大豆で全国の60%がここで生産されている。大豆栽培における日本人移住者が果した役割は大きい。大豆の他，小麦は全国の45%，トウモロコシは同17.9%，綿花は同123%を占めるなどその比率は大きく，畜産では，牛は100%が同県で生産されている他，マテ茶，材木等の生産も多い。 〔工業〕 農産物関連の工業が主体で農産加工の主なるものは搾油，精穀，マテ茶加工，材木，製粉等であり，

	木材加工については，製材，合板等がある。
インフラストラクチャー	現在舗装道路はアスンシオン，エンカルナシオンを結ぶ国道並びにエンカルナシオン～ピラポ間の道路である。エンカルナシオン，ピラポ間の道路は，アスンシオン，エンカルナシオン，ストロエスネルの南部三大都市を結ぶ，いわゆる三角プランの一部をなし，世銀の借款により大林組の手により工事着工され，1980年舗装が完成された。 ピラポからストロエスネルへ向けての道は約２００Km途中２０Km程の材木搬出の道路を除いて殆ん貫通しているが雨の場合は通行不能となる。 県下各地に電話公社（ANTELCO）出先があり，電話は北のカピタン・メサまで通じている。農産物の輸送は県南部では，トラックによりエンカルナシオンまで運ばれ，エンカルナシオン港より船積み，貨車積みの方法によっているが北部では直接パラナ川へ輸送して船積みされている。 事業団は，フラム，チャペス，アルト・パラナ移住地の道路対策（工事費，機械購入）として，昭和５１年度から同５７年度までの間に総額433,808 千円を援助した。
主要都市	（エンカルナシオン市） パラグァイ第３の都市で同市人口約27,900人（1980年推定），アスンシオンから国道１号線365Kmで結ばれ，パラナ河をはさんでアルゼンティン国ポサーダス市と対面している。 イタプア県を中心とする南部パラグァイ地方の綿花，煙草，マテ，大豆等の農産物，木材皮革等の集積地輸出港として発展してきている。また，アルゼンティン経済の影響が町の活況を左右する国際都市である。

(2) アルト・パラナ県の概要

県内移住地	イグアス移住地，ストロエスネル移住地
概要	アルト・パラナ県はパラグァイ国の東部に位置し，パラナ河をはさみ，ブラジルと国境を接している。面積は14,895Km² あり，人口は 168千人（1978年）である。 アルト・パラナ県は，パラグァイ国の中で最も肥沃な地帯であり，政府はこの地域での農業及び農業関連産業の開発を最優先目標にあげており，その農業生産量も多い。 同県はイグアスの滝，イタイプダム及びその関連物である大人造湖，モンダイ牧谷，プカライ牧谷，ニャクンダイ牧谷，共和国の湖，グワヤキィ国立公園等の観光地，民俗ダンス，民族音楽等豊富な観光資源に恵まれ，今後の観光インフラストラクチャーの整備に伴って内外からの観光客が急増するものと期待されている。 また，１９６６年に架けられた友好の橋はブラジルのFoz do Iguacu とストロエスネル市とを結びさらに大西洋岸のパラナグア港と舗装道路で結ばれており，貨客の国際流通に対するパラグァイ国の東部の玄関として果す役割も大きい。

県内主要都市	プレシデンテ・ストロエスネル市 アスンシオン市からブラジルに通じる国際道路327kmの国境に新しくできた町で人口29,830人，パラグァイ第2の都市である。近年パラグァイとブラジル両国間のあらゆる面での交流を反映し，急速に発展，エンカルナシオン市をしのぐ活気のある都市である。また，イグアス瀑布（ブラジル領とアルゼンティン領にまたがっている）をひかえた観光都市でもある。

4. 移住地の概要

(1) フラム移住地

所在地	イタプア県アペレア郡フラム移住地 COLONIA FRAM DISTRITO DE APEREA, (JURISDICCION DE CARMEN DEL PARANÁ), DEPARTAMENTO DE ITAPÚA, PARAGUAY	
面積	16,056 ha	
経緯	旧日本海外移住振興会社が，1956年（昭和31年）に現地のフラム土地会社所有地のうち16,057 ha を分割購入して造成した移住地である。 （購入価格　26,600千円） この地域への邦人入植は，1955年（昭和30年）フラム土地会社の分譲地に，6家族が入植したのがはじまりである。 その後，1956年（昭和31年）末には広島県沼隈町を中心とした分村的移住，更に1957年（昭和32年）に，高知県大正町を中心とした数ケ町からなる集団移住が行われる等，5ケ年間で371戸を迎え，1960年（昭和35年）代に移住満植となった。しかし，その後経済の低迷　土地不足等により約半数が国内他地区，アルゼンティン等へ転住し，残留者がその跡地を購入して面積拡張を計り今日に至っている。 入植者のうち，一部はアペレア地方のロシア人移住地の古い耕地を入手し落着いたものもある。 現在177戸が入植定住している。	
自然環境	地形	パラナ河より奥地に向いゆるやかな傾斜で高くなり移住地内は比較的起伏に富み，波状形を呈している。 移住地内には，数本の小川が流れており，標高は最高200m，最低180mで平均標高は190mである。
	地質・土壌	玄武岩を母岩とした風化土壌で，一般にテーラロシャといわれ，赤褐色を呈し，表層は埴質土または壌土，下層は埴土で地味は肥沃である。地層は低湿地では薄く，斜面にあっては積層岩盤が露見される。土壌構造がよく発達しており透水性は粘土含量が多いにかかわらず一般に良い。pHは5.5程度の弱酸性である。
	植生・林相	高地は亜熱帯植林（グッタンブー，カナフィスト，ラオ等）が続き，低地は湿地性雑木林及び耐湿草本が繁茂している。 有用材はすでにその殆どが伐材として伐り出されておりその量は僅かである。
	気候	最高平均気温29.5℃，最低平均気温15.3℃，年間平均気温22.6℃である。 乾期は12月～2月の盛夏期，雨期は9月～11月の春先から初夏とされているが特に明瞭な区分はない。年間平均降雨量は2,000mm程度。 降霜・降雹等 降霜：冬期7回～12回（激変の降霜は年2～3回） 降雹：9月～11月の春期に2～3回程度の降雹あり。但し10年に1度程度の

		頻度で大停電あり。
社会環境	主要都市からの交通手段	エンカルナシオン市から移住地入口まで，国道6号線で18Km，ここから中心まで約27Kmである。国道は，アスファルト完全舗装されている。 移住地とエンカルナシオン市間には毎日2往復のバス便が運行されている。（移住地内は幹線を走行。）
	市場	エンカルナシオン市が最も近い市場であり，殆んどの農産物はエンカルナシオン市で取引されるが，一部青果等は，アスンシオン市，または，アルゼンティン領のポサーダスまで，出荷，販売される。
	移住地内道路整備状況	チャベス移住地よりフラム移住地への幹線及び地区内幹線，支線を併せ，道路延長は約180Kmに及んでいる。幹線道路は昭和51年度から5ケ年計画により砂利舗装された。
	電気	電気はまだ導入されていない。灯火としては，一般的に石油圧縮ランプ及び小型自家発電機が使用されているが，市街地中学校，診療所等公共施設では自家発電が行なわれている。
	飲料水	各戸，施設とも井戸水を利用している。
	公共施設 事業団援助	学校（スペイン語教育）　昭和57年3月31日現在 （西　語） フラム中学校（教員数3人　生徒数　51人　内，日系人37人） サンタ・ローサ小学校（〃　3人　〃　67人　内，〃　50人） 富士小学校（〃　4人　〃　115人　内，〃　33人） ラ・パス小学校（〃　5人　〃　161人　内，〃　65人） （日本語教育）　（昭和58年8月末現在） フラム中学校（教員数2人　生徒数　39人） サンタ・ローサ日語小学校（〃　5人　〃　49人） ラ・パス日語小学校（〃　3人　〃　66人） 富士日語小学校（〃　3人　〃　36人）（昭和58年7月末現在） 診療所 医療技師1人　看護婦3人 役場事務所 公民館（1972年9月完成） 倉庫
	自治会・農協等	組合事務所，倉庫，宿泊所，農産物調製所

人口戸数と人員の推移

年度（昭和）	30	31	32	33	34	35	36	37	38
戸数（戸）		17	99	111	37	77	1		1
人員（人）									

年度（昭和）	39	40	現地入植者数
戸数（戸）			83
人員（人）			443

昭和56年10月現在

主な出身県名：高　知，愛　媛，広　島，北海道，福　岡，徳　島，宮　城，熊　本，東　京，鹿児島

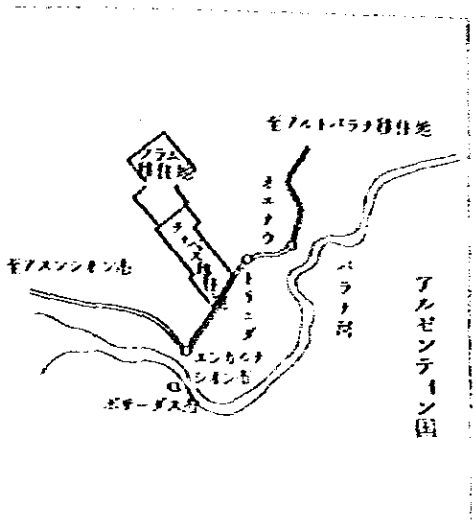
入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	177	1,012	149
		非居住	－	－	－
		計	177	1,012	149
	パラグァイ人	居住	60	350	－

昭和58年4月1日現在

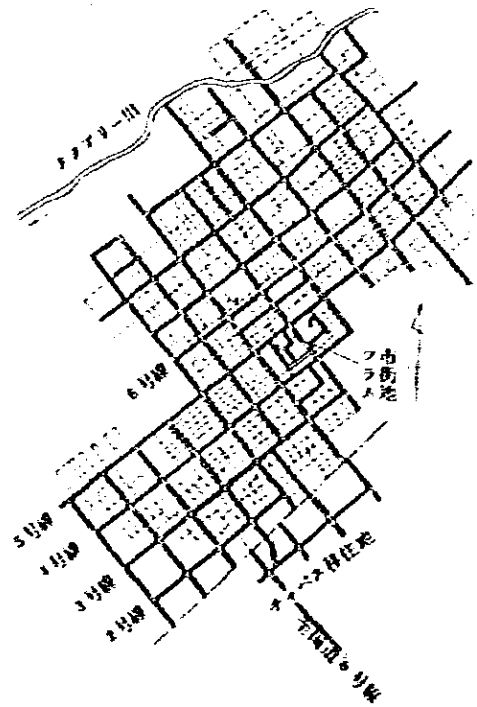
分譲状況	総面積	16,056 ha
	1ロッテ面積	25 ha(農耕地)　2,500㎡(農住区)　28,000㎡(小農園)　191,606㎡(牧場区)
	分譲条件及び価格	農耕地：一括払　156.5千円　分割払10年／一括払　88.25千円　分割払10年　4年据置，5年分割払，利息5%
		農住区：一括払　53.5千円　分割払50年／小農園区：一括払　124.8千円　分割払25年／牧場区：一括払　854.6千円　分割払25年　据置なし，5年分割払，利息5%
	分譲可能面積	15,849 ha　農耕地　15,649ha(601ロッテ)／市街地　200ha(124ロッテ)内訳：農住区81ロッテ，小野園区40ロッテ，牧場区3ロッテ
	分譲状況	農耕地：全て分譲済 市街地：分譲済81ロッテ，内訳(農住区56ロッテ，小農園区28ロッテ，牧場区　未分譲)　昭和58年3月末現在
	地権取得	農耕地　全ロッテ取得 市街地　分譲81ロッテ中71ロッテ地権発給済み，未発給は13ロッテ　昭和58年3月末現在
農業	主作目	大豆，小麦，マユ，油桐
	形態	大豆，小麦，マイス等，畑作を主体に養蚕，油桐，若干の畜産，米作等である。行政は，大型畑作経営を目標としており，機械化が進んでいる。
	農機具普及状況	コンバイン0.6台　トラクター1.5台　トラック(大型)0.4台
	家畜飼養頭数	肉牛(成)22頭，(仔)0.5頭　豚(成)18頭，(仔)0.9(昭和57年農年度)
	営農誘導機関 営農指導	移住地内には営農指導機関はないが，当事業団ブルトパラナ分場及びエンカルナルオン支所が指導に当っており，また必要に応じ関係当局の指導，協力を受けている。
	金融機関	事業団，国立勧業銀行(BNF)，市中銀行
	主作物販売取扱	殆んど農協を通して出荷
	その他	かって主幹作物は油桐であったが，収益が長く続いたことにしびれをきらしたことと，手っとり早く畑作地を増やすため，これを伐採してしまった者も多く　現在の主体は大豆または養蚕と変わってきた。 特に大豆は，もともと日本人移住者がこの地で初めて企業化した作物であるが，イ

桑		タブラ地方の肥沃な土壌によく成育し，その品質の良さと相俟って，ペルーにおける植物油生産の伸びと共に需要が旺盛となり，また機械化による経営規模も拡大され，作付面積は年々増加している。養蚕についても，日本からの乾繭工場進出と同時に導入されて以来年々順調に伸びたが，石油ショック以来，乾繭の日本向け輸出が伸びないため低迷状態である。

地区略図



移住地略図



(2) チャベス移住地

所在地	イタプア県ヘスス・イ・トリニダ郡プレジデンテ・フェデリコ・チャベス COLONIA PRESIDENTE FEDERICO CHAVES, DEPARTAMENTO DE ITAPUA, PARAGUAY	
面積	68,000 ha	
経緯	昭和28年，パ国政府が貧民救済と農業国として繁栄をはかることを目的として，国内の有望農業候補地であるイタプア県内の民有地を買収し，当時の農業改良局管理のもとに創設されたもので，時の大統領の名前を記念して FEDERICO CHAVES 移住地と命名した。 昭和27年，有限責任ブラジル拓殖組合が，ラ・コルメナ移住地に日本人120世帯を導入の枠を取得したが，入植適地が殆んどなかったため受入不能の状態であった。当時在パの笠松，石橋氏等は，この状態の打開をかねて，当チャベス移住地に日本人を導入すべく引受機関として「日芭拓殖組合」（戦後移入移住者受入れの組合）を設立し，並行して120家族（各戸当り20 ha）受入の枠を取得した。そこで先ず第1陣として昭和28年に，ラ・コルメナ移住地より日本人家族8世帯（戦前移住者）が転住した。その後，昭和29年に日本から第1陣6家族を受入れ，以来昭和34年まで入植した。この地区は他のフラム，アルト・パラナ等の事業団造成の移住と異り日芭混合の移住地である。 現在は37世帯に減少しているが転出の主な理由は土地不足によるものである。	
自然環境はフラム移住地を参照		
社会環境	主要都市からの交通手段	エンカルナシオン市から移住地まで国道6号線（完全アスファルト舗装）で20 km 交通は至便
	移住地道路整備状況	移住地内幹線は砂利舗装，支線は盛土
	公共施設 事業団援助	学校 チャベス小学校（西語）　教師4名，生徒数145名（内，日系人12名） ウルグァイ小学校（西語）　〃 2名，　〃　101名（〃　〃　3名） （事業団建設） （昭和58年8月末現在） 小　学　校（日語）　〃 2名，　〃　23名（昭和58年7月末現在） 組合事務所兼倉庫，公民館（1979年3月完成）
	組合，自治体等	共同販売所 駐在所 カピタン・ミランダ警察官詰
	その他	中学校はフラム中学に寄宿またはエンカルナシオン市内の中学校，高校に下宿通学している。 医療は，フラムの事業団診療所または，オエナウのドイツ人病院及びエンカルナシオン市の国立病院を利用している。

市場	ブラム移住地（200ページ）参照
電気	
飲料水	

人口戸数と人員の推移

年度（昭和）	29	30	31	32	33～39	40	41	42	43～50	51
戸数数（戸）	9	99	21	2		1		1		1
人員（人）	62	645	147	10		4		6		1

主な出身県名：北海道，福島，宮城，山口，熊本，香川，福島

昭和56年10月現在

入植者戸数

区分	入植数	入植世帯数 戸数	入植世帯数 人員	農家戸数 戸数
日本人	居住	37	231	37
	非居住	0	0	0
	計	37	231	37
パラグァイ人	居住	220	1,500	－

昭和58年4月1日現在

土地状況

総面積	68,000 ha
分譲可能面積	65,000 ha（浅ロッテなし）
1ロッテ面積	20 ha
分譲条件及び価格	--

分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用	保留地
	65,500 ha	0 ha	2,500 ha	0 ha

地権取得	取得 700名，申請中 300名，未申請 200名

昭和56年3月31日現在

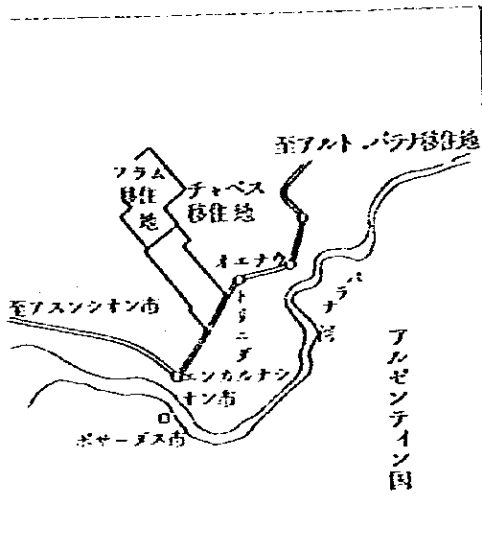
農業

主作物	大豆，小麦，綿花
農機具普及状況	コンバイン0.8台，トラクター1.6台，トラック0.7台
家畜飼養頭数	肉牛（成2.3 仔0.6頭）豚（成1.9仔1.1頭）羊（成16.7頭）

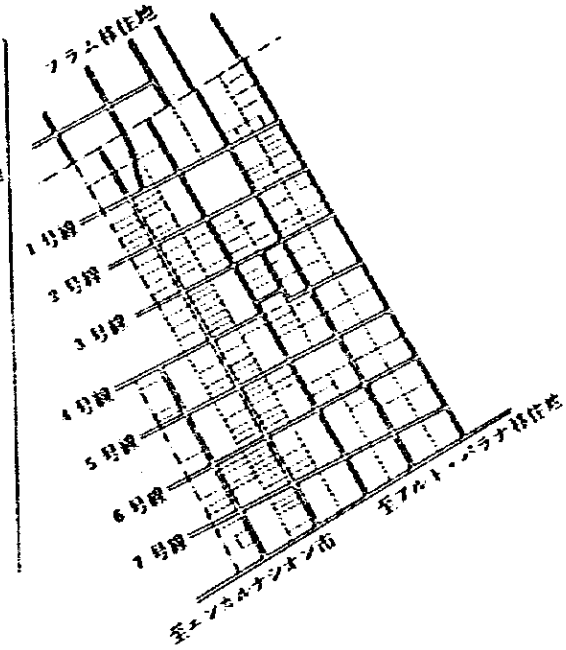
（昭和57農年度）

移住者	ブラム移住地を参照
営農援護機関	
営農指導	
金融機関	
主作物販売取扱	

地区略図


至アルト・パラナ移住地
ソラム移住地
チャベス移住地
オエナウ
至アスンシオン市
トリニダ
パラナ河
アルゼンティン国
エンカルナシオン市
ポサーダス市

移住地略図


ソラム移住地
1号線
2号線
3号線
4号線
5号線
6号線
7号線
至アルト・パラナ移住地
至エンカルナシオン市

(3) アルト・パラナ移住地

所在地	イタプア県ベラ・ビスタ郡 COLONIA ALTO PARANÁ, DISTRITO DE BELLA VISTA, Dto. DE ITAPÚA, PARAGUAY
面積	84,217 ha
概要	事業団の前身日本海外移住振興株式会社は，パラグァイ国第2の移住地として，フラム移住地の造成にとりかかり，昭和33年3月アルカスソル植民会社より約23,095haを譲入し，これに加えて翌年6月その北部に隣接するカレンメ地区さらに10月ピラポ地区の南部に接するアカカラジャ地区の私有地を譲入し，現在の移住地全域の譲入を完了した。昭和38年8月2日，アカカラジャ地区に，日本から第一陣移住者として26家族が入植した。 今日のアルト・パラナ移住地は，南部パラグァイにおける大豆，麻，綿，稲米の一大生産地に発展，これら関連企業が資材を求めて移住地内およびその周辺に進出し，操業している。また，片倉工業及び伊藤忠の出資により，パラグァイ綿糸紡織工業株式会社が設立され，昭和45年移住地内市街地に紡織工場を建設した。現在入植定住者は309戸であり，満員状態である。
自然条件	地形：大陸棚の比較的起伏に富む地形を示し，全体的に北西部からパラナ河のある南東部にかけ傾斜して低くなっている。標高は最高348m最低99m，地区内最大の標高差は250mであるが，全般的には比較的緩斜の多い地形といえる（平均標高約220m）。 地質・土壌：当地区の高位部では，土層は一般に厚くテーラロシャ（玄武岩を母岩とする風化土壌である暗赤色ラテライト化土壌）が5m～10mに達し，低平な地域（ピラポ川マンドセジュ川の沿岸など）では，一般にテーラロシャの土層薄く，緩斜面にあっては表面近に礫層，砕石または岩盤が散見される。なお概して森林下は腐植，土壌構造も良く発達して角塊状を呈し，そのため透水性は粘土含有が多いにも拘らず一般に良い。土層は深く，通常4～5m以上であり表層は腐植3～4位，pHは5～6程度の弱酸性で，可溶塩の溶脱の含有は低いが，石灰は一般に高い。 植生・林相：森林は林層が厚く，中には胸高6m樹高20m近い巨木も存在する。樹種としてはグワタンブ・グワイカ，カナフィスト等が多く，用材としては有名なラパーチョを始めセドロ，ローロネグロ，インシエンソがあるがその量は少ない。グワタンブ・グワイカは軟材であるが，家具材・板材等に用いられる。 低地部は林層が薄く，乗木又は粗草本が繁茂している。 気候：一般に6～9月の冬期が乾期，10～5月の夏・春が雨期とされているが特に明確な区分はできない。 冬期の気温は大陸内陸部の三寒四温的な傾向をもって，日温変化差は10～15℃冬期の平均霜日数は7～15日位と見られる。 年間降雨日数は60～90日，雨量は1,500～2,000mmであって亜熱帯多雨地域に属

社会環境		している。
	主要都市からの交通手段	県都エンカルナシオン市まで舗装道路，オエナウ，オブリガード経由72km。小型バスで約3時間であり，1日8往復のバスの便が運行している。
	移住地内道路整備状況	幹線・支線とも盛土で良好に整備されている。但し，雨天の場合道路保全のため，治路委員会（自治会）が各車輌の通行を一時遮断している。
	市場	エンカルナシオン市と対岸アルゼンティン国ポサーダス市及びアスンシオン市が主な市場である。
	電気	市街地のみISEPSA乾　工場の発電機（75kw）が供給受益者約30戸，その他農耕地移住者は自家発電もしくは圧縮ランプ
	飲料水	全戸井戸使用で通常数mから12～13m掘削すると良質で豊富な水が出る。又，最近自家発電あるいは，エンジンによる揚水ポンプの利用が目立っている。
	公共施設事業団援助	教育関係 （西語教育） アカカラジヤ23km小学校（教師4，生徒163，内，日系人68），ピラポ22km小学校（教師3，生徒127，内，日系人63），ピラポ13km小学校（教師3，生徒92，内，日系人45）（以上事業団建設），ピラポ市街地小学校（教師4，生徒95，内，日系人54），カブレンズKM6小学校（教師1，生徒20，内，日系人7），ピラポ市街地中学校（教師7，内，青年海外協力隊員3，生徒83，内，日系人56）が設置されている。（昭和58年8月末現在）これに教員宿舎が附帯している。また，ピラポ22km地区に小学校宿舎が設けられ，移住地開発の拡大に伴い，学校から遠方に入植した移住者の子弟を収容している。 （日語教育） 移住地内に，小学校3カ所，中学校2カ所が設けられ，他に，カトリック系幼稚園（市街地）がある。毎週土曜日または日曜日を決め，1日6時間（国語，音楽，体操等）の授業が行なわれている。校舎は，父兄会が建設したもの或いは公民館が利用されている。ピラポ第1小学校（教師5，生徒71），ピラポ第2小学校（教師3，生徒68），富美林小学校（教師3，生徒62），ピラポ中央小学校（教師5，生徒74），ピラポ中央中学校（教師6，内，青年海外協力隊員1，生徒68），ピラポ中学校夜間（教師5，生徒22）（昭和58年7月末現在） 医療関係 アルト・パラナ診療所が市街地に設置されている。 医師2名，看護婦4名，常時救急車（運転手）が待機している。 診察室，レントゲン室，分娩手術室等完備，入院可能である。 治安関係 移住地内4カ所の警察所および長事事務所（市街地）が設置され，常時パトロールが行なわれるなど治安体制は良好である。
	その他	自治会，農協等 自治会運営として，中央公民館（市街地にあり，事業団が1973年3月建設した。）ならびに各地区に公民館がある。 農協運営は，本部事務所，産業共同利用所（市街地）および下　組織として実行組合等の施設がある。 農牧省直轄，ピラポ2kmサイロ，農林業開発試験センター及び農業機械化センター，

社会環境

主なる現地法人	共同墓地，電話局，郵便局 カブサ社ピラポ工場（搾油） 矢口商会（タイワン樹，法人農産物取引他） 現地法人穀物取引出張所（サイロ設置）数カ所。

人口戸数と人員の変遷

年度	35	36	37	38	39	40	41	42～50
戸数	82	168	40	18	17	2	1	
人員	437	912	213	95	91	11	4	

年度	51	52
戸数	1	1
人員	5	7

昭和56年10月現在

人種別戸数

区分	人種数	人種世帯数 戸数	人種世帯数 人員	農家戸数 戸数
日本人	居住	309	1,768	211
	非居住	－	－	－
	計	309	1,768	211
パラグアイ人	居住	220	1,200	－

昭和58年4月1日現在

分譲状況

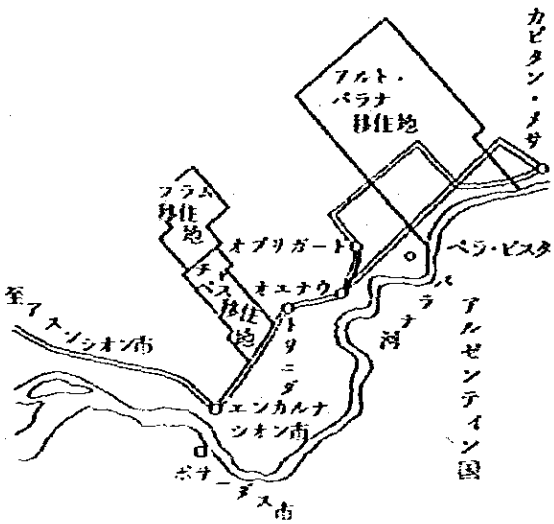
総面積	84,217ha
分譲可能面積	81,508.4ha　1. 農耕地　81,225ha（1,735ロッテ） 2. 市街地　573ha（147ロッテ）
ロッテ面積	小口10ha，小型30ha，大型60ha，大口300ha
分譲条件および価格	農耕地： 大口300ha　一括払　6,8196千円，分割頭金　10％　据置なし，10年分割払，利息5％ 大型　60ha　一括払　1,36392千円，分割頭金　10％　据置9年，5年分割払，利息5％ 小型　30ha　一括払　68196千円，分割頭金　10％　据置9年，5年分割払，利息5％ 小口　10ha　一括払　7656千円，分割頭金　30％　据置なし，5年分割払，利息5％ 市街地： 商業区1等　2500㎡　一括払　255千円，分割頭金　50％，据置なし，5年分割払，利息5％ 〃　2等　〃　〃　215千円，〃　50％，〃　〃　〃 居住区1等　〃　〃　185千円，〃　50％，〃　〃　〃 〃　2等　〃　〃　150千円，〃　50％，〃　〃　〃 小農業2等　25,000㎡　〃　575千円，〃　25％，〃　〃　〃 〃　3等　25,000㎡　〃　175千円，〃　25％，〃　〃　〃 昭和58年3月末現在
分譲状況	農耕地：分譲済1,590ロッテ（75,701ha） 市街地：分譲済　311ロッテ（　119ha） 内訳（商住区196ロッテ，小農業区114ロッテ，工業区1ロッテ） 昭和58年3月末現在
売権取得	農耕地　1,590ロッテ中取得934ロッテ，未取得656ロッテ 市街地　311　〃　267　〃　〃　74　〃 昭和58年3月末現在

農業

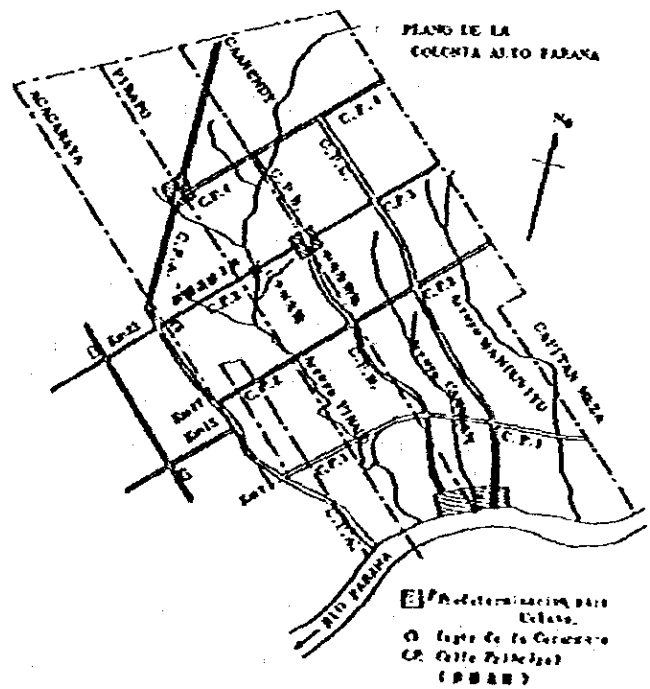
主作目	大豆，小麦，トウモロコシ，落花生，麦蕎，法樹，台湾樹
形態	大豆，小麦等を基幹作物とした大型機械化単作経営が中心，これに落花生，麦蕎，法樹，タイワン樹の複合経営が見られる。
農機具普及状況	コンバイン0.4台，トラクター1.1台，トラック0.4台
家畜飼養頭数	肉牛（成牛）1.5頭，豚（成豚）0.9頭 （仔牛）0.8頭，（仔豚）0.8頭　（昭和57農年度）

農業	営農援護機関	
	営農指導	事業団パラグァイ農業総合試験場アルト・パラナ分場
	金融機関	事業団，農協，国立勧業銀行（ピラポから約３５Km，オエナウ支店）など。
	主作物取扱	農協および現地商社によって，殆ど販売取引が行なわれている。

地区略図



移住地略図



(4) イグアス移住地

所在地	アルト・パラナ県イグアス郡 DISTRITO DE YGUAZU (COLONIA YGUAZU), Km 11, S/RUTA INTERNACIONAL, Dto. ALTO PARANA, PARAGUAY
面積	87,762 ha
経緯	昭和35年事業団の前身である日本海外移住振興株式会社がマルチン商会の所有地を購入，直ちに造成・区画割り等入植地造成工事が進められ，翌36年8月にフラム，チャベス両移住地より分家14戸が第1陣として入植した。 日本からの入植は，2年後の昭和38年第1陣の9戸が初まりで，以降，現地入植，内地入植が続き昭和56年4月1日現在，日系人243戸が，他にパラグァイ人160戸が入植している。
自然環境	**地形** 国道通路沿線で一般に標高が高く南北に次第に低くなっており，最高299m，最低182mである。地域の北端をイグアス川，南端近くをモンダウ川が流れており，何れもパラナ川にそそいでおり，これら両河川の沿岸部は低地で東西に緩やかなスロープを描く丘陵地である。 **土質・土壌** 表土は「テーラ・ロシャ」と呼ばれる暗赤色のラテライト化土壌が100～150 cmで，その下層は黄赤色または赤色となっている。 粘土質が50％以上ある所が多く，降雨の雨量がある場合は，土壌は植物にとって最高に良い状態であるが，3週間位雨が降らないと地表面は乾燥し通気性を欠く様になる。 自然カンポ（草原の意）の土壌は，砂土，黒泥土で一般にカリ，リン酸が不足し，強酸性である。 **植生・林相** 亜熱帯性の樹高30m前後の巨木が密生しており，低位部の湿地帯近は巨木が少い雑木が混生しているが，台地に向い密生原生林と変化していく。 この亜熱帯林には各種の有用材がみられ，現地名セドロ・ラパーチョ・グワタンブ・ウビラロなどがある。 **気候** 大陸性亜熱帯気候で年間雨量は1,900 mm内外で，降雨量は年間を通して大体均一である。夏期（10月～4月）の最高気温は10℃近くになることがしばしばある。冬期（5月～9月）の最低気温は4℃で，霜降をみることがあるが，その差度は年間5～10℃程度である。 年間平均気温は22～23℃である。 夏は低気圧による突風が吹くこともあるが農作物の被害が生じる程度の突風は数十年に1回あるかないかである。

社会環境	主要都市からの交通手段	移住地内に首都アスンシオン市より隣国大西洋岸のパラナグア港まで通じている国際道路があって，両国を結ぶ動脈で完全舗装されている。移住地より西へアスンシオンへの急行バス1日8便（2社）所要時間4時間30分，普通バスで1日数回，途中のコロネルオビエド・カーレンズ・ビジャリカに行くことが出来る。又，ストロエネルへのバス便もあり，交通便良好，当移住地の中心部はブラジルとの国境から41kmの地点にある。
	移住地内道路整備状況	幹線，支線とも盛土である。
	市場	アスンシオン市が主な市場であるが，ブラジルとの合弁によるイタイプー発電所建設工事の開始により，この方面へも販路がある。
	電気	昭和49年8月に中圧の配線が完了し，昭和49年度末に日系農家を含め，殆ど全戸電化された（事業費概算25,405千円）
	飲料水	井戸は深いもので20m，浅いものは6～10mで湧水する。移住地内の小川も水質良好で飲料水に適するが，11月～2月頃枯渇する場合がある。
	公共施設事業費概算	医療機関 イグアス診療所　簡単な手術，入院可能 教育機関　昭和56年3月31日現在 マリスカル・フランシスコ・ソラノ・ロペス小学校（教師9，生徒480，内日系人161）（午前・午後2部制） パラグァイ日本中学校（教師7，生徒156，内日系人60） （昭和58年8月31日現在） イグアス日本語学校（教師5，生徒159）（昭和58年7月現在） 公民館（1981年3月完成），警察駐在所，郵便事務所，市役所
	自治会・農協等	自治会集会場，農協事務所兼販売所

入植戸数と人員	年度	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53～56	現地入植者
	戸数	13	13	14	9	11	6	10	1	7	7	2	6	12	4	15	11	138
	人員	50	57	54	46	48	29	45	11	19	20	6	16	47	17	56	61	618

昭和56年10月現在

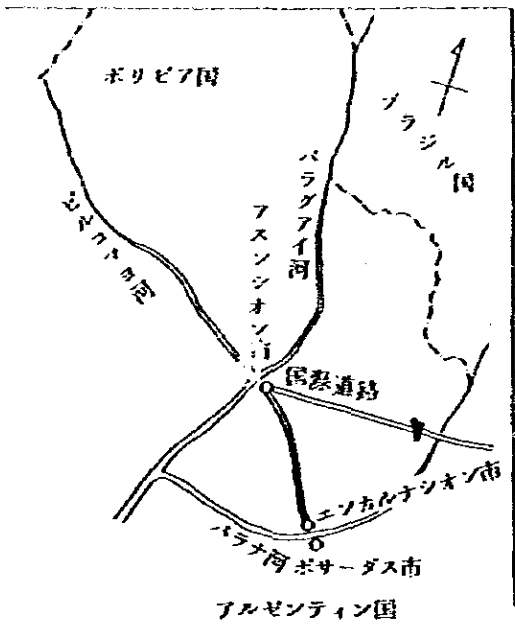
入植者数	区分	入植地	入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	243	1,028	181
		非居住	－	－	41
		計	243	1,028	222
	パラグァイ人	居住	160	980	160

主な出身県名：高知，北海道，岩手，愛媛，東京

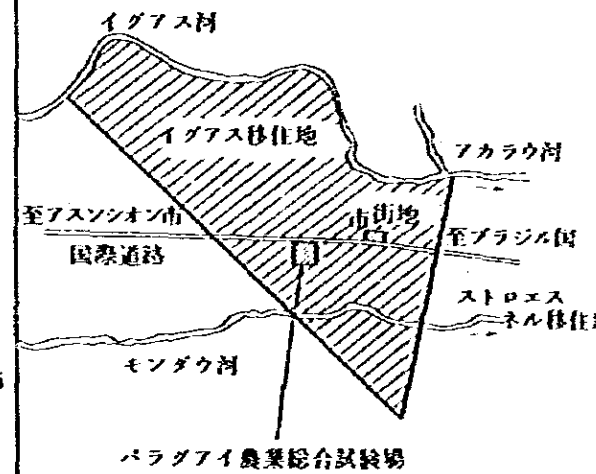
昭和58年4月1日現在

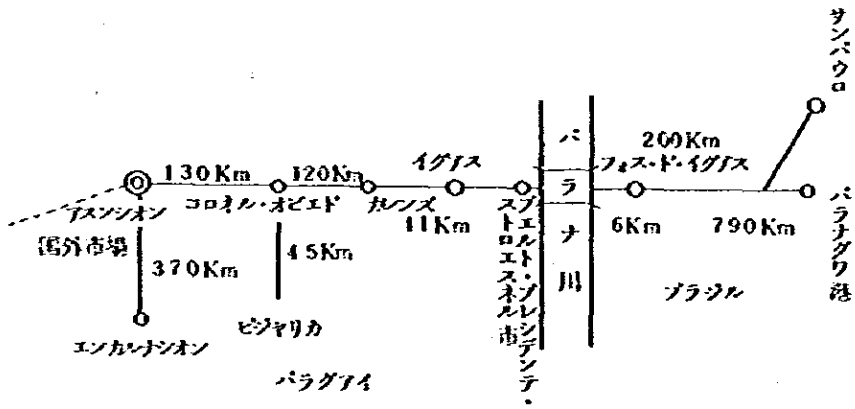
分譲状況	総面積	87,763 ha
	分譲可能面積	1. 農耕地　68,885 ha（988ロッテ） 2. 市街地　4,308 ha（371ロッテ） 3. 保留地　18,4472 ha
	ロッテ面積	大口 300 ha，大型 60 ha，小型30 ha，カンポ260 ha
	分譲条件及び価格	1. 農耕地 大口300 ha，一括払10,6398千円，分割払頭金10%，据置なし，10年分割払，利息5% 大型 60 ha，〃 2,12796　〃　10%，据置9年，5年分割払，〃 5% 小型 30 ha，〃 1,06398　〃　10%，〃 9年，5年　〃　〃 5% カンポ 260 ha，〃 2,600　〃　30%，〃 2年，5年　〃　〃 5% 但し，カンポの価格は未定，造成未了。 2. 市街地 商住区 1等 2,500㎡ 一括払 290千円，分割払頭金50%，据置なし，5年分割払，利息5% 2等 6,500㎡ 〃 315　〃　25%，〃 5年　〃　5% 小農業 30,000㎡ 〃 300　〃　25%，〃 5年　〃　5% 分譲状況 1. 農耕地：分譲済　62,087 ha（891ロッテ） 未分譲　6,798 ha（97ロッテ） 2. 市街地：分譲済　3,975 ha（321ロッテ） 未分譲　333 ha（50ロッテ） 昭和58年3月末現在
	土地権取得	農耕地　分譲891ロッテ中，530ロッテ　土地権取得済み。 市街地　〃 321ロッテ中，201ロッテ　〃　〃 昭和58年3月末現在
農業	主作目	トマト，綿，ダイズ，肉牛
	形態	トマト等農業，採綿，ダイズ等畑作および肉牛を基幹とした単一経営もしくは，これらの複合経営
	農機具普及状況	トラクター0.6台，コンバイン0.1台，トラック0.4台，耕耘機0.5台
	家畜飼養頭数	肉牛 成肉牛 179頭　仔肉牛 98頭　豚 成豚 40頭　仔豚 60頭　乳牛 成乳牛 0.5頭　仔乳牛 0.5頭 （昭和57年度）
	営農技術機関 営農指導	事業団パラグァイ農業総合試験場 協力機関として国際ストロエスネル財団に農牧省の農林学校
	金融機関	事業団，農協（拓殖ジョボイラ農協）　国立信業銀行など
	主作物販売取扱	農協及びアスンシオン市の会社

地区略図


ボリビア国
ブラジル国
パラグアイ河
アスンシオン市
国際道路
エンカルナシオン市
パラナ河
ポサーダス市
アルゼンティン国

移住地略図


イグアス河
イグアス移住地
アカラウ河
至アスンシオン市
市街地
至ブラジル国
国際道路
ストロエスネル移住地
モンダウ河
パラグアイ農業総合試験場


サンパウロ
130Km
120Km
イグアス
200Km
フォス・ド・イグアス
アスンシオン
コロネル・オビエド
カンプス
11Km
パラナ川
6Km
790Km
パラナグワ港
国外市場
370Km
45Km
ブラジル
ビジャリカ
エンカルナシオン
パラグアイ
ポルトエスネル市
アルゼンティン

(5) ストロエスネル移住地

所在地	アルト・パラナ県ストロエスネル市 COLONIA P. P. STOROESSNER, KM 16, S/Ruta INTERNACIONAL Dto. ALTO PARANA, PARAGUAY	
総面積	75,000 ha	
経緯	国境地帯の地域開発，並びにアルト・パラナ県の農業振興を目的として，パ国政府直営で創設した混合移住地である。この移住地の西隣に隣接して，事業団直営イグアス移住地がある。日本人の入植は昭和36年頃からフラム，チャベス両移住地の転住者にはじまり，毎年わずかずつ国内の各地から入植し，今日10世帯を数えている。	
自然環境	地形	標高はパラナ河に向ってやや傾斜，南北はアカラウ，モンダウ両河に向い傾斜，移住地の中央を走る国際道路は分水嶺をなす。隣接のイグアス移住地より高く標高240～350m。イグアスよりやや波状地形の度が少ない。
	植生・林相 気候	イグアス移住地を参照
社会環境	主要都市からの交通手段	同移住地は，アスンシオン市とプエルト・プレシデンテ・ストロエスネル市を経由ブラジル大西洋岸のパラナグア港まで通じる国際道路沿いに位置して，アスンシオン市～ストロエスネル間にバスの定期便が一日8便で交通は至便である。
	移住地内道路整備状況	盛土のみ
	公共施設	学校 公立小学校 10校，私立小学校 1校，カトリック系中学校 1校
	電気	
	飲料水	15m位掘削すると良質の水が得られる
	市場	ストロエスネル市，アスンシオン市
入植状況	内地入植者はなし。現在戸数10戸で現地入植者である。 邦人入植者は国道沿14km地点に集団で住んでいる。 主な出身県名：沖縄，長崎，北海道，パラグアイ 昭和56年10月現在	
分譲状況	現在分譲は行なわれていない。	
農業	イグアス移住地の項（215ページ）を参照	

移住地内日系団体

農協は拓殖ジョボイラ農業に加盟

(6) アマンバイ移住地

所在地	アマンバイ県ペドロ・フォン・カバリェーロ市 PEDRO JUAN CABALLERO, DEPARTAMENTO DE AMAMBAY, PARAGUAY.	
面積	8,000 ha	
移住地の経緯	当初1956年(昭和31年)より1958年(昭和33年)にかけ，ペドロ・フォン・カバリェーロ市にあるアメリカ人経営のCAFE (Comparia Americana de Fomentos Economicos)耕地(社長ジョンソン氏)のコロノとして，128戸が移住した。このCAFE耕地は途中より経営不振となり賃金の遅払い，不払いのため多くの転耕者を出して，大部分ブラジルへ移住して行き残りのものはこの付近で独立を計画し定着した。そして1959年10月CAFE耕地は遂に破産宣告をするに至った。 1960年の契約満了時に耕地に残留していた邦人移住者はわずかに60戸に減少した。これらの者は既にCAFE耕地を出ていた者と合流して，この地で自営農として道を開くため共同して土地の調査選定を行い事業団の前身である旧日本海外移住振興KKの援助を受け土地を購入し自営農として独立した。その後フラム，アルト・パラナ方面からも多くの転耕者が到来し，それぞれ同市を中心として3～40kmの間の8地区に土地を購入し，入植した。日本人移住者の集団独立地であり，229戸が定住している。	
自然環境	地形	地形はかなり起伏があり一般に波状ないし台丘陵地形である。標高600～700mである。
	地質・土壌	テーラ・ロシャの荒沃地と，低地は黒土の埴土，砂土の湿地帯である。
	気候	アスンシオン市より低緯度に位置するが標高が高いためアスンシオン市より涼しく凌ぎ易い。 平均気温は21.5℃で，5月から8月が涼しく，この期間に数年に一度の割で大霜害がある。降雨は年間平均してあり，1,600mm程度である。
	植生・林相	広葉常緑樹を包含した原生林である。
社会環境	主要都市からの交通手段	同移住地は，8地区ほど区分された移住地で，ペドロ・フォン・カバリェーロ市から4～110km間に点在している。ペドロ・フォン・カバリェーロ市からアスンシオンまで，バスが毎日5便運行，所要時間12～14時間，航空機は週6便(日曜を除く毎日)，所要時間1時間20分を有する。コンセプシオン市まで，バスは毎日10～11便で所要時間5時間。
	市場	コーヒー豆は戦後アメリカに，または ISEPSAに農協を通じ出荷される。その他の農産物は商社等を通じ，ペドロ・フォン・カバリェーロ市，アスンシオン市に出荷される。
	移住地内道路整備状況	幹線道路は，軍政もしくは市により整備され，非幹線道路は入植者により整備されているが，雨期には極めて悪い道路状態となる。

社会環境		
	電気	ペドロ・ファン・カバリェーロ市は電化されているが家が散在している移住地内は電化されておらず，自家発電によっている。
	飲用水	井戸水もしくは湧水を利用している。
	公共施設 事業団援助	アマンバイ学生寮（在ペドロ・ファン・カバリェーロ市），ヘネラル・ブルゲス小学校分校（教師5：協力隊員2名含む，生徒113名，内，日系人111名），アマンバイ日本語学校（教師5名，生徒152名）（昭和58年7月現在），アマンバイ中学校（教師3名，生徒43名，全て日系人）（以上，事業団建設），カルロス・アントニオ・ロペス小学校（教師14名，生徒690名，内，日系人60名）（昭和58年8月末現在）
	農協自治体	精米工場，コーヒー工場
	その他	医療，教育施設は市内に整っている。 総合病院（3）　個人診療所（5） 小学校（7校）　中学校（3）　高校（3）

単身，時寄は含まず

入植戸数と人員の推移

年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
戸数		54	53	30	0	0	0	0	1	0	6	6	1	1	0	0	0
人員																	

年度	47	48	49	50	51	52	53～56
戸数	0	0	0	0	1	0	0
人員							

主な出身県名：高　知，北海道，熊　本，和歌山，広　島，福　岡，鹿児島，香　川，静　岡

昭和53年4月10日現在

入植者数

区分		入植数	入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
日本人		居住	229	1,157	67
		非居住	0	0	0
		計	229	1,157	67
パラグアイ人		居住	－	－	－

昭和58年4月1日現在

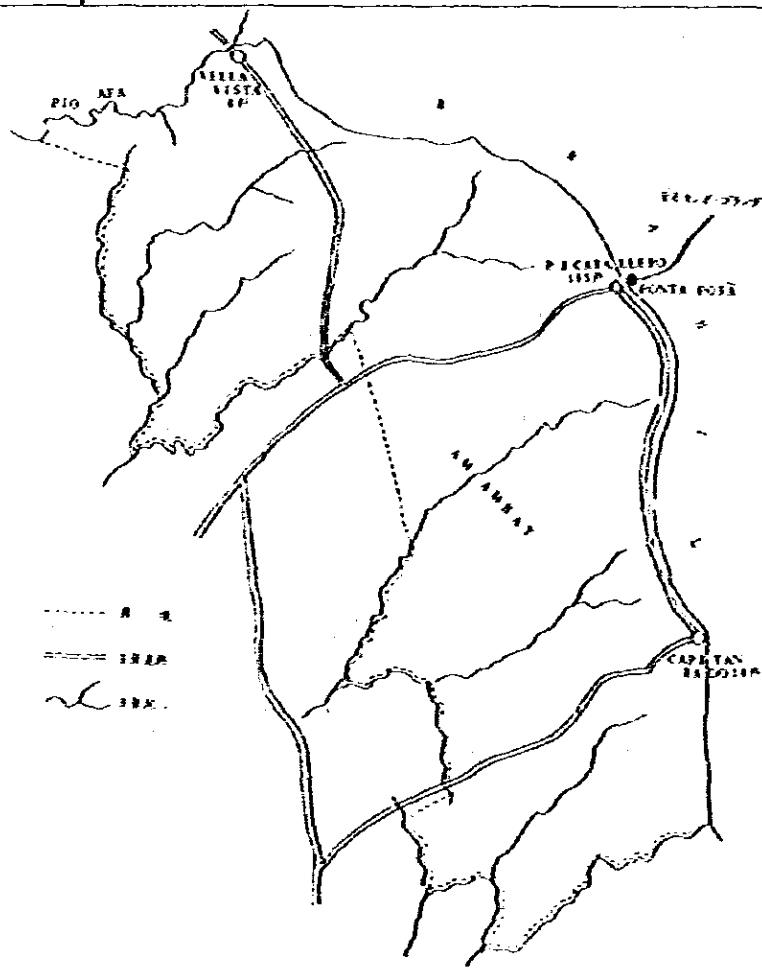
分譲状況

移転面積	8000 ha
分譲可能面積	残地なし
ロッテ面積	平均142 ha 但し50才の農家は20～30 ha
地権取得	取得　75名，　申請中　15名，　未申請　5名

昭和56年3月31日現在

農業	主作目	鶏卵，肉鶏，大豆，トマト等
	形態	採卵，ブロイラー等の養鶏，大豆，トウモロコシ等の雑作，トマト，レタス等の園芸を主幹とした単一経営及び上記各部門に果樹（主にブドウ），コーヒー，養蚕を加えた複合経営
	農機具者及状況	トラック 1.2台　トラクター 0.6台　耕耘機 0.8台 コンバイン（自走式）0.1台（昭和57農年度）
	家畜飼養頭数	肉牛 成牛 133頭　肉牛 仔牛 7.5頭　豚 成 33頭　豚 仔 1.6頭　乳牛 成 0.8頭　乳牛 仔 0.4頭 （昭和57農年度）
	営農援護機関	
	営農指導	アマンバイ出張所
	金融機関	事業団，銀行
	主作物販売取扱い	アマンバイ農協，及び商社
	その他	過去大部分がコーヒーを主体とした営農を行っていたが，数回の災害でコーヒー農家は等高の少ない所を除き衰退している。

地区略図



(7) ラ・コルメナ移住地

経緯		1934年（昭和9年），ブラジル拓殖組合の専務であった故宮坂国人氏の調査報告に基き，1935年（昭和10年）～36年実地調査し，1936年（昭和11年）ブラ拓は400家族の日本人移住者を導入する目的で，11,000 haの土地を購入した。 同年6月第1回，7月に第2回，第3回と，それぞれブラジルより指導移住者が入植，翌8月に至り日本から直来の第1回入植者11家族81名が到着し，現在のコルメナ42年の歴史の第1歩が記されると共に，日本人の対パラグアイ移住の歴史が始じまった。以後，1941年（昭和16年）までの5年間に指導移住者3回，日本から28回と合せて123家族790名が相次いで入植した。 戦後の入植は1954年（昭和29年）に再開され，同年に3家族19名，翌年6家族34名，計9家族53名が入植し，その後，近親や雇用呼寄せで約10名が入植したに止まっている。現在は66戸が定住している。
総面積		11,000 ha（うち日本人所有地3500 ha）
自然環境	地形	緩傾斜の丘陵地に面し，移住地の西南にAPYRA-GUÁ（海抜600 m）CORDILLERITAの連山があり，この分水嶺が移住地の境界線となっている。これらの山々はかなりの急傾斜で所々岩石の露出している所が見られるが，殆んど森林で覆われその麓から緩やかな傾斜で移住地が広がっている。 移住地を流れている小川はいずれも清流で乾燥期があっても流れが絶えることはない。
	地質・土壌	草原の土質は主に沖積土の腐植質に富む砂質土壌であるが，低湿地には粘土質の含有量が多い所もある。 森林下の上層土は砂質土壌をもって覆われているが下層土は大体において植土である。全移住地を大別すれば，砂質土壌60％，塩土15％，植土20％，砂土5％の土壌区別に大別することができる。
	気候	夏期は11月から3月で平均最高気温は28℃，冬期は5月から8月との間10日程度の降霜日数がある。また稀に結氷する。降雨量は年間1500mm程度，降雨日数50~60日前後である。
社会環境	主要都市からの交通手段	首都アスンシオン市より東南130Kmにある。移住地より28Kmのアカアイ，アスンシオン間は，アスファルト道路で定期バスが運行しており所要時間は2時間20分，アカアイ，移住地間は，現在日本からの借款によりアスファルト舗装工事中であり，雨天の場合でも通行可能となった。
	市場	主としてアスンシオン市
	地区内道路整備状況	補修はコルメナ移民所が行なっているが，土質が砂質土のため雨の度に流亡が激しく良好と言えない。
	電気	市街地及び日系農家全戸が電化された（昭和54年度。事業費28,782千円）

社会環境	飲料水 公共施設	全戸井戸水利用。但し，市街地内は，水道工事中。 医療 社会保険（IPS）クリニック，保険センター 学校 小学校6校（うち分校3校），中学校1校，高等学校1校 総合グランド，コルメナ日本人文化会館

入植と人員（内数）戸数	年度	昭和11	12～16	17～28	29	30	31～49	50～52	現在入植者
	戸数	11	102	0	3	6	122	0	18
	人員								

退耕者の主な転住先　アルゼンティン，ブラジル，アスンシオン，ウルグアイ

主な出身県名：東京，群馬，福島，長崎，岩手

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
	日系人	居住	66	343	49	272
		非居住	－	－	－	－
		計	66	343	49	272
	パラグアイ人	居住	－	－	－	－

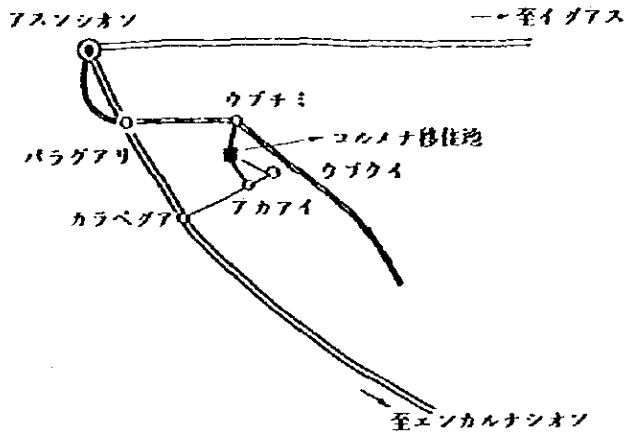
昭和56年9月末現在

分譲状況	分譲可能面積 ロッテ面積 地権取得	9,100 Ha（残ロッテなし） 当初1ロッテを20 ha としたが，現在の土地所有状態はまちまちである。（一戸当り平均土地所有面積56 ha） 地権取得済 近年になってからの分譲はない。土地の売買は個人対個人で行なわれている。 昭和56年3月31日現在

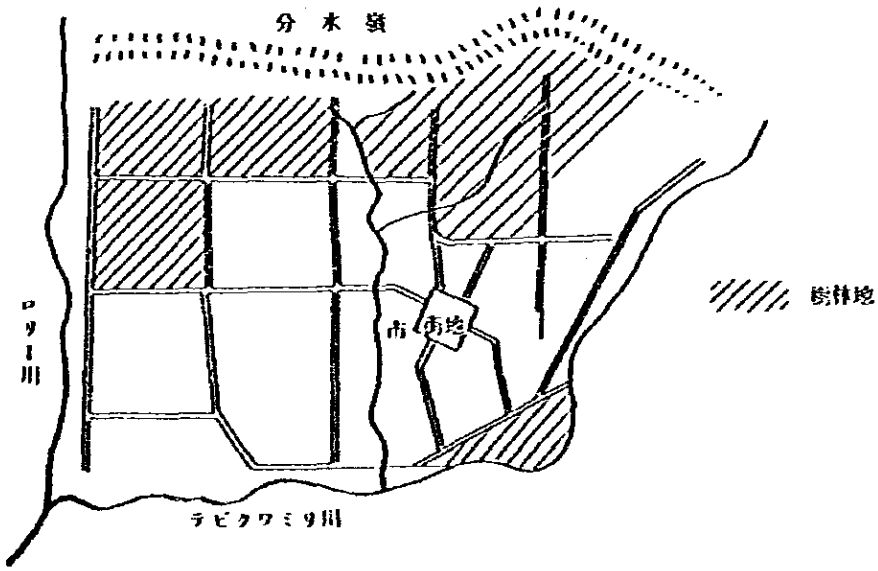
農業	主作目 営農状況 農機具普及状況 家畜飼養頭数 営農援護機関 営農指導	ブドウ，桑葉，蚕，肉牛 蚕および加工用ブドウ（ブドウ酒）を基幹作物とし，この他に，アスンシオン市を市場とした桑葉栽培が盛んである。 トラクター　0.1台，耕耘機　0.4台，トラック　0.1台 牛　10.1頭　馬　1.3頭　豚　3.6頭　（一戸当り）（昭和55農年度）

農業	金融機関	国立勧業銀行，事業団
	主作物の販売取扱	コルメナ農協，イグアス農協と2者で東パラグァイ農協中央会を結成し，主としてアスンシオン市区蔬菜を供給している。 また，農協の農産加工部ではブドウ酒工場を持ち「コルメニータ」という銘柄のブドウ酒を作っている。

地区略図



移住地略図



ボリビア共和国

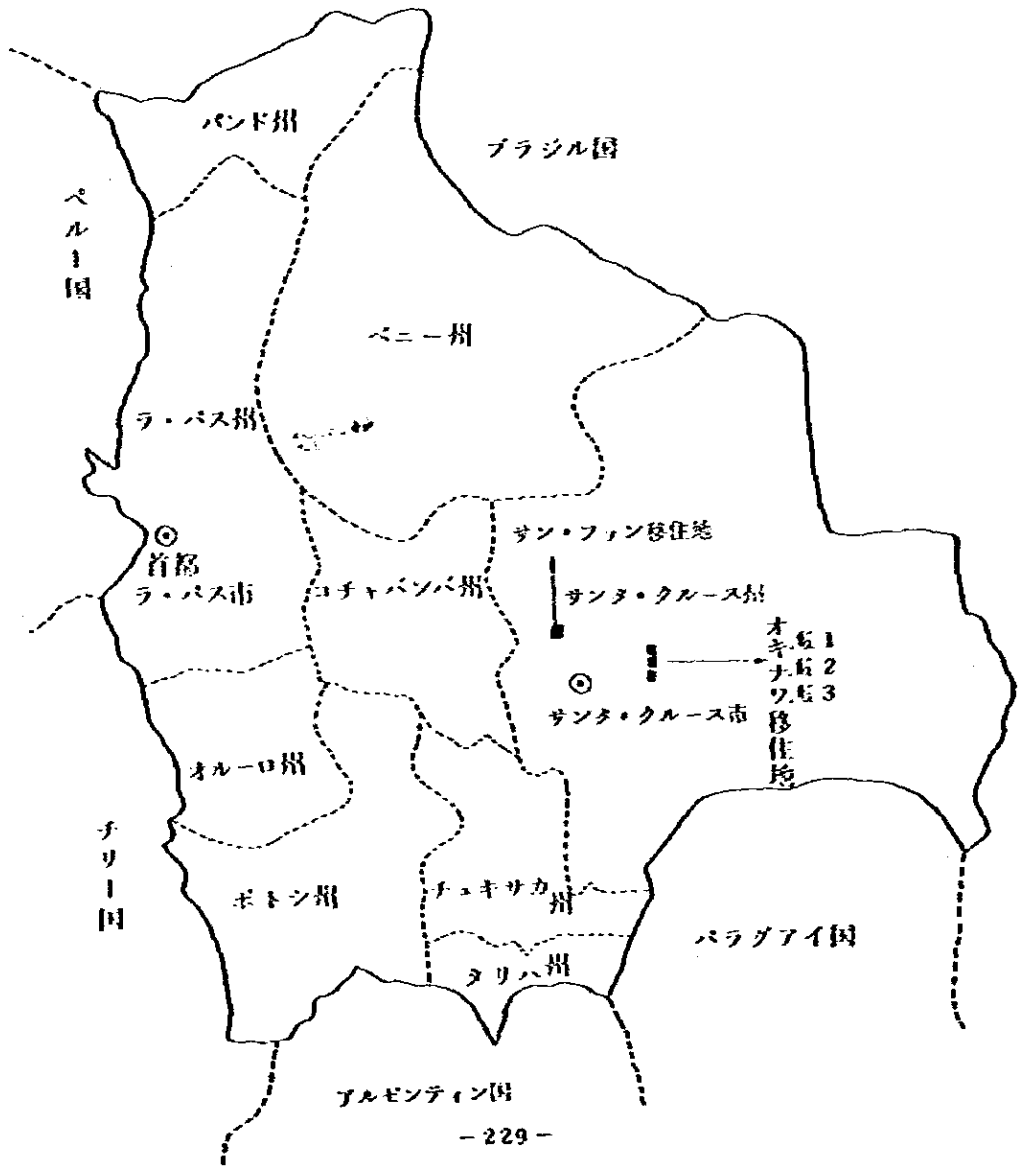
Ⅷ　サンタ・クルース支部

ボリヴィア共和国

Ⅷ サンタ・クルース支部管内

支部機構

- サンタ・クルース支部（サンタ・クルース市）
  - 総務課
  - 業務第一課
  - 業務第二課
  - サン・ファン事業所　（サン・ファン移住地）
  - サン・ファン試験農場　（　〃　）
  - オキナワ事業所　（オキナワ第2移住地）
  - ユエバ・ヌスベランサ畜産試験農場（オキナワ第2移住地）
  - ラ・パス出張所（ラ・パス市）



1. 基 礎 指 標

首都．ラ・パス

面　積	独立年月日	政　体	宗　教	言　語	民族または人種構成	通　貨
Km² 1098581	1885.8.6	立憲 共和国	カトリック	スペイン語 ケチュア語 アイマラ語	インディオ（54％） 混血（31.2％） 白人（14.8％）	$b Peso Boliviano

1. 人口，人口密度，人口増加率（1980）

人口＼年度	1976	1977	1978	1979	1980
人口（千人）	5,020	5,150	5,290	5,428	5,570
人口密度	—	—	—	—	5.1
人口増加率	—	26	27	26	26

出典：世界銀行年次報告（1981，1982）等を一部引用

2. 労働人口と部門別雇用状況　（単位：1,000人）

項目＼年度	1971	1972	1973	1974	1975
労働人口	2,545	2,612	2,680	2,650	2,829
就業人口	2,123	2,222	2,325	2,439	2,559
農業	1,361	1,415	1,404	1,442	1,481
鉱業	55	57	77	84	92
石油	5	6	7	8	8
製造工業	181	192	205	218	232
建築	51	55	59	63	68
エネルギー	21	22	23	26	29
運輸	59	61	87	97	108
商業・金融	139	148	163	175	187
公務員	92	96	140	157	175
その他	161	170	160	169	179
失業者	422	390	355	311	270
労働人口に対する比率（％）	（16.6）	（14.9）	（13.2）	（11.3）	（9.5）

出典：ラテン・アメリカ年鑑，1979

3. 国民所得（1980）

所得＼年度	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
国民所得総額（百万ドル）	925	1,634	—	—	—	2,539	2,985	3,175
1人当り国民所得（ドル）	173	299	—	—	—	480	550	570

出典：世界銀行年次報告（1981，1982）等を一部引用

4. 国内総生産内訳

1980年

業種	総生産額	構成比
農業	3,078 百万ペソ	16.0 %
鉱業	1,211	6.3
製造業	3,039	15.8
建設業	783	4.1
エネルギー	304	1.6
運輸・通信	2,136	11.1
商業・観光	3,060	15.9
金融	618	3.2
政府	1,742	9.0
住宅所有	1,516	7.9
その他サービス	1,791	9.3
計	19,281	100.0

5. 物価指数（1975＝100）

物価＼年度	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981
消費者物価総合	100	104.5	113	124.7	149.3	219.8	290.4

出典：海外経済協力調査，1983

6. 輸出入構成（1980年）

（単位 100万ドル），%

輸出			輸入		
品目	金額	構成比	品目	金額	構成比
銅	378.5	38.4	消費財	159.5	19.6
亜鉛	36.7	3.7	原料・中間財	226.2	27.8
銀	118.3	12.0	資本財	424.0	52.1
タングステン	47.4	4.8	その他	4.1	0.5
アンチモン	26.4	2.7			
石油	226	2.8			
天然ガス	220.9	22.4			
その他	13.0	1.3			
（鉱産物計）	863.8	87.5			
錫	0.9	0.1			
砂糖	51.2	5.2			
木材	23.5	2.4			
コーヒー	20.8	2.1			
その他	26.5	2.7			
合計(CIF)	986.7	100.0	合計(CIF)	813.8	100.0

出典：国家統計局

2. ボリヴィアへの日本人移住の歴史

明治３３年（１９００年）ペルーに移住した人達がラ・パス州ソラタ地区に再移住したことに始まる。

わが国から直接ボリヴィアへの移住は，昭和２９年（１９５４年）８月，当時の琉球政府計画による沖縄県人移住である。

昭和３０年（１９５５年）７月政府計画による移住は全都道府県公募移住が嚆矢であり，昭和３１年（１９５６年）８月２日，わが国とボリヴィア国の間で移住協定が締結された。それ以後主として農業移住者が，１９８２年度（昭和５８.３）末までに5,８４１名（呼寄移住等も含む）移住した。

ボリヴィア在留邦人及び日系人数統計

総数（１＋２）			1. 長期滞在者			2.永住者(日本国籍保有者)			3. 日 系 人		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2,017	1,766	3,783	179	89	268	1,838	1,677	3,515	—	—	6,984

出典：昭和５８年度海外在留邦人数調査統計（外務省領事移住部）

3. 移住地所在地域の概況

(1) サンタ・クルース州の概要

州移住地内	サン・ファン移住地，オキナワ第1，第2，第3移住地
概要	サンタ・クルース州は，西部ボリヴィアの東部に位置し，西部・南部はコチャバンバ，チュキサカ州に北部・東部がベニー州及びブラジルのマット・グロッソ州に，東南部がパラグァイのチャコ地方に各々境界を接し，面積は日本と国土同じの37万km²ボリヴィア国全土の約34%を占め，人口は715,092人，同国の15.4%を占め人口密度は1.92人/km² である。（1976年センサス） 地形的には，西南部のアンデス山脈の一部を形成するアンデス山麓（マイラナ，サマイパタ，パヤ・グランデ等の盆地を含む地帯），アマゾン河の支流であるマモレ河，イチロ河，グランデ河が貫流するアマゾン河支流域（全体の3/4サン・ファン，オキナワ両移住地を包含する）及びピルコ・マーヨ河，チャコ平原に面するラ・プラタ河流域帯からなりアンデス山脈地帯を除けば概ね平坦な地帯である。 気候は亜熱帯乾燥と熱帯湿潤の中間的気候を示す。 この地帯の中心都市はボリヴィア第2の都市サンタ・クルース市である。
産業	〔農業〕 サンタ・クルース州の耕作面積は25万ヘクタール，同国の20%を占めその主要作物は砂糖キビ，稲，綿，トウモロコシの4種で同州の耕作面積の80%近くを占めている（1973） 砂糖キビはサンタ・クルース市の北方が主生産地で，同国の生産量の80%にあたる226万トンがここで生産された。（80年）稲作は50年代後半から急速に栽培されるようになり，1972年には34,222 ha が植え付けられ，これは全国の72.3%を占める。その耕作方法の技術普及には日本人移住者の果した役割は大きく，1968年にはサン・ファン及びオキナワの移住地での作付面積は同州の21%を占めた。綿は1953年頃より同州で生産が始められ，1973年には作付面積は50,000 ha に達した。この地方への綿作の導入は15の綿繰工場の現出と紡績工場の拡大をもたらし6万人以上の人夫を吸収したといわれる。トウモロコシは103,000 ha の作付面積でこれは同国の30.7%を占める。 サンタ・クルース州の農業は，耕作面積から見る限り10%に足りない地域での生産活動でしかなく，可耕地は多く未開のまま残されており，開発ポテンシャリティーは非常に高い。 〔鉱業〕 ボリヴィア国に於ける天然ガス，原油生産の大半はサンタ・クルース州からの産出である。1972年には1,210万バレル（当時1,590万バレル）の原油が産出された。天然ガスの生産は，1970年代に入ってから急速に注目をあび，1972年サンタ・クルースからアルゼンティンへのガス輸送管が敷設され，その重要性は一段と高まり，1973年には43億m³生産された。 ブラジル国境近くにあるムトン（Mutún）鉄山は世界有数のマンガン鉄及び鉄鉱石の埋蔵量がある。

指定主要都市	サンタ・クルース市 サンタ・クルース市は，東部平原にあってラ・パスにつぐボリヴィア第2の都市で，サンパウロ及びブエノス・アイレスから鉄道及び航空路が開かれている。また，コチャバンバとの間には舗装道路があり定期バスの便がある。 近年，石油，天然ガス，農業生産の好調，工業団地の活発化等に支えられた労働力需要の増大，山岳地帯，丘陵地帯のラ・パス，コチャバンバ等の人口流入により，人口増加率は（1950～76年）725‰と著しく高く，全国平均の214‰を大きく上廻わり，人口は33万人である。（1980年） 工業団地は約1,000ha の面積があり，電気，インフラストラクチャーを整備，製糸，製材，食品加工等の軽工業を中心とした企業33社が生産を行っている。なお，日本からは（有）SUTO 及び東南ボリヴィアの2社の進出企業がある。 日系人集団移住地誘致後は農産物集荷地としての重要性も大きくなっている。 住民は主としてスペインのアンダルシア系である。

4. 移住地の概況

(1) サン・ファン移住地

所在地	サンタ・クルース州イチロ郡サン・カルロス村 COLONIA SAN JUAN DE YAPACANI, CANTON SAN CARLOS, PROVINCIA ICHILO, DEPARTAMENTO SANTA CRUZ (W63°51′ S17°21′)	
面積	27,132 ha	
経緯	昭和28年8月，ボリヴィア国政府は，在ペルー日本公使館（当時ボリヴィア兼轄）に対し，日本人移住者受入歓迎を表明した。これを受け，日本政府は翌29年1月，先方政府の意向確認及び現地の状況調査のため調査団を派遣した。ボリヴィア政府はこの調査団に対し「日本人移住者の歓迎，入植土地選択の自由，移住者に対する援助」を約束した。調査団は在留邦人有志の助言もあり，入植候補地としてサンタ・クルース州サン・ファンを選定した。 一方，昭和29年8月ジャワで製糖事業の経験を持つ西川勝通氏（神奈川県出身）が外務省の指導を受け現地を視察し，製糖事業を企画，サンタ・クルース市にサンタ・クルース農業開発協同組合を設立するとともに事業地としてサン・ファンを選定，ボリヴィア政府に対し，土地の払下げ申請を行った。翌年7月，海協連が募集した14家族（85名）及び単身（3名）計88名が初めてサン・ファン移住地に入植する。この移住者を通称「西川移民」または，その後の計画移住に対し「第0次移民」と呼んでいる。 昭和31年12月サンタ・クルース農業開発協同組合が解散し，新たにボリヴィア移住促進組合が創設され，移住者受け入れ業務を実施するため海協連職員が派遣されその業務に当ることとなった。翌年6月21日各都道府県海外協会を通じて全国公募した計画移住者第1次25家族159名が入植した。以来，昭和48年9月最終入植までに，28次に亘り323家族1648人が入植した。入植初期の段階には，立地条件不良等々の理由もあり，多くの転耕者があり，これらの多くが南国，墨国へ転住したが，現在は，大型機械化連続栽培，農薬の導入，及び大豆栽培が盛んになり，営農は安定をみるに至っており，現在219戸が定住している。（呼寄移住を含む）	
自然環境	地形	大部分は平坦で小川により浅谷が南北から北に走っている。標高350～400m 平均勾配 1/1,000
	地質・土壌	洪積層台地で砂土，壌土が混交，pH 4.5～5.6
	植生・林相	ビロボン等の熱帯樹木が繁茂し直径30cm以上のものが1ha当り200～250本程度，樹高平均20m。
	気候	雨期12～3月，乾期5～9月，平均気温24.2℃，気温平均最高29.6℃，平均最低18.8℃，平均年降雨量1,850mm
	主要都市からの交通・手段	首都ラ・パス市より陸路サンタ・クルース市1,028km，空路ラ・パス市～サンタ・クルース市約50分，サンタ・クルース市より移住地入口まで約125Km舗道が

社会環境		通じており完全舗装されている。この国道はヤパカニ河を渡りコチャバンバ市に通じる計画で現在工事は進行中である。 移住地内道路は全ロッテに通じている，サンタ・クルース市より移住地センター（地区内12㎞地点）まで1日4往復のバスの便がある。
	市　　場	サンタ・クルース市が最も近い市場であり，この他にコチャバンバ市，ラ・パス市が産米の主な販売市場となっている。 将来は，ヤパカニ河を渡りボリビア第3の都市コチャバンバ市に通じる最短道路が完成すると一段と市場が拡充される。
	移住地内道路整備状況	幹線は砂利道，支線は盛土で，雨天時の車輌による通行は困難である。なお，事業団は，道路対策（工事費，機械購入費）として，昭和57年度までK総額778,898千円を補助した。
	電　　気	幹線の電化工事完了（1980年），支線も送電工事中220V，市街地電話5回線架設済。
	飲 料 水	3～10m（平均7m）の深さで水を得ることが可能であり，自家掘り井戸で賄っている。一部の家庭では打込井戸を使用しているが，昭和55年より3年計画で各戸に80m程度の深井戸掘作中である。
	公共施設 事業団援助	サンファン診療所 日本人医師が駐在し，レントゲン装置，手術設備も備っている。 学校等 ドンボスコ小中学校　教師18名　生徒233名　内，日系人30名 （事業団建設）（昭和58年3月末現在） 日語校（小・中学校）　〃　8名　〃　203名　内，ボリビア人　28人 寄宿舎　1　（昭和58年5月末現在） 公民館（移設，1981年12月完成） 警察出所　2（12㎞地点及び26㎞地点） 組合クラブ，組合事務所，共同販売所 ガソリン・スタンド，体育館
	自治会・農協等	醤油兼豆腐工場，組合事務所，日本人会事務所 昭和48年7月事業開始，9月より本格作業に入り，現在日産950tの豆腐を組合員に供給し，月産30tの大豆油を生産している。付属施設として2,300t貯蔵可能のサイロを持つ。

人植戸数と人員の推移

年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
戸数	17		46	88	1	5	111	18	19		1		3	6	3
人員	88		252	138	1	31	626	98	80		6		7	6	10

年度	45	46	47	48	49	50	52	53	54
戸数	1		1	3	1	3	1	3	2
人員	1		1	3	1	3	1	6	4

昭和56年1月1日現在

人植者数	区分 ＼ 人植数		人植世帯数 戸数	人植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	219	1,211	171
		非居住	0	0	0
		計	219	1,211	171
	ボリヴィア人	居住	300	1,500	－

昭和58年4月1日現在

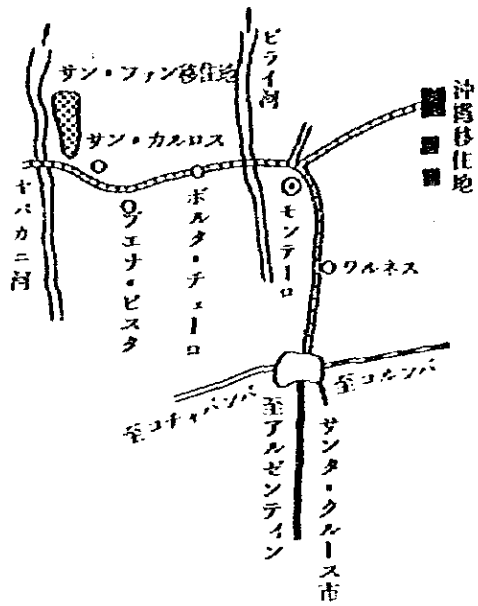
主な出身県名：長崎，福岡，北海道，高知，東京，熊本

分譲状況					
	総面積	27,13254 ha			
	ロッテ面積	50 ha			
	分譲条件および価格	原則，現在は時価により売買されている。			
	分譲面積	0			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
		26,775 ha	0	325 ha	3254 ha
	地権所有	全地権取得済			

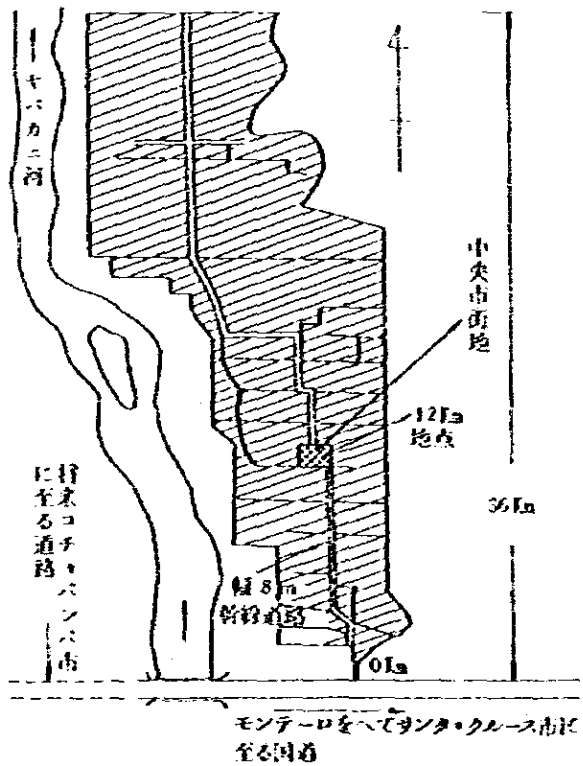
昭和55年12月末現在

農業		
	主作目	養鶏，陸稲，大豆，肉鶏，稲作
	形態	養鶏，畑作（陸稲，大豆），果樹（ポンカン，バナナ）などを組合せた複合経営
	農機具普及状況	トラクター 1.1台，コンバイン（自走式）0.5台，トラック0.6台 （昭和57農年度）
	（一戸平均）	
	家畜頭数	肉牛（成8.1頭・仔3.9頭），豚（成2.2頭・仔2.0頭）（昭和57農年度）
	（〃）	
	営農技術機関	
	営農指導	事業団サン・ファン試験農場が担当し，主に基幹作物の試験を実施しつつ指導を行っている。また必要に応じ，事業団のヌエバ・エスペランサ畜産試験農場の協力がある他，随時，モンテーロ市近郊にある米国系のサーベトラ試験場の協力を受けることができる。
	金融機関	事業団，銀行
	主作物販売取扱	サンファン農牧協合協同組合

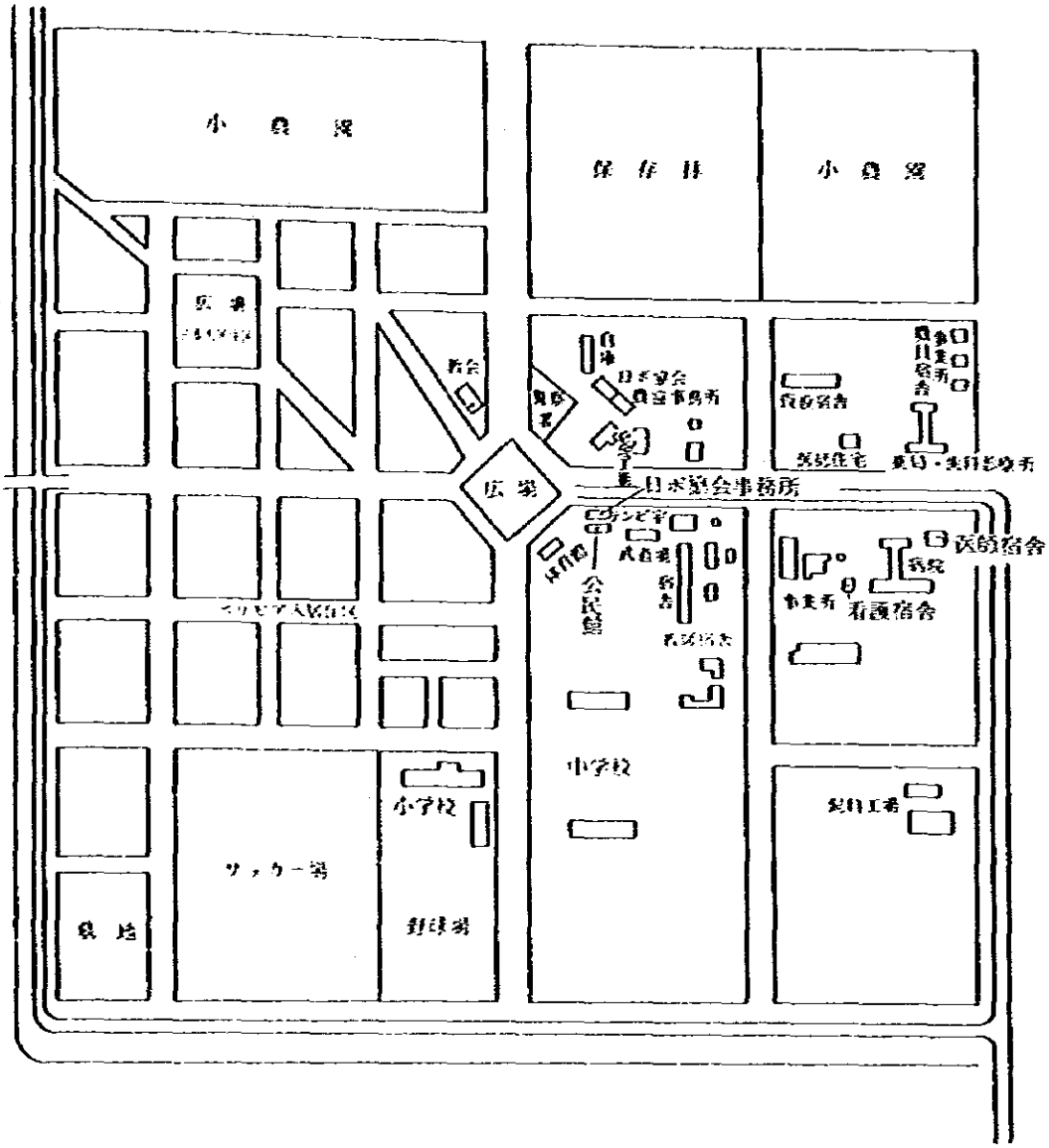
地区略図


サン・ファン移住地
ピライ河
沖縄移住地
サン・カルロス
ヤバカニ河
ボルタ・チェーロ
ブエナ・ビスタ
モンテーロ
ワルネス
至コルンバ
至コチャバンバ
至アルゼンティン
サンタ・クルース市

移住地略図


ヤバカニ河
中央市街地
12Km
地点
36Km
コチャバンバ市
に至る道路
幅8m
新設道路
0Km
モンテーロをへてサンタ・クルース市に
至る国道

中央市街地略図



(2) オキナワ移住地（第1，第2，第3）

所在地	オキナワ第1	サンタ・クルース州ワルネス郡ロス・チャコス村 CANTON LOS CHACOS, PROVINCIA WARNES, DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
	オキナワ第2	サンタ・クルース州ワルネス郡ヌエバ・エスペランサ村 CANTON NUEVA ESPERANZA, PROVINCIA WARNES DEPARTANENTO SANTA CRUZ
	オキナワ第3	サンタ・クルース州ワルネス郡モンテ・クリスト村 CANTON MONTE CRISTO, PROVINCIA WARNES, DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
面積	オキナワ第1	21,800 ha
	オキナワ第2	16,744 ha
	オキナワ第3	8,333 ha　　総面積　46,877 ha
経緯	オキナワ第1	昭和28年，ボリヴィア国リベラルタ市の沖縄出身の在留邦人は，「古今未曾有の大戦争の犠牲になった沖縄の同胞を援護することは人道上の必然的義務である」，という趣旨のもとに沖縄県人のボリヴィア移住促進計画が開始され，「うるま農産組合」を結成して，本国政府に働きかけ，昭和27年サンタ・クルース県に国有地の払下げを受け，移住地を創設したのが「うるま植民地」である。琉球政府より調査員を派遣，本国政府と交渉し移住地の調査を実施した結果，移住開始が決定した。この「うるま植民地」には，昭和29年8月第一陣278名，同年9月第二陣127名が入植したが，間もなく病名不明の熱病が流行し犠牲者も出たため，地区の移転を計画し，本国政府と折衝し，昭和30年同県のパロメティーリャへ全員移転した。しかし移って見たもののことで付近地主の反対，定着条件に欠けるとと等があり，三転して昭和30年現在地に移転を開始翌年9月移転を完了した。 さらに，第2の移住地候補地について本国政府に交渉し，その結果南方22kmのワネモーというところに移住地を得た。前の移住地をオキナワ第1移住地といい，これをオキナワ第2移住地とした。そして昭和36年12月には，オキナワ第2移住地の南方16kmから始まる地点にさらにオキナワ第3移住地を得た。 この間，沖縄からの移住者は引続き行われたが転出者も多く出ている。 昭和34年1月，琉球政府の「ボリヴィア移住地駐在事務所」が開設され，また同年38年6月「琉球海外移住公社ボリヴィア出張所」が開設された。 この移住地は，従来琉球政府が経営主体となり指導，援護を行っていたが，昭和42年7月沖縄県の組織復帰にさきかけて事業団に移管し今日に至っている。入植定着者は現在95戸である。 当初の営農は陸稲が中心であったが，最近は肉牛飼育熱が高まっている様子，農産さらに大豆，とうもろし等の商品作物栽培が盛んになっている。

経緯	オキナワ第2		昭和34年，ボ国移民受入委員の活躍により沖縄からの移住者受入地として，ボ国政府より土地の払い下げを受けた移住地である。入植は昭和34年第1移住地からの転住者を第1陣として，今日まで181世帯が入植したが現在は69世帯が定着している。
	オキナワ第3		オキナワ第2移住地に引続いて，昭和35年にボ国政府より払下げを受けた移住地である。入植は昭和37年から始まり，今日までに131世帯が入植したが現在は31世帯が定着している。
自然環境	地形		アマゾン河の一支流リオ・グランデ川の洪積丘陵の平坦な地形で，移住地の南西より北に向かって1/400～1/1500の傾斜を持っている。移住地内には，リオ・バイロン河他小河川があるが，雨期のみ流水し，乾期は枯渇している。
	地質・土壌		リオ・グランデ川沖積堆積土壌で壌土，埴壌土，壌土，砂壌土から成り，酸性～弱酸性土壌である。
	植生・林相	オキナワ第1	北部は，樹高10～15mのアホー，サバイモーシ，ブランキリョ，モタクー，オチョオ，南部は，クーチ，クルバウなどの樹木群に大別される。沼水地帯の青生林では，二次的にサウヤが密生している。
		オキナワ第2	一般にブランキリョ，サバイモーシ，コモモシ，パーロサント，カリカリが多く樹高10～15mであるが，低湿地帯では矮性化しており樹高5～10mと低い。草は主にクラバター（野性パイナップル）ウンギーリョ（ガマの木）が多い。 一般地には，森林地に多肉植物，青生林にイネ科植物が多く植生している。
		オキナワ第3	クルバウ，タピーボ，モラーウ，クータ，クセー，イチトリキ，ワキカン，ブランキリョが多く樹高10～15m。低湿地または浸透地には草性ガラバター，ブロシーリョが目立つ。
	気候		雨期10月～3月　乾期4月～9月　年平均気温24.2℃前後であり，過去の最高月平均気温は32.7℃，最低月平均気温は15.2℃で，（11月）雨期は高温多湿，乾期は比較的気温は低い。降雨量は500～1,100mmと年による変動が大きい。年間平均すると1,000mm程度であるが，降雨の時期は10月～3月に集中，乾期の（4月～10月）の降雨量は月間40～90mm程度
社会環境	サンタ・クルース市からの交通手段		サンタ・クルース市より北方の第1移住地まで約96Kmで完全舗装の国道が通じている。バス便は舗装にあり，所要時間は約2時間，第2移住地へはメノニータ経由で62Km，第1道路および砂利舗装で所要時間1時間半，第1移住地経由で116Kmである。第3移住地へはメノニータ経由で44Kmでバス便があるが，雨期の通行は困難である。
	市場		サンタ・クルース市，ラ・パス市が主な市場で，このほかにもモンテーロ市が近い市場としてある。移住地内の物はサンタ・クルース市で取引されている。
	移住地内道路整備状況		移住地内の幹線は砂利舗装，支線は盛土道である。なお事業団は，道路対策（工事費，機械借入費）として，昭和57年度までに総額168,900千円を結団した。

電　　気	幹線の電化工事は完了し，現在支線の工事中である。
飲　料　水	事業団及びAID（米国）の援助で深井戸を各戸設置している。100m以上掘削すれば自噴するところもある。
公　共　施　設	
事業団援護	コロニア沖縄第1小中学校，ヌエバ・エスペランサ小中学校 教師宿舎（第1，第3） 公民館（第1）助成（1980年3月完成），公民館（第2）助成（1983年3月完成） 医師宿舎（第1及び第2） 移住者宿泊所，ヌエバ・エスペランサ試験農場，第1診療所
自治会・組合等	西語 第1小中学校（高校課程含む）　教師28名　生徒数390名　内，日系人110名 第2小中学校　〃 17名　〃 165名　内，日系人115名 （以上事業団建設）（昭和58年8月末現在） 日語 第1小中学校　〃 7名　〃 70名 第2小中学校　〃 6名　〃 117名（昭和58年5月末現在） 診療所、製材所、縫製工場（第2移住地）

人植戸数と人員（内訳）

年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
戸数	153	39		44	91	81	58	72	81	36	23				11	6	1
人員	405	122		214	437	453	309	432	509	198	102				26	34	5

年度	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	現在人植者
戸数		4		1		3	4	4	2	0	2
人員		19		1		15	7	19	9	1	6

（注）オキナワ移住地　第1，第2，第3地区の合計

昭和56年3月末現在

人植戸数

区分	入植数	人植戸数 戸数	人植戸数 人数	離農戸数 戸数
日本人	居住	61 95 62 69 63 31	561 392 205	82 67 27
	非居住	61 — 62 5 63 —	— 23 —	5 2 0
	計	210	1,231	183
ボリヴィア人	居住	61 145 62 3 63 0	855 22 0	— — —
	計	148	877	—

昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	第1　21,800 ha　第2　16,744 ha　第3　38,333 ha
	ロッテ面積	50 ha
	分譲条件及び価格	賃貸　現在時価で売買されている。

入植地区		分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
分譲状況	第1	21,600	0	200	0
	第2	16,171	0	573	0
	第3	8,129	0	204	0
合計		44,673	0	977	0

地権取得　全戸権取得済

昭56年12月末現在

農業	主作目	ダイズ，トウモロコシ，小麦，養鶏，肉牛
	形態	養鶏，牧畜，畑作を組合せた複合経営

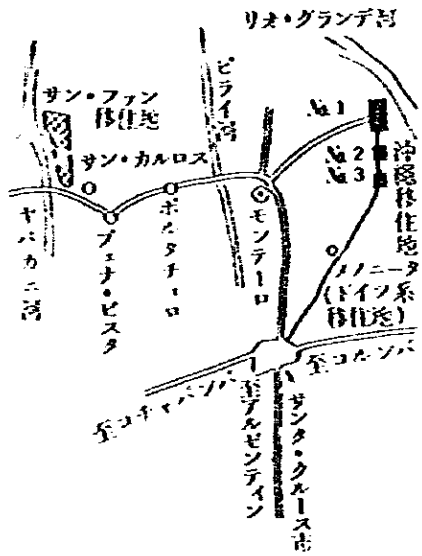
農機具普及状況

家畜飼養頭数	項目＼地区	第1	第2	第3
	トラクタ	1.4台	0.5台	0.9台
	コンバイン	0.2	0	0.2
	トラック	0.4	0.3	0.2
	肉牛　成	25.1	67.6	34.9
	仔	12.5	29.6	22.3
	豚　成	7.8	7.1	5.1
	仔	7.2	4.9	2.3
	乳牛　成	—	—	1.4
	仔			1.2

（昭和57農年度）

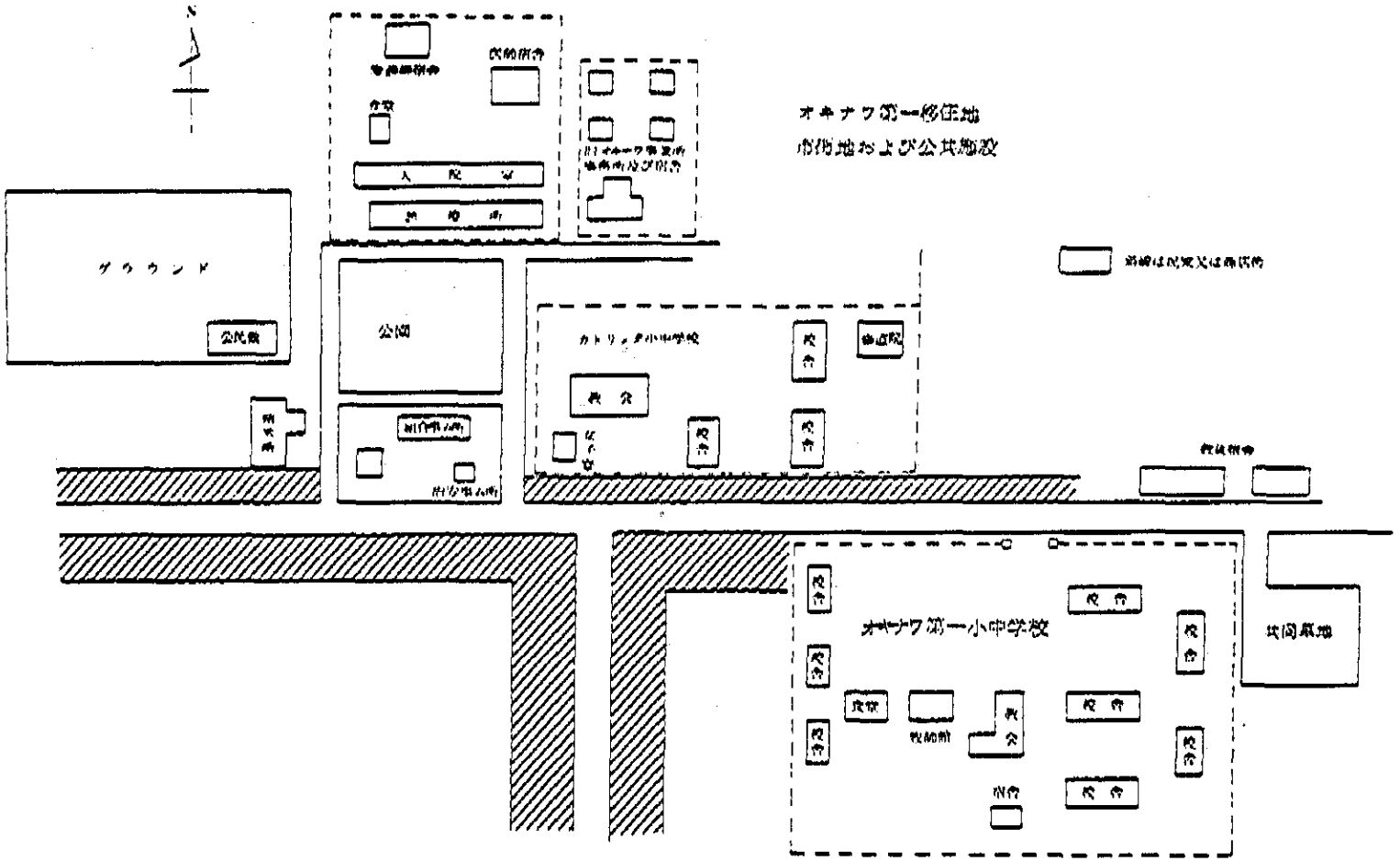
農業関係	営農援護機関	
	営農指導機関	事業団ヌエバ・エスペランサ畜産試験農場が担当し，主に基幹作物の試験及び指導も行っている。また必要に応じモンテーロ市近郊にあるボ国営のサーベドラ試験場並びに事業団サン・ファン試験農場から協力を受けている。
	金融機関	事業団及び銀行
	主作目販売取扱	コロニア協同農業総合協同組合（CAICO）

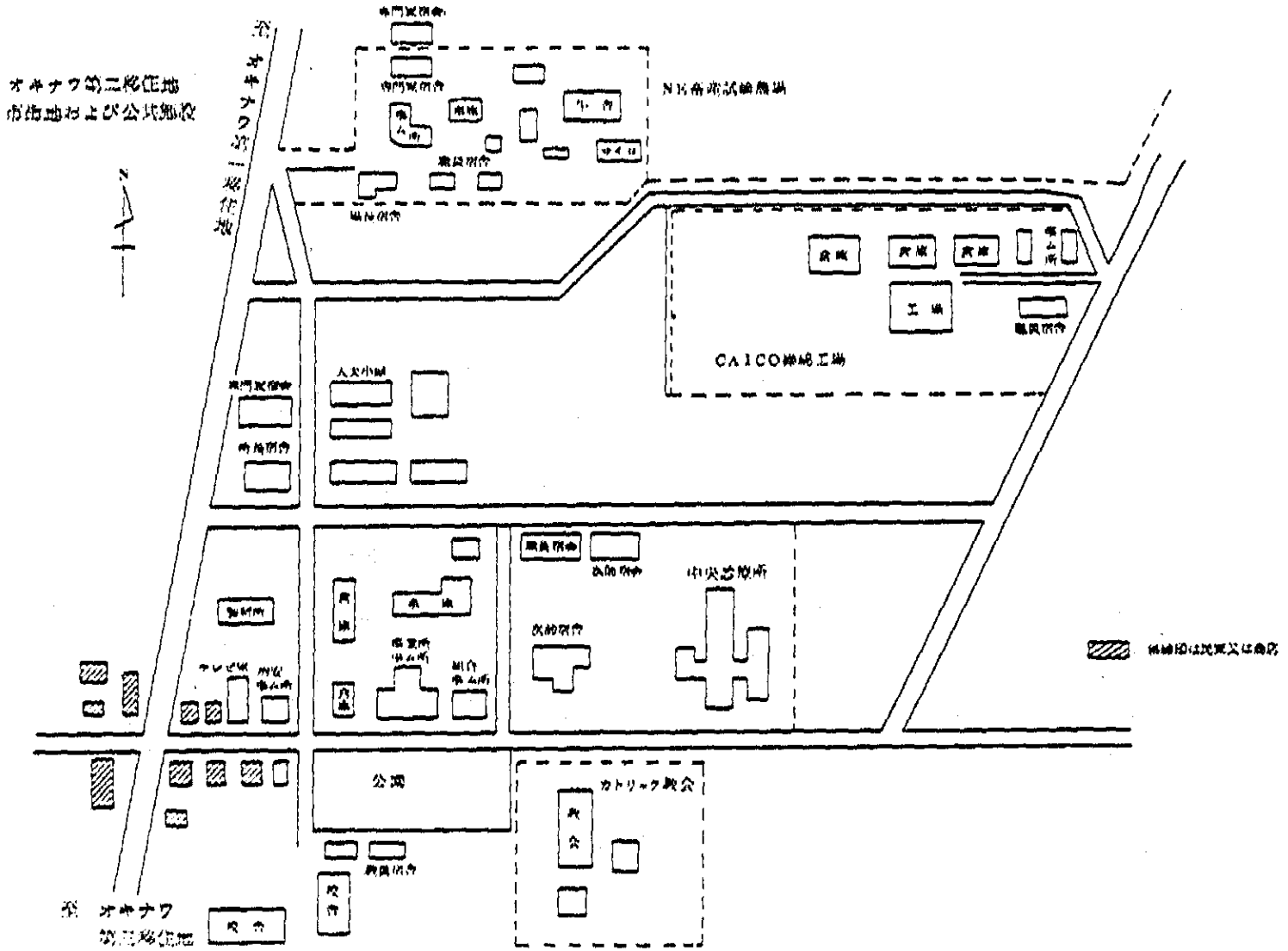
地区略図

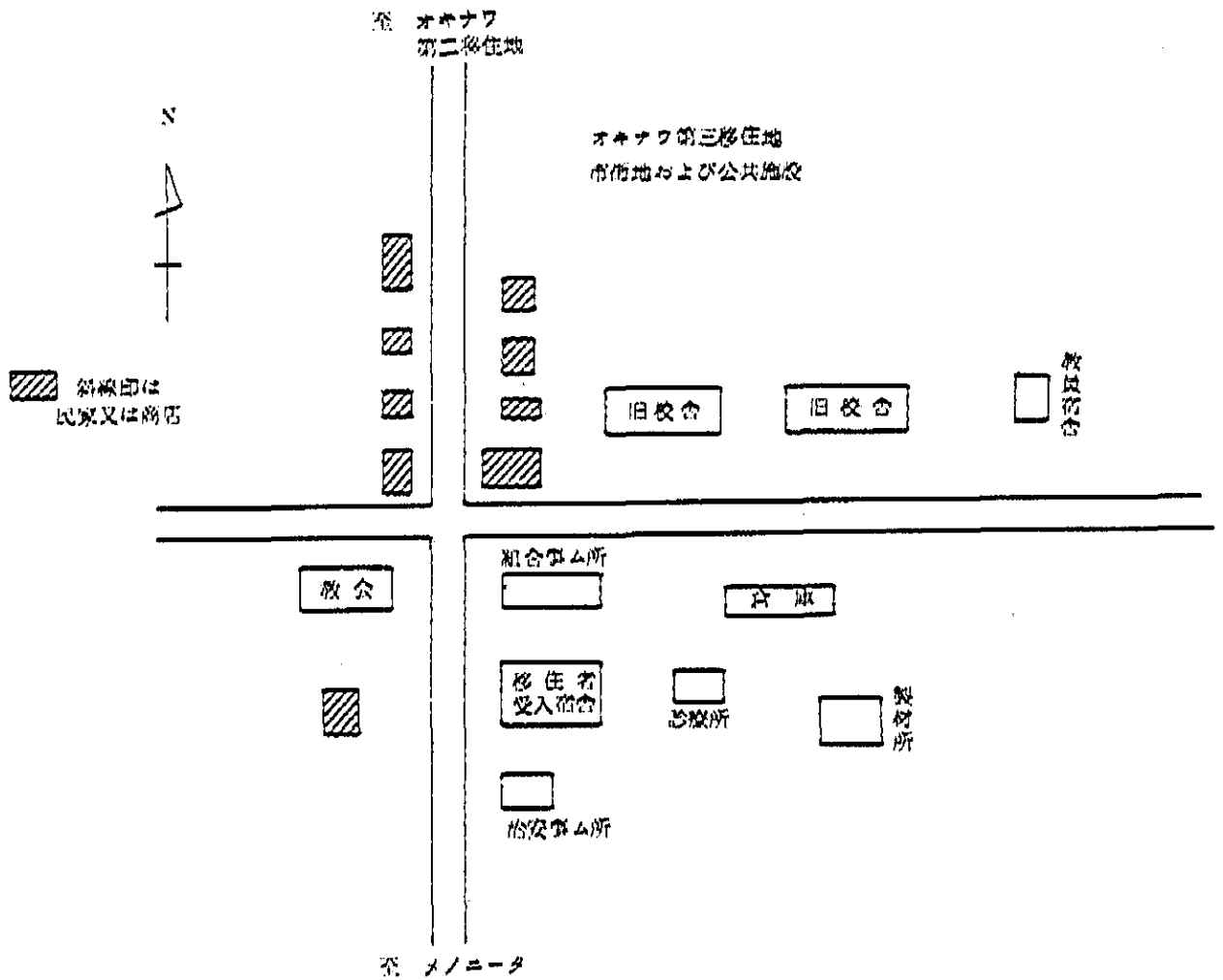


ナヤナワ後住地概略図
1:200,000
N
ウルグアイ川
一区
二区
三区
ホルヘ・カルデーナ
ホルヘ・ハルボー
サンタ・クルース

オキナワ第一移住地
市街地および公共施設




オキナワ第二移住地
市街地および公共施設
至 オキナワ第一移住地
N
NE番号試験農場
CAICO綿繰工場
人文小屋
中央診療所
公園
カトリック教会
至 オキナワ
第三移住地


至 オキナワ
第二移住地
N
オキナワ第三移住地
市街地および公共施設
斜線印は
民家又は商店
旧校舎
旧校舎
教会
組合事務所
倉庫
移住者
受入宿舎
診療所
製材所
治安事務所
至 メノニータ

ドミニカ共和国
IX　サント・ドミンゴ支部

ドミニカ共和国

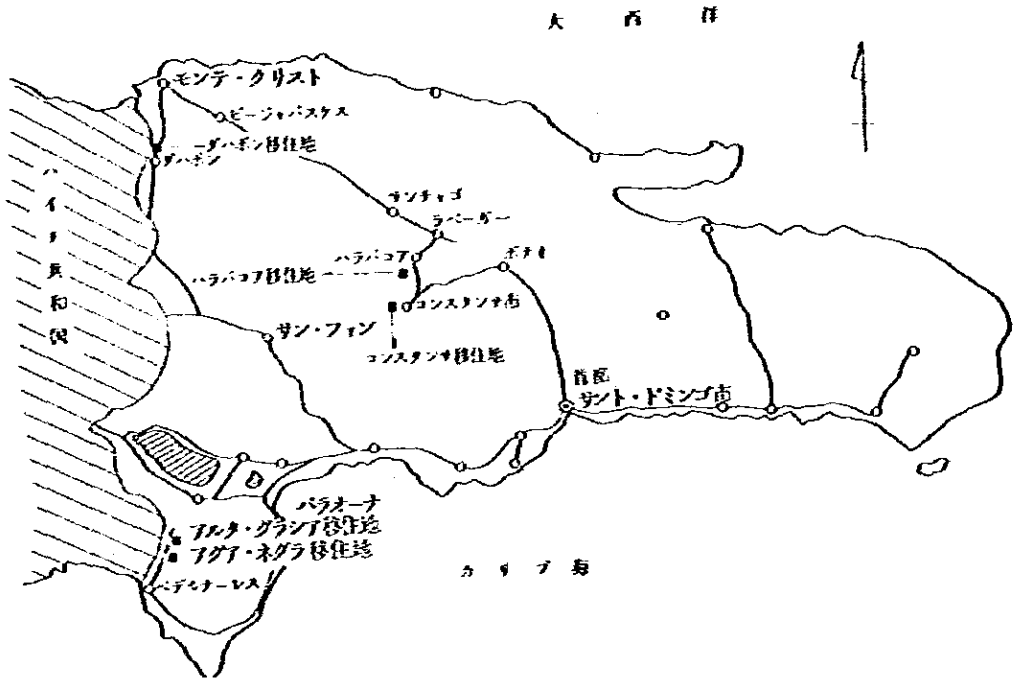
Ⅸ サント・ドミンゴ支部

支部機構

サント・ドミンゴ支部（サント・ドミンゴ市）

管　轄

ドミニカ共和国全域



1. 基礎指標

首都：サント・ドミンゴ

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨
km² 48,442	1844年 2月27日	立憲・共和制	カトリック	スペイン語	混血（白人・黒人）72.9％ スペイン系白人16.1％ アフリカ系黒人10.9％ その他0.1％	ペソ (Pesos) RD$

(1) 人口，人口密度，人口増加率

人口＼年度	1960	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
人口（千人）	3,010	4,060	4,180	4,300	4,430	4,560	4,700	4,840	4,980	5,120	5,280	5,430
人口密度（人）	63	83	86	89	91	94	97	100	103	106	109	112
人口増加率（％）	−	−	2.9	2.9	3.0	2.9	3.1	2.9	3.0	2.9	3.1	2.8

(2) 産業別就業人口（1970年）

区分	就業人口（千人）	構成比（％）	就業人口の増加率（1970年／1960年）
農林業，狩猟，漁業	502.2	15.3	99.6 ％
鉱業	0.8	0.1	33.3
製造業	97.5	8.8	145.7
電気，ガス，水道供給業	1.7	0.2	51.5
建設業	27.8	2.5	134.3
商業	74.8	6.7	137.0
運輸，通信業	42.6	3.8	199.0
サービス業	167.1	15.1	182.8
その他分類可能	194.5	17.5	347.3
計	1,109.0	100.0	135.1

出典：世銀カントリーレポート（参考）

(3) 国民所得（GDP＝単位100万ドル　ドミニカ・ペソ＝1ドル）

所得＼年度	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
国民総所得（百万ドル）	1,987	2,345	2,899	3,600	3,952	4,539	4,699	5,496	6,200
1人当り国民所得（ドル）	462	529	636	766	817	911	918	1,041	1,140

出典：海外経済協力便覧，1983，経済協力の現状と問題点，1982

(4) 産業部門別GDP（市場価格による）

（単位：100万ドル）

産業別＼年度	1977	1978	1979	備考
GDP（合計）	4539	4,699	5,496	
農林，水産	920	886	1,026	
鉱工業	966	845	1,081	
その他	2,653	2,968	3,389	

出典：海外経済協力便覧1983。

(5) 物価指数（1975＝100）

物価＼年度	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981
卸売物価	—	—	—	—	—	—	—
消費者物価	100.0	107.8	121.7	126.0	137.6	160.5	172.7

出典：海外経済協力便覧，1983。

(6) 貿易収支の推移（単位：百万ドル）

項目＼年度	1977	1978	1979	1980	1981
輸出額	781	676	866	962	1,188
輸入額	848	860	1,058	1,436	1,150
貿易収支	－67	－184	－192	－474	－262

出典：海外経済協力便覧，1983。

(7) 主要輸出品目（輸出額およびトン当り単価）

（単位：100万ドル）

項目＼年度	1977	1978	1979	1980
輸出総額（FOB）	781	676	869	962
砂糖	232	181	206	307
コーヒー	186	97	157	77
ボーキサイト	22	23	21	19

出典：海外経済協力便覧，1983。

(8) 輸入額および輸入品目の比重

（単位：100万ドル）

項目＼年度	1977	1978	1979	1980
輸入総額（FOB）	848	860	1,080	1,498
消費財の輸入	60	48	45	76
石油等の輸入	—	—	—	—
原料，中間財の輸入 建設資材，資本財の輸入	100	98	90	152

出典：海外経済協力便覧，1983。

2. ドミニカへの日本人移住の歴史

この国との関係でもっとも重要なことは移住関係で，この国への移住は1956年3月両国間で取りかわされた交換公文に基づいてはじめられ，同年7月から1959年9月までに13回にわたり250戸1,325人の農業移住者が移住した。ドミニカへの移住は，当初ドミニカ政府が積極的で，住宅，水道などの提供や生活費給金の支給などの好条件で開始されたが，1959年6月ごろからこの国の内外情勢がにわかに悪化し大きな影響をうけた。すなわち同年8月コスタリカ米州外相会議の決議により，この国が米州諸国から外交断絶および経済制裁を受けて経済は逼迫し，農作物の値下がり，輸入途絶による物価の値上がり，生活物資の不足などの諸原因により国民生活は苦しくなった。この情勢下でトルヒーリョ元帥の失脚による政情不安と日本人に対する保護も手うすとなった。また，日本人移住者のなかにはかんがい用水不足が深刻化し，昭和37年ごろから南米への転住や日本への集団帰国など一時不安な時期がつづいた。

しかし，その後は落ち着きを取りもどし，現在，この国には約150人の移住者が定住している。

ドミニカ在留邦人及び日系人数共計

国地域＼項目	総数（1＋2）			1. 長期滞在者			2永住者(日本国籍保有者)			3. 日系人		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
ドミニカ	339	266	605	40	31	71	299	235	534	62	53	115

出典：昭和58年度海外在留邦人数調査共計（外務省領事移住部）より抜萃

3. 移住地所在地域の概要

概要	ドミニカ共和国は，南北米大陸に囲まれるカリブ海に浮ぶ西インド諸島の一つである。サント・ドミンゴ島の東2/3を占め，東はモナ海峡を隔て米領プエリ・トリコ島に対し，西はハイチ共和国に接し，北は大西洋，南はカリブ海に面している。 この国の東南部は原生代または古生代，西北部は第3紀または新生代に属す。西部は山岳地帯で東南部地帯及び中央部にかけて平地を形成している。主なる山脈は，セプテン・トリオル山脈，オリエンタル山脈等でこれらは東西に平行して走っている。 セントラル山脈はこの国の中央部に位置し，ハイチ国に連なる。西インド諸島最高峰のピコ・ドアルテ山（3,175m）がある。セプテン・トリオナル山脈は北部モンテ・クリスティ県から北東部に，オリエンタル山脈は北東部をそれぞれ東西に走っている。また，西南部にはシェラ・デ・ネイバ，シェラ・デ・バオルコの2つの山脈があり，前者はネイバ湾から，後者は南部半島からそれぞれ北西部に走っている。 河川は中央山脈を分水嶺として南北海岸に注ぎ，これらの河川の流域が農耕地となっている。主な河川としては，北ヤケ，南ヤケ，コナ等があり，北ヤケは北部を流れ同国で最も長い川で，シバオ平野を西方に流れ大西洋に注ぐ。 コナ川はシバオ平野を東方に流れ，リマ湾に注いでいる。南ヤケ川は南部地帯を流れネイバ湾に注いでいる。また，オサマ川，イサベラ川が合流して，サント・ドミンゴ市でカリブ海に注いでいる。 この国の面積は48,442 km²で我国の九州と四国を合わせたものよりやや狭く，人口は5,620千人で人口密度は116人/km²である。しかし，中央都市及び地方都市に集中しているため，農耕地帯の人口は稀薄である。 気候は亜熱帯性海洋気候で，首都サント・ドミンゴの年平均最高気温は30℃，最低気温は20℃，年平均降雨量は1,310 mm，緑の豊かな島である。但し，島の中央部にCordillera Central山脈が東西に走るため標高により気象の変化がある。 概していえば5～10月は相当暑く，11～4月は日中に比べ夜間の温度が下りしのぎやすく，4～5，9月は雨期に相当し，7～10月に台風が通過することが多い。
産業	この国の経済成長は再三にわたる動乱によって停滞し，またトルヒーリョ独裁時代に自由主義経済の基礎を破壊したことにより，その立ちなおりがおくれたが，アメリカ援助を大きなささえとして経済再建と開発に取り組んでおり，その成果をあげつつある。1980年の1人当りの国民所得は1,140ドルである。経済の基幹は農業で，労働人口の約45％以上，外貨獲得の約66.3％を占めている。砂糖は輸出総額の約28％を占めており，主要農業生産物はさとうきび，コーヒー，ココア，タバコなどである。 工業事情は，国民の工業部門の就業人口のわずか約12％で，製造工業の65％は砂糖，タバコ，食料品などの農産物加工製造業が占め，アメリカ資本の支配力が強く，このほか建設物，セメント，ペンキ，石けん，くつ，家具の加工製造業があるが見るべきものはない。 この国は後進性から脱皮するために目下経済開発をすすめており，外国からの借款や米州開発銀行の資金援助などを受け，道路，港湾施設の工事，農業センターおよび教育，医療施設の建設をすすめて

	いる。最近の5ケ年間の経済の平均成長率は11.5%である。
主要都市	サント・ドミンゴ市 首都，人口130万人，ラテン・アメリカ諸国中最古の都市で，1496年にコロンブスの弟バルト・ロメ・コロンによって建設された。1939年から61年までのトルヒーリョ独裁政権下の時にトルヒーリョ市と呼ばれたこともあるが，政権崩壊とともにふたたびサント・ドミンゴ市と称されるようになった。政治・経済文化の中心地で，中央官庁のほか，1538年創立された最古のサント・ドミンゴ大学，コロンブスの遺体を安置してある大寺院もあり，また，コロン初代総督が1510年に住まった居城は現在コロン博物館として有名である。 サンチャゴ市 この国第2の都市で人口約48万人，農業，商業，工業の中心地である。シャツ，ラム酒やタバコなどの製造工場が多い。

4. 移住地の概要

(1) ダハボン移住地

所在地	ダハボン県ラ・ビヒア COLONIA LA VIGIA, DAJABON	
面積	1,200 ha	
経緯	国境地帯開発のため創設された国営移住地で，1956年（昭和31年）7月29日，28戸，185名の日本人移住者が，初めて入植した。しかし，募集要項どおりの土地配分がなされなかったこと，灌漑水の絶対量が不足したこと，さらに，動乱等により転出者が続出し，かつては日本人移住地として，最盛期には58戸入植したが現在は7戸が定住している。	
自然環境	地形	一部小丘を除き概ね平坦であるが，南から北へわずかな傾斜をなしている。
	地質・土壌	赤桂色の埴壌土または埴土であるが，河沿低地帯は泥炭である。
	植生・林相	樹木は繁茂しているが，河沿いより離れるに従い，乾燥地帯特有の幹の短い葉の小さい灌木となっている。
	気候	最高平均気温（8月頃）28.4℃最低平均気温（1月頃）22℃夏季は相当に暑いが，夜は比較的涼しく寝き易い。平均年降雨量1,200～1,300 mm 1月～3月は乾期で，降雨量は極度に少ない。
社会環境	交通	移住地より東方25Km地点に，ダハボン～モンテ・クリスト間のアスファルト道路があり，移住地からこれらの町へは随時乗合タクシーが連結している。ダハボン市～サント・ドミンゴ市間（300Km）には，定期バスが1日2便運行している。 ダハボン市（人口23,000人），南東6.5Km，モンテ・クリスト市（人口15,000人）北北東35Km。
	医療・教育	地区内には医療施設がないが首都サント・ドミンゴ市は各種医療施設が完備しており，当協賛約医をしている。 学校は，地区に小学校，ダハボン市に小学校，中学校併用の初等校（8年）と高校がある。
	電気	導入されておらず自家発電による。
	飲用水	共同水道
	地区内道路整備状況	開発されていないが極めて良好
	公共施設	
	事業団医療組合等	事務用井戸 野球場

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	7	21	7
		非居住	－	－	－
		計	7	21	7
	現地人		－	－	－

昭和58年4月1日現在

主な出身県名：愛知，福島，山口，福岡

分譲状況		
	総面積	1,200 ha
	ロッテ面積	6 ha
	分譲条件および価格	無償，土地は入植8年後に無償譲渡

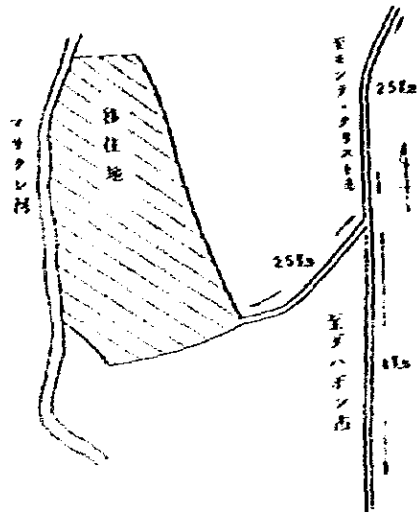
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	残地
	1,200 ha	－	－	－

分譲状況		
	地権取得	未取得

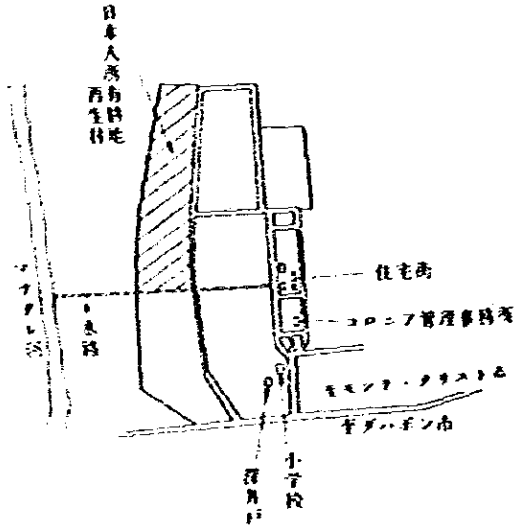
昭和58年4月1日現在

農業		
	主作目	水稲（2期作）
	形態	水稲を専業とし若干の畜産を取り入れている。
	農機具の普及状況	トラクター 1.5台，トラック 1.5台，耕耘機 1.5台，コンバイン 0.3台（自走式）（一戸当り）
	家畜飼養頭数	肉牛（成12.5頭・仔7.5頭），乳牛（成6.5頭・仔2.5頭）（昭和57農年度）（一戸当り）
	営農技術機関	
	営農指導	事業団サント・ドミンゴ支部
	金融機関	事業団，銀行
	主作物取扱機関	ドミニカ食糧公団、民間精米所の個人扱し

地区略図


移住地
マサタレ村
モンテ・クリスト
25km
25km
キダハボン市
15km

移住地略図


日本人移住地
西生村
マサタレ村
住宅街
コロニア管理事務所
モンテ・クリスト
キダハボン市
小学校

(2) コンスタンサ移住地

所在地	ラ・ベーガ県コンスタンサ COLONIA JAPONESA CONSTANZA, LA VEGA	
面積	900 ha	
経緯	昭和31年初めて日本人移住者17家族 120名が入植したが，それ以前には，スペインからの移住者も入植している。当地は農業を充足するため設定した農業選抜移住地で，最初の土地配分が狭少のため転住者を募って土地を確保し，土地問題は解決したが，ハラパコア移住地が農業をつくることによって生産過剰となり，また連作による地力消耗ならびに投機的作付によって行き詰まり，トルヒーリョ将軍暗殺後，帰国ならびに南米転住者が続出した。現在の入植戸数は16戸となっている。	
自然環境	地形	この国の中央部セントラル山脈内のコンスタンサ盆地にあり，標高1,200mの高原地帯である。
	地質・土壌	土壌は黒色又は黒褐色の埴土で酸性である。
	植生・林相	樹木は松が一般に多いが現在は激しく，減少の一途をたどっている。
	気候	年間平均20度前後で風光明媚の高冷の地である。 最高平均気温 25.8℃，最低平均 10.9℃，年平均 18.3℃ 雨期5～10月，乾期11月～4月，年間平均降雨量1,060mm
	地権取得	一部取得済，未取得分は調整中（昭和58年3月末現在）
社会環境	交通	乗合タクシーが一般の交通機関となっており，ラ・ベーガ～サント・ドミンゴ間は乗合バスが数多く運行している。 ハラパコア市人口45,000人，北東43km，サンチャゴ市人口148万人，北92km，ラ・ベーガ市人口195,000人，北東48km，サント・ドミンゴ市人口130万人，南東140km　　コンスタンサ市 31,153人
	医療・教育	地区内に医療施設はない。地区外のコンスタンサ市には公立病院1，公立保健所1，私立病院2がある。 地区内に学校はないがコンスタンサ市に小学校，中学校併用の初等校と高校（夜間）がある。
	電気	全戸都市電気がある
	飲料水	都市水道が完備している。
	地区内道路整備状況	幹線は住宅地区まで完全舗装されている。地区内道路は舗装されていないが雨天の際も車輌の運行が途絶えることなく良好である。
	公共施設	事業団援助により公民館が1981年12月に建設された。

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	16	59	11
		非居住	－	－	－
		計	16	59	11
	現地人		－	－	－

主な出身県名：鹿児島，山口，福岡

昭和58年4月1日現在

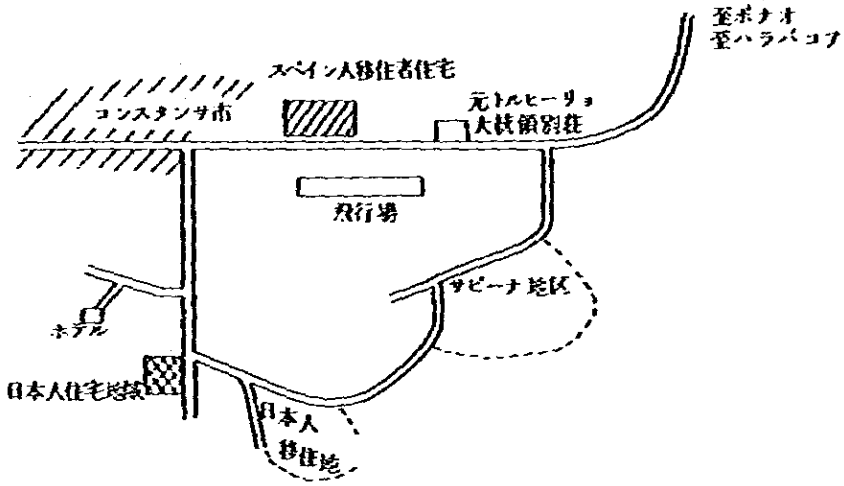
分譲状況		
	総面積	900 ha
	ロッテ面積	5 ha
	分譲条件および価格	無償，土地は入植10年後無償譲渡

分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	900ha	－	－	－

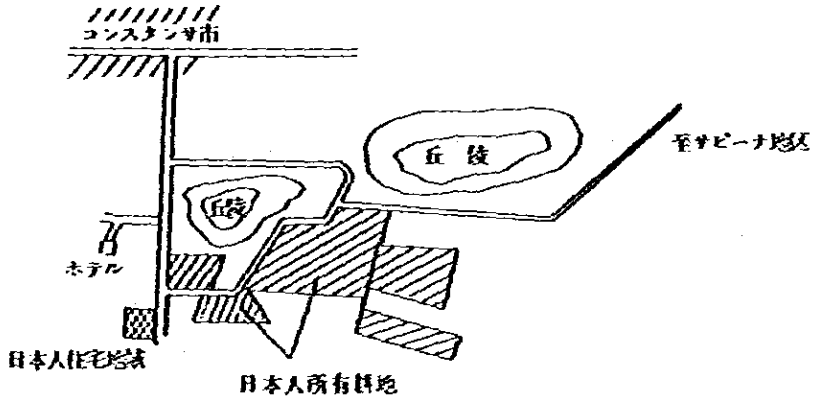
昭和58年4月1日現在

農業		
	主作目	サヤエンドウ，ニンニク，カリフラワー，タマネギ等の蔬菜類
	形態	蔬菜の専業が大部分を占め，バラ，キク，カーネーション等の花卉農家もいる。
	農機具の普及状況	トラック 20台 トラクター 11台 耕耘 16台 （一戸当り）
	家畜飼養頭数	肉牛（成20.0頭・仔10.0頭），乳牛（成1.4頭），役馬（成0.7頭）（一戸当り）（昭和57農年度）
	営農指導機関	
	営農指導	事業団サント・ドミンゴ支部
	金融機関	事業団及び銀行
	主作物販売機関	業者に直売，市場へ個人出荷，サント・ドミンゴ市のスーパーマッケット，輸出用サヤエンドウは ニューヨークの中国料理用として輸出業者へ出荷
	その他	標高が1,200mの高原地帯，この自然環境を生かし蔬菜の集約栽培を行っている。

地区略図


至ボナオ
至ハラパコナ
スペイン人移住者住宅
コンスタンサ市
元トルヒーリョ
大統領別荘
飛行場
サピーナ地区
ホテル
日本人住宅地域
日本人
移住地

移住地略図


コンスタンサ市
丘陵
至サピーナ地区
丘陵
ホテル
日本人住宅地域
日本人所有耕地

(3) ハラバコア移住地

所在地	ラ・ベーガ県 COLONIA JAPONESA JARABACOA, LA VEGA	
面積	470 ha	
経緯	中央セントラル山脈内のハラバコア盆地に位置し，気候にめぐまれ交通の便もよい。1957年(昭和32年)コンスタンサ移住地より転住者13戸により入植が初まった。野菜指定移住地でトマト，ナスを主作とし，気候が良い理由で転入者は多く，時は86家族までとなったが，市場の伸び悩みと水路の完成によって水稲が栽培されるようになり，当初の農業移住地は水稲移住地に変ぼうした。 ここでも過剰人員と農況から転出者が続出，現在は14戸となっている。	
自然環境	地形	セントラル山脈内の標高600～700mの谷間の台地で傾斜が多い。
	地質・土壌	表土10～50cmで黒褐色の表土または埴壌土で酸性。 石灰岩質の礫が含まれている所もある。
	植生・景相	本地区周辺は，樹高20m以上の木からなる森林地帯であり，椰子類が多く含まれている。
	気候	雨期5～10月，乾期11～4月，年間平均降雨量1,456mmで年間平均しているが特に5月が最も多い。 最高平均気温29.3℃，最低平均16.3℃，年平均22.8℃
社会環境	交通	国土の中央に位置し，各主要都市に最も近く交通も至便である。 移住地は首都サント・ドミンゴ市北西155km，サンチャゴ市南々東49km，ラ・ベーガ市北西29km地点にあり，当地区はハラバコア市の南0.5kmの町はずれに在る。 ハラバコア市は最近，特に避暑別荘地として急速に開発が進められている。 サント・ドミンゴ市人口130万人，南東155km，サンチャゴ市人口48万人，北北西49km，ラ・ベーガ市人口195万人，南東29km，ハラバコア市人口1.5万人北0.5km
	医療・教育	地区内に医療施設はない。隣接のハラバコア市には公立病院1，私立病院2がある。 またハラバコア市には，小学校，中学校併用の初等校と高校がある。移住者子弟のために日本語学校も開かれている。
	電気	全戸都市電気が入っている。
	飲料水	都市水道を利用
	地区内道路整備状況	渡船することなく通行可能である。
	その他	農業所有の共同機械

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数
	日本人	居住	14	55	13
		非居住	−	−	−
		計	14	55	13
	現地人		−	−	−

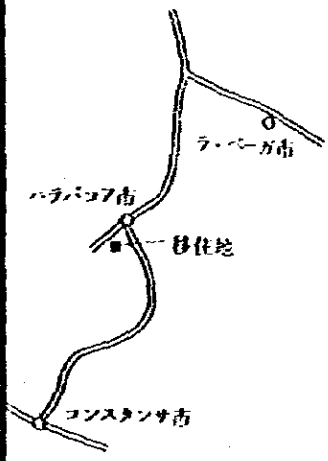
主な出身県名：鹿児島，福島，熊本，徳島

昭和58年4月1日現在

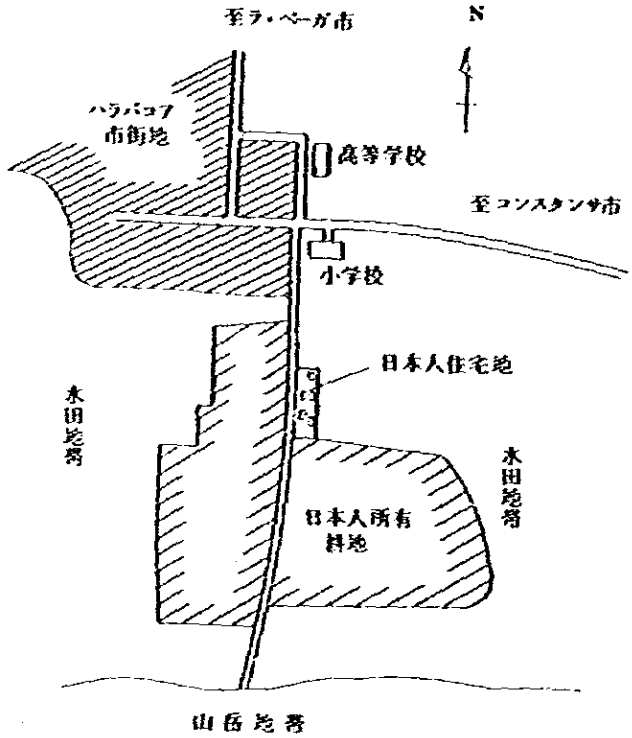
分譲状況		
	総面積	470 ha
	ロッテ面積	46 ha
	分譲条件および価格	無償，土地は入植10年後無償譲渡
	分譲状況	分譲済面積：470ha／未分譲面積：−／道路市街地等利用地：−／除地：−
	地権取得	一部取得済，未取得分は調整中　昭和58年3月末現在

農業		
	主作目	水稲，ダイコン，ウリ，トウガラシ，キャベツ
	形態	水稲を中心として，農業のほか畜産を取り入れた多角経営を行っている。水稲は2期作を行っている。
	農機具の普及状況	トラック15台　耕運機28台　トラクター0.3台　動噴22台　精米機0.7台（一戸当り）
	家畜飼養頭数	乳牛（成5.5頭・仔3.2頭），肉牛（成3.7頭・仔2.3頭），役牛（成1.2頭）役馬（成0.7頭）（一戸当り）（昭和57農年度）
	営農保護機関	
	営農指導	事業団サント・ドミンゴ支部
	金融機関	事業団，銀行
	主作物取扱機関	ドミニカ農産公団，民間精米所，農業協同組合販売，サンティアゴ，サント・ドミンゴ市場へ出荷

地区略図


ラ・ペーガ市
ハラバコフ市
移住地
コンスタンサ市

移住地略図


至ラ・ペーガ市
N
ハラバコフ
市街地
高等学校
至コンスタンサ市
小学校
日本人住宅地
水田地帯
水田地帯
日本人所有
耕地
山岳地帯

(4) アグアネグラ（アルタグラシアを含む）同地域移住地の概要

所在地	ペデルナーレス県アグアネグラ（アルタグラシア） COLONIA AGUAS NEGRAS, PEDERNALES COLONIA LA ALTAGRACIA, PEDERNALES	
面積	120ha	
経緯	本移住地は，この国の最西南のハイチとの国境にあり，コーヒー栽培移住地に指定され，1958年（昭和33年）5月28日と同年6月26日の2回に亘り，コーヒー栽培の目的で入植した。コーヒー栽培は，由価作物が主であるため，土地は1戸当り200タレア（約12ha）の配分であった。鉄道もつ立地条件が劣り急傾斜，岩石が多いことからも成果を上げないうちに大量の帰国移住者を出した。現在残る2家族（1家族アルタグラシヤ）は，これら転出者の農地を買い増して大規模なコーヒー園を経営している。今日もなお拡張をつづけている	
自然環境	地形	海高6～700mに位置して，平坦は殆んどなく雨期は急流の通路となる。
	地質・土壌	黒褐色または，褐色の埴土および壌埴土で酸性であり，表土は概して浅い。
	気候	最高平均気温29.5℃，最低平均気温16.1℃ 年平均気温22.9℃，夏季は相当に暑いが，夜は比較的涼しく凌ぎ易い。 雨期5月～10月，乾期11月～4月年平均降雨量91.1mm
社会環境	交通	移住地より南方30kmにペデルナーレス市があり，ここよりバラオーナ市までは，乗合バスの便がある。またサント・ドミンゴ市方面までは，毎日数便の乗合バスが往復している。
	市場	主に転出であるが一部国内にも出荷している。
	医療・教育	地区内には小学校，ペデルナーレス市には小学校，中学校，高校がある。 地区内には，医療施設がないがペデルナーレス市には，国立病院がある。
	電気	自家発電
	飲料水	井戸水を使用，及び簡易水道
	治安	ペデルナーレス市警察管下におかれておりいたって平穏である。
入植世帯数	入植者数	62戸　310名（当初）
	現入植数	2戸　8名
	出身県	北海道1，鹿児島1

入植世帯数	区分 ＼ 入植数		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	
	日本人	居住	(1) 2	6	1	(1) アグアネグラ
			(2) 1	3	1	(2) アルタクラシア
		非居住	-	-	-	
		計	3	9	2	
	現地人		-	-	-	昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	120ha
	分譲条件及び価格	無償，土地はアグアネグラ入植10年後，アルタクラシア入植8年後に各々無償譲渡
	分譲状況	分譲済面積　11636ha
	地権取得	取得者2名　2,000タレア
		昭和58年4月1日現在
農業	主作目	コーヒー
	形態	コーヒーの単作栽培
	農機具の若及状況	栽培に必要な農機具，全部そろっている。
	家畜飼養頭数	なし

付　録

移住地内日系団体一覧

Ⅰ　ベレーン支部
Ⅱ　レシーフェ支部
Ⅲ　リオ・デ・ジャネイロ支部
Ⅳ　サン・パウロ支部
Ⅴ　ポルト・アレグレ支部
Ⅵ　ブエノス・アイレス支部
Ⅶ　アスンシオ支部
Ⅷ　サンタ・クルース支部
Ⅸ　サント・ドミンゴ支部

（注）　上記支部管内日系団体の一部については，「海外における日本人および日系人団体一覧表」（S.59年1月，外務省領事移住部発行）より抜粋作成した。

凡　　例

1. この一覧表にかかげた団体はおおむね次のとおりである。

(1) 日本人会（日系人会と合同組織のものを含む）

(2) 日系人会

(3) 移住地に係わる経済・社会・文化関係団体

(4) 本邦商社，メーカー等駐在員が組織している経済関係団体

(5) 日本人会的活動を併せ行っている組合，団体

なお，海外在留邦人子女のための教育施設，宗教関係，日本語講習会，趣味，娯楽の会は原則として除外し，また，通常外国側の機関となっているジャパン・ソサエティの類も多く割愛した。

2. 表中「会員の資格」及び「会員数」の欄の各項目は次のとおりである。

会員の資格　(1) 個人会員，法人会員，その他の別

(2) 同伴家族を個人会員に含めるか否か。

(3) 現地国側にも入会を認めているか否か。

会　員　数　(1) 個人会員数，法人会員数，その他の数

(2) 同伴家族に会員資格を与えないものについては，同伴家族の推定数。

(3) 現地国側の個人会員数，法人会員数，その他の数

I. ベレーン支部

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び所属団体名，年齢	連絡先（郵便番号及び電話番号の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	常勤役職員定員の有無（内訳）	事務所の有無名称及び住所	備考
トメアスー農業協同組合 COOPERATIVA AGRICOLA MIXTA DE TOME-AÇU	上 [illegible] 森 幸 UENUGI YOSHIYUKI	C. P. 39, BELEM, PARA. RUA. NIQUEIRA MENDES 93	個人					組合員活動
トメアスー農村振興協会 ASSOCIAÇÃO DE FOMENTO AGRICOLA DE TOME-AÇU	武 田 武 [illegible] TAKEDA TAKESHI	4BOCAS, TOME AÇU, PARÁ, BRASIL	個人 法人	135	1981.10.20	事務所有 職員 有名 役員 11名		地域の農村振興及び事業実施支援
トメアスー日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL DE TOME-AÇU	大 沼 春 雄 OONUMA HARUO	C. P. 38, QUATRO BOCAS TOME AÇU, PARÁ, BRASIL 東京事務所 TEL 727-1316	会の目的に賛同する個人・団体（邦人及び日系人）	個人 350戸 他の現地関係の会員 1,350人	1970. 4. 3 公益団体認可	事務所有 事務職員 3名 文化会館 日伯学校	事務所 「トメアスー」 の近郊	1. 日本人の定着安定 2. 社会生活の向上 3. 農村振興に必要な事業
グアマ日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO NIPO BRASILEIRA DE GUAMÁ	米 川 敏 明 YONEKAWA TOSHAKI	BR316, KM2, APIU, GUAMA PARÁ, BRASIL TEL 会長宅 744-1213 235-0329	会の目的に賛同する個人・団体（邦人及び日系人）	39戸 他の現地関係の会員 39人	1981. 6. 10 取 得	な し	な し	同 上
アカラ日伯文化協会	大 [illegible] 義一郎 OK GIICHIRO	KM27, ACARA PARÁ, BRASIL	会の目的に賛同する個人・団体	42	法人手続中 （1980.11）			1. 日本人の定着安定 2. 社会生活の向上 3. 農村振興に必要な事業
モンテ・アレグレ農業協同組合連合会 COOPERATIVA INTEGRAL DE REFORMA AGRARIA DE MONTE ALEGRE	岸 [illegible] 夫 KISHI YASUO	TV. MAJOR BARATA 15 MONTE ALEGRE	個人	252 （日系人 29人）	1959. 8.24	事務所 職員 48名 役員 10名		地域の農村振興事業 実施支援
モンテ・アレグレ日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO DE CULTURAL NIPO-BRASILEIRA DA MONTE ALEGRE	上 野 [illegible] 樹 UENO KOJI	TRAVESSA, MAJOR BARATA 319 MONTE ALEGRE PARÁ, BRASIL TEL 会長宅 533-1245	会の目的に賛同する個人・団体（邦人及び日系人）	個人 34戸 他の現地関係の会員 147名	1980. 4. 20 取 得	文化会館	な し	1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上
アルタミーラ日伯文化協会	北 [illegible] 勲 ISAO KITAGAWA	C. P. 89, ALTAMIRA PARÁ, BRASIL	会の目的に賛同する個人・団体	8				同 上

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び所属団体名，任期	連絡先（専用事務所所在地の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	常勤役職員の有無・内容・職員数・等	機関紙の有無名称，発行部数	備考
マカパ日伯協会 ASSOCIAÇÃO NIPO BRASILEIRA DE MACAPA	篠山満義 SHINAYAMA MITSUYUSHI	AV. COARACY NONES 1136, MACAPÁ EST. AMAPÁ, BRASIL 68900 TEL 会長宅 096-621-6465	会の目的に賛同する個人・団体（邦人及び日系人）	47戸 他に現地国の会員 198名	有り	なし	なし	1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上
コワイエルデ・サーレ農業協同組合 COOPERATIVA AGRICOLA MISTA DE EFIGENIO SALLES LTDA	浅井久次 ASAI SOTOJI	ESTRADA TORGUATO TAPAJOS, KM41 RUA 10 DE JULHO618, MANAUS, AMAZONAS	組合員	36	1962. 5.15	専従 10名 職員 8名		現地の農作振興改善事業育成改善
ベク・ビスタ自治会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL SOLNACIENTE	藤田猛 FUJITA TAKESHI	KM17, RODOVIAAM-070 MANAUS, AMAZONAS.	個人	31	1978.12.21	専従職員 1		1. 自由文化交流 2. 日語普及 3. 学生寮の運営 4. 医療福祉事業
トレーゼ・デー・ジンゲ自治会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL 13 DE SETEMBRO	須藤巌 SUDO IWAO	C. P. 237, PORTO VELHO, ESTADO DO RONDONIA	個人	23	1981. 4.29			1. 自由文化交流 2. 日語普及 3. 学生寮の運営 4. 医療福祉事業
汎アマゾニア日伯協会 ASSOCIAÇÃO PAN-AMAZONIA NIPO BRASILEIRA	山崎太郎 YAMASAKI TARÔ 1983.3～1984.2	TV. 9. DE JANEIRO, 1267, BELÉM, PARÁ, BRASIL 電話 091-222-7718	個人，法人（社団法人）	800戸 他に現地国の個人会員，法人会員 240名	1960. 1. 24 社団法人取得 1967.10.15 公益団体認可	専従職員6名 事務所，講堂 日本語教室，学生寮	会報「パン・アマゾニア」年4回発行 現在まで151号発行	1. 日伯親善，文化交流 2. 日語普及 3. 北伯日系団体との連携，援助 4. 学生寮の運営，奨学資金 5. 事業団の委託運営（教育・文化） 6. 監督官庁：労働局，労働裁判所，大蔵局，観光局，体育文化
アマゾニア日伯福祉協会 BENEFICENCIA NIPO-BRASILEIRA DA AMAZONIA	大嶽一 OOTAKE HAJIME 1983.3～1985.2	TV. 9. DE JANEIRO No 1267, BELEM, PARA, BRASIL 電話 091-224-8422	個人，法人（社団法人）	1,415	1965. 5. 15 公益団体認可 1972. 5. 22 パラー州認可	事務局専従 病院運営 職員数98名 医師 28名	「パン・アマゾニア」同上	1. 福祉事業 2. 病院の運営（トメアス・アマゾニア病院の運営を含む） 3. 医師，看護婦の育成 4. 事業団の委託運営（医療） 5. 監督官庁：労働局，大蔵局，衛生局，医師会総評議会，看護婦総評議会
サンタレーン日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO NIPO BRASILEIRA DE SANTARÉM	辻小平 TSUJI KOHEI	CAIXA, POSTAL 67, SANTARÉM, PARÁ BRASIL TEL 会長宅 522-2731	個人，法人（邦人及び日系人）	60戸 他に現地国の個人会員 300名	有り	文化会館（1984.1完成予定）	なし	1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上
トランス・アマゾニカ ブライー日伯文化協会	河合栄一 KAWAI EIICHI	C. P. 110, ALTAMIRA, PARÁ, BRASIL	個人，法人	12				1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上

団体名（日本語名，現地名）	代表者名及び肩書，住所	連絡先（郵便番号，住所，電話）	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	活動拠点建物の有無，内容・敷地面積等	地域社会の有無名称及び会員数	備考
サンタ・イザベル サントアントニオ日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO DE CULTRAL NIPO-BRASILEIRA DA SANTA IZABEL E SANTO ANTONIO	井内 政義 IUCHI MASAYOSHI	BR 316 KM41, SANTA IZABEL, PARÁ, BRASIL 会長宅 TEL 744-1449/1399	個人，団体（邦人及び日系人）	135戸 他民族地域の会員 134名	1962. 1. 28 登録	文化会館 敷地2グランド	なし	1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上
カスタニャール日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL NIPO BRASILEIRA DE CASTANHAL	山本 武男 YAMAMOTO TAKUO	TRAV. QUINTINO BOCAIVA 2091, CASTANHAL, PARÁ, BRASIL. 事務所 TEL 721-1288/1315	個人・団体（邦人及び日系人）	54戸	1977. 10. 11 登録	文化会館 敷地2グランド	なし	1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上
イガラペ・アスー文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL DE IGARAPÉ-AÇÚ	沼田 武四郎 NAWADA TAKESHIRO	BROAO DE RIO BRANCO M. IGARAPE-AÇÚ, PARÁ, BRASIL.	個人・団体（邦人及び日系人）	40戸 他民族地域の会員 186名	1977. 2. 22 登録	文化会館	なし	1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上
ティメボ・テアワ協会	諸冨 正俊 MOKOTOMI MASASHI	MUNICIPIO TIMBO TEUA, PARÁ, BRASIL	個人，団体	13				1. 福祉事業 2. 病院の経営 3. 医師，看護婦の育成
サンタ・マリア日本人会	千葉 久光 CHIBA HISAO	MUNICIPIO ST. MARIA, PARÁ, BRASIL	個人・団体	14				1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上
アバエテツーバ日本人会		MUNICIPIO ABAETETU-BA, PARÁ, BRASIL	個人・団体	30				1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 社会生活向上
マラニョン州日系協会 ASSOCIACAO DE CULTURAL NIPO-BRASILEIRÃ DA MARANHÃO	四元 栄 YOTUMOTO SAKAE	SAO, LUIS CAIXA POSTAL 517 （会長宅）	個人・団体（邦人及び日系人）	37戸 他民族地域の会員 200名	有り	文化会館	なし	同上

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び所属団体名，任期	事務所（専用事務所及事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	常勤役職員数（有無・内訳・職員数・給	職員数の有無名称並びに受入部数	備考
コケイ＊日本人会	佐藤平治 SATHO HEIJI	VILA NOVA, COQUEIRO, PARÁ, BRASIL	個人・団体	40				1. 日系人の定着安定 2. 社会生活の向上 3. 農村振興に必要な事業
ベレーン日本人会	吉田哲助 YOSHIDA TETSUKE	A/C NOBUO NAKAJIMA BELEM, PARÁ, BRASIL	個人・団体	20				1. 日系人の定着安定 2. 社会生活の向上 3. 農村振興に必要な事業
ベルビーラ＊日本人会	門馬真太郎 MONMA SHINTARO	A/C. YOSHIMI NOGUCHI (CEASA) BELEM, PARÁ, BRASIL	個人・団体	15				1. 日系人の定着安定 2. 社会生活の向上 3. 農村振興に必要な事業
＊エマ日本人会	重友茂一 SHIGETOMO SEIICHI	A/C YOSHIMI NOGUCHI (CEASA) BELEM, PARÁ, BRASIL	個人・団体	13				1. 日系人の定着安定 2. 社会生活の向上 3. 農村振興に必要な事業
パラエンセ産業協同組合 COOPERATIVA AGRICOLA MISTA DO PARAENSE LTDA	藤原英彦 FUJIHARA HIDEHIKO	BR316 KM41, ST. IZABEL, PARÁ, BRASIL	個人	65	1956. 5.30	事務所 職員 5 5名 役員 1 2名		地域の農村振興及福祉事業育成改善
アマゾニア産業協同組合 COOPERATIVA AGRICOLA MISTA DE AMAZONICA	関岡彦一 SEKIOKA JUNICHI	BR316 KM62 CASTANHAL, PARÁ, BRASIL	個人	33	1976.11.20	事務所 職員 1 4名 役員 1 0名		地域の農村振興及福祉事業育成改善
西部アマゾン日伯協会 ASSOCIAÇÃO NIPO-BRASILEIRA DA AMAZONIA OCIDENTAL	小野義博 TERANO YOSHIKATSU 1983.1～12	RUA . TEREZINA. 95. ADRIANOPÓLIS. MANAUS. AMAZONAS. BRASIL, CEP－69000 電話092－234－7185	個人・法人（社団法人）	個人100人 法人 7団体（222人） 他の地区協会の会員 103人	1968. 7取得	職員 3名 事務所 診療所	なし	1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 学生寮の運営 4. 医療福祉事業 5. 事業団の委託業務（教育・文化・医療） 6. 1965.3.28設立
カショエラ・グランデ日伯会 CACHOIERA GRANDE	出田勇 IDETA TSUTOMU	BAIRO DE CASHOERA-GRANDE, MANAUS, AMAZONAS	個人	25				1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 学生寮の運営 4. 医療福祉事業

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び住所（団体名，住所）	連絡先（郵便番号住所又は所在地の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	施設及び職員の有無・内容・職員数・号	特別法の有無及び法令及び規定	備考
アクレ日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL ACRE	小池 オサム KOIKE OSAMU	C. P. 02, RIO BRANCO, ESTADO DO ACRE	個人	25				1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 学生の援護 4. 医療福祉事業
ボア・ビスタ日本人会 ASSOCIÇÃO NIPO-BRASILEIRA DA BOA VISTA	土井 賢治 DOI KENZABURO	C. P. 199, BOA VISTA	個人	11				1. 日伯文化交流 2. 日語普及 3. 学生の援護 4. 医療福祉事業
アルケメス日伯体育文化協会 ASSOCIAÇÃO NIPO-BRASILEIRA DA ESPORTIVA ARQUEMES	後藤 満 GOTHO MITSUKU	C. ESA. AR QUEMES ESTADO DO RONDONIA	個人	45				

Ⅱ. レシーフェ支部

団体名（日本語名、伯語名）	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先（本国事務所及事務所所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	専従役員数の有無、内容・職員数・等	補償金の有無名称及び支給額	備考
レシーフェ日本文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL JAPONESA DO RECIFE	藤山 成之	Rua Epaminondas Cristóvão de Oliveira No107 Bongi, Recife, PE, Brasil CEP50000 電話 227-1401	日本人及日系人	250	1972.6.23 設立	職員数 1名 役員 0名		1. 業務内容 (1) 事業団委託業務（教育・文化） (2) 学校食給食作業 (3) 学生奨励賞 (4) 会員の親睦，相互扶助行事
サルバドール日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL NIPPO-BRASILEIRA DE SALVADOR	前川 和久	RUA Campinas de Brotas No104 - E. Brotas, SALVADOR BA, BRASIL, CEP-40000 電話 244-9512	日本人及日系人（民事関係）	134	1975.5.31	役員 4名		1. 業務内容 (1) 社会・文化・体育事業 (2) 日伯文化交流 (3) 会員相互間の親睦を図る。
南バイーヤ日伯青年文化体育協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL ES PORTIVA E AGRICOLA DE SUL DA BAHIA	岸 貞人 農業	AV. PRINCIPAL 115 POSTO DE MATA NOVA VICOSA ESTADO DA BAHIA	日本人及日系人	70	1978.2.16			
バイーヤ日伯文化協会連合会			日系関係	レシーフェ除く6関係（440）	準備中			業務内容 事業団の委託業務（教育・文化）他
ウナ日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL NIPPO-BRASILEIRA DA COLONIA UNA	生田 萬 農業	A/C PIC-UNA MUNICIPIO UNA ESTADO DA BAHIA	日本人及日系人	44	1978.4.4	公民館		
イツベラ開発農業文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL NIPPO-BRASILEIRA DO PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃO DE ITUBERA	宮川 健雄 農業	CX PONTAL NO17 ITUBERA ESTADO DA BAHIA	日本人及伯人	日本人29 伯人30	1977.7.4（認可 1977.227）			
J.K日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL NIPPO-BRASILEIRA DA COLONIA J.K	内藤 郁之輿 農業 従業員 1名	COLONIA J.K MATA DE SÃO JOÃO ESTADO DA BAHIA	日本人及日系人	72	1974.12.22	公民館		
タペロア日伯文化協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL NIPPO-BRASILEIRA DE TAPEROA	仲田 友也 農業	RUA SAUL OLIVEIRA S/N TAPEROA ESTADO DA BAHIA	日本人及日系人	44	準備中			

Ⅲ. リオ・デ・ジャネイロ支部

団体名（日本語名、略称名）	代表者名及び代表団体名、任期	連絡先（専用事務所住所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	専従職員の有無・内容・職員数・号	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
フンシャール文化体育協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL E ESPORTIVA DE FUNCHAL	代表 会長 一名 任期 3ヶ月	専用事務所 ナシ C/P 38 CACHOEIRAS DE MACACU 28680-CACHOEIRAS DE MACACU ESTADO DO RIO DE JANEIRO	フンシャール在住	43	1976.11.8 法人登録済み	会館 専従職員なし		
リオ・デ・ジャネイロ文化体育連盟	理事長 [illegible]	Av. Rio Branco, 156-S/1038 Rio de Janeiro, RJ, Brasil. 電話 262-2416	任意法人	賛助団体 22 （1,200名） 1982年現在	1935年任意団体として発足 1977.5.14 法人格取得 （日伯法人）	職員数 1名 役員 1名		業務内容 ①文化、教育、芸術、スポーツ振興活動 ②日伯文化交流（日伯研修会、日伯交流会、各種懇談会） ③当事業団の援助受託団体（教育・文化）
ベロオリゾンテ日伯文化協会		BELO HORIZONTE, MINAS GERAIS.						
ブラジリア日伯文化協会	会長 [illegible]	BRASILIA						
ブラジリア日伯文化協会連合会	佐藤正紀	BRASILIA						
リオ・デ・ジャネイロ日本人工会議所 CAMARA DE COMERCIO E INDUSTRIA JAPONESA DO RIO DE JANEIRO	会頭 福元 健二（ブラジル石川島播磨社長） 1981.5 就任 1982.10～1984.9	AV. FRANKLIN ROOSEVELT 126/709, RIO DE JANEIRO TEL 専用事務所 220-1900 220-0702	法定団体 邦人企業、日系人企業が主体、日本人、日系人、自然人も会員として参加	法人会員 80社 自然人会員 10名	1956.6.26 取得	専用事務所 専従職員 3名	「会報」300部 月 2回	会員相互間の親睦 日伯間の商・工業・文化の交流促進、友好関係の増進

団体名（日系群名，伯語名）	代表者名及び所属団体名，任期	連絡先（専用事務所及事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	諸施設専従職員の有無・内容・職員数，等	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
リオ・デ・ジャネイロ日系協会 ASSOCIAÇÃO NIKKEI DO RIO DE JANEIRO	会長 出羽孝史 SR.TAKASHI IZUWA （リオ・日伯文化相談役） 1977年就任 任期2年 現在4期目 1983.1.～ 1984.12	RUA TEOFINO OTONI, 93, 1º ANDAR, RIO DE JANEIRO, ESTADO DO RIO DE JANEIRO, BRASIL TEL 253-0524 （専用事務所）	在伯邦人，日系人が主体で同伴家族を含める進出企業，日系企業も法人会員として参加	(1)法人会員 43社 (2)自然人会員 450名	有り 1972.8.24	専用事務所 クラブ・ハウス なし 専従職員 4名	「リオ日系」 600部 月1回	会員相互の親睦，日伯親善のための諸行事，映画会，各種スポーツ大会，慈善バザー，日語学校，老人クラブ，囲碁，将棋，麻雀等の同好会を実施している
日・伯文化協会 INSTITUTO CULTURAL BRASIL-JAPÃO	会長 空席 副会長 神宮 隆一 （代行） SR.RYUICHI SHINJIA 任期 1983.1.～ 1985.1.	AV.FRANKLIN ROOSEVELT, 39, 15º ANDAR, RIO DE JANEIRO, ESTADO DO RIO DE JANEIRO, BRASIL TEL 252-5425 （専用事務所）	進出企業，日系企業および自然人を会員とする 団体・家族を含める	(1)法人会員 14団体 (2)自然人会員 125名	有り 1958.5.14	専用事務所 専従職員 3名	「BOLETIM」 500部 月1回	日・伯両国間の文化交流のための諸行事を年間を通じて行っている
ミナス日・伯文化協会 SOCIEDADE MINEIRA DE CULTURA NIPO-BRASILEIRA	会長 佐藤 勝 SR.HAKARU SATO （ウジミナス製鉄社員） 1983.4～ 2年間	Av.AUGUSTO DE LIMA 876, BAIRRO CENTRO, BELO HORIZONTE, ESTADO DE MINAS GERAIS, BRASIL TEL 226-6128 （専用事務所）	進出企業，日系企業，日・伯自然人を会員とする (家族を含む)	(1)法人会員 18社 (2)自然人会員 158名	有り 1958.9.19	専用事務所 専従職員 1名	必要に応じ(0) 版を発行 200部	会員相互の親睦，日・伯両国間の文化交流，日語教育，各種スポーツ，文化的催物を実施

N. サン・パウロ支部

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び任期開始年月，任期	連絡先（専用事務所及事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	常勤役職員数の有無・内容・職員数等	機関誌の有無名称及び発行部数	備考
日伯文化協会 SOCIEDADE BRASILEIRA DE CULTURA JAPONESA	尾身俊一 MASUICHI OMI 1983.4～1985.3	Rua São Joaquim, 381, São Paulo, SP, Brasil, CEP－01508 電話 278－1755	(1) 個人及び法人 (2) 同伯家族を含めない	個人会員 4245人 法人会員 563社 282人 （1983年現在）	1953.12.17 取得	専用事務所 専従職員 20名	「フロンテア」 5000部，年1回	1. 業務内容 1）文化活動（歌唱，工芸，生花，書道，武術等） 2）青年事業（留学生，日本留学生等） 3）日伯文化交流事業（日本館，美術展示会の運営，移民資料館の開館，日本移民史年誌の編纂と運営） 4）当事業団の業務委託団体（教育・文化） 2. 監督官庁：法務省 3. 1953年11月設定
サンパウロ日伯慈善協会 BENEFICÊNCIA NIPO-BRASILEIRA DE SÃO PAULO	竹中正 TADASHI TAKENAKA 1983.3～1985.2	本部：サンパウロ市内 文協ビル5階，地階 Rua São Joaquim, 381 5º-and., São Paulo CEP－01508, 電話 278－1640 厚生ホーム（老人ホーム） ：サントス市内 癌研究療養所：カンポス・ド・ジョルドン市内 やすらぎホーム（心身障害者） ：ヴォルーリョス（サンパウロ郊外） 厚生ホーム（老人ホーム）： スザノ・イッペーランジャ・ホーム	(1) 個人及び法人 (2) 同伯家族を含めない	個人会員 6363人 法人会員 300人 （1983年現在）	1959.1.28 取得	専従職員 97名	なし	1. 業務内容 1）福祉事業，保健衛生事業，療養療養所，老人ホーム，精神病患者社会復帰センター 2）当事業団の業務委託団体（医療） 2. 監督官庁：サンパウロ州政府社会福祉局 3. 1959年1月28日設立
サンパウロ州農業者連協同組合中央会	東京オルパジャ農協	Rua São Joaquim, 381, 6º-and., São Paulo, SP, Brasil, CEP－01508	法定組合	組合員数 54名	1958.4 設立	職員 1名 役員 7名		業務内容 1）実習生受入れ，研生者受入手続代行，移住者受入れ・斡旋 監督官庁：ブラジル農務省 2）当事業団の農業移住者受入手続委託団体
ブラジル日本商工会議所 CAMARA DE COMERCIO E INDUSTRIA JAPONESA DO BRASIL	会頭 福富士郎 （南米銀行社長） 1983.4～1985.3	AV. PAULISTA 475, 18-AND., SÃO PAULO, BRASIL TEL 278－6233	(1) 法人 (2) 同伯家族を含めない	法人会員 324社 個人会員：なし	1951.6.1 取得	専用事務所 専従職員 10名	「ブラジル経済情報」 500部 毎月 2回	業務内容 (1) 日伯貿易の振興 (2) 経済情報調査 1940年5月設立

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び所属団体名，任期	連絡先（専用事務所及事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	福祉専従職員の有無・内容・職員数等	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
日本文化連盟 ALIANÇA CULTURAL BRASIL JAPÃO	内山良文 YOSHIFUMI UCHIYAMA 1985.4 ～ 1985.3	RUA SÃO JOAQUIM, 381 2°-AND LIBERDADE, SÃO PAULO, BRASIL TEL 278－9164	(1) 個人及び法人 (2) 団体関係者を含めない	個人会員 400人 法人会員 100社	1956. 11. 17 取得	専用事務所 専従職員 19名	なし	業務内容 日本語の普及，日本文化，投資の普及，日本文化研究所の維持，運営 1956年7月設立
敬老会	関口マルガリータ	Rua Siqueira Campos, 104, São Paulo, SP, Brasil. CEP－01508 電話 278－7248	公益法人	7,770名	1953.5.11 設立	職員数36名 役員 34名		1. 業務内容 困窮者の救済，老人ホーム（県の関・108名）の運営 2. 監督官庁： サンパウロ州政府社会福祉局
パウリスタ児童愛護会 （子供の園）	尾本信一	Estrada D., 1681 Colonia Itaquera, São Paulo, SP, Brasil. CEP－08200 電話 205－6437	公益法人	7,800名	1958.5.24 設立	職員数36名 役員 47名		1. 業務内容 心身障害児療育（100名） 2. 監督官庁：サンパウロ州政府社会福祉局
希望の家福祉協会	武藤一郎	Rua Siqueira Campos, 104, São Paulo, SP, Brasil. CEP－01509 電話 278－4129	公益法人	2,200名	1970.6.10 設立	職員数33名 役員 20名		1. 業務内容 重度身心障害者療育（75名） 2. 監督官庁：サンパウロ州政府社会福祉局
ブラジル日本都道府県人会連合会 FEDERAÇÃO DOS ASSOCIAÇÕES DE PROVINCIAS DO JAPÃO NO BRASIL	藤井貞治 1982.2～1984.1	Av. Liberdade, 456, 2°-and., LIBERDADE, São Paulo, SP, Brasil. CEP－01502 電話 270－5224	法定団体 (1) 法人及び賛助 (2) 団体関係者を含めない。	法人会員 46都道府県人会（京都クラブは除く） 賛助会員 53人	1975. 4. 10取得	専従職員数 2名 専用事務所	「県連ニュース」100部毎月1回 「ブラジル県連」1,000部年1回	1. 業務内容 各都道府県人会の援助と連絡調整，技術研修生の送出 2. 監督官庁：法務省 3. 1966. 4. 12設立
コーチア産業組合中央会	理事長 井上ヴルバノ忠志	Av. Jaguaré, 1487, São Paulo, SP, Brasil. CEP－05346 電話 268－1522	法定組合	組合員数 10,562名	1927.12.27	職員数6,000名 役員 14名	あり	1. 業務内容 産業組合活動 2. 監督官庁：農務省
南米銀行	長 富士雄	Av. Brigadeiro Luis Antônio, 2020, São Paulo, SP, Brasil. SEP－01318 電話 288～4933	株式会社	支店数 100店	1940.10 設立	職員数6200名 役員 13名	あり	1. 業務内容 銀行業務，外国為替，政府関係割賦金銀代行，納税等受入業務，事業団の農業組合委託業務 2. 監督官庁：大蔵省

団体名（日本語名，ポルトガル語名）	代表者名及び所属団体名，任期	連絡先（本国事務所及び本部所在地）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	常勤職員及び職員の有無・内容・職員数，学	常勤職員の有無名称及び内容，学	備考
工業経営者協会	尾 谷 文 郎	Rua dos Estudantes, 15, 10 andar, São Paulo SP, Brasil, CEP-01005 電話 270-3072	法定団体	400名	1978.6.1	職員数 1名 役員 13名	あり（なかま）	1. 業務内容 工業経営者の親睦，事業団の投資経営者加入委託業務 2. 監督官庁：法務省
商工農場中央会	中 沢 弟一郎	Rua Mendes Caldeira 300, São Paulo, SP, Brasil, CEP-03007 電話 227-8822	法定組合	組合員数 6,025名	1929.12.29 設 立	職員数692名 役員 11名		1. 業務内容 共済組合活動 2. 監督官庁：農務省
サンパウロ農業組合中央会	ウンベルト・アントニオ・アドレード・ビア	Rua Manoel Guedes, 304, 7 andar, São Paulo, SP, Brasil, CEP-04536 電話 852-7722	法定組合	組合員数 12名	1934. 4.23 設 立	職員数221名 役員 5名		1. 業務内容 産業組合活動 2. 監督官庁：農務省
中央パラテイ農事文化体育協会 ASSOCIAÇÃO AGRO-CULTURAL E ESPORTIVO DE PARATEI DE MEIO	大 田 和 昭 1年	サンパウロ州ジャカレー郡中央パラテイ，ジャカレー郵便局内 CAIXA POSTAL 144, JACAREI	ジャカレー郵便局区の住民	43	法定団体 1970. 9.19	公民館 日語学校 教師宿舎 寄 贈		
グアタパラ農事文化体育協会 ASSOCIAÇÃO AGRO-CULTURAL E ESPORTIVO DE GUATAPARA	藤 田 敬 一 2年	サンパウロ州リベロン・プレト郡グアタパラ郵便局（公民館） CAIXA POSTAL 42 RIBEIRÃO PRETO	グアタパラ郵便局管轄の18才以上の者	130	法定団体 1961. 6. 4	グラウンド	グアタパラ新聞 130部	
ピニャール郵便局文化体育協会 ASSOCIAÇÃO CULTURAL E ESPORTIVO DE COLÔNIA PINHAL	山 田 典 大 1年	サンパウロ州サン・ミゲル・アルカンジョ郡ピニャール郵便局内 CAIXA POSTAL 80, SÃO MIGUEL ARCANJO			法定団体	公民館 日語学校		
オウリーニョス郵便局日本人会	藤 原 敏 一 1年	サンパウロ州オウリーニョス郡ムンド・ノーボ郵便局オウリーニョス郵便局内 CAXA POSTAL 100, OURINHOS			未法人			

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び所属団体名，任期	連絡先（兼用事務所仮事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	施設及び建物の有無・内容・職員数・等	補助金の有無名称並びに受領額	備考
桜蕾化農業協会 SOCIEDADE DOS AGRICULTORES DA COLONIA CEREJEIRA	宮尾博光 1年	サン・パウロ州グアラレーメ郡セレージョ地区桜蕾化地内 CAIXA POSTAL 113, MOJI DE CRUZES	桜蕾桜蕾化地およびその近郊に居住する日系人	62	法人団体 1964年	公民館 倉庫		
バルゼア・フレグレ日伯文化体育協会 ASSOCIAÇÃO ESPORTIVA E CULTURAL NIPO BRASILEIRA DE VARZEA ALEGRE	小野田 常郎 2年	南マット・グロッソ州ブレーノス郡バルゼア・フレグレ地区内 CAIXA POSTAL 752 CAMPO GRANDE M. S.	バルゼア地区居住者	55	法人団体 1979. 5.14	公民館 学校 補助職員なし		
バルゼア・フレグレ農協組合	浜田伊助 2年	南マット・グロッソ州カンポ・グランデ市 CAIXA POSTAL 379 RUA 26 DE AGOSTO CAMPO GRANDE M. S.	ブレーノス郡居住して農業をしている農家	30	法人組合 1974. 8.17	本部 販売カンポ・グランデ 市 店 タヤバ ロンドン・ボリバ 精米工場 職員数 総計 64名		
日光移住地文化体育協会 （ビラ・フォルモザ） ASSOCIAÇÃO CULTURAL DE VILA FORMOSA	浜田一夫 1年	パラナ州マリア ルレーナ郡日光移住地内 CAIXA POSTAL 225 ULMIARANA			法人団体	公民館 日語学校		
パラナ日伯文化連合会	中村三郎 （役員は2カ年ごと改選） 1982.1.23～ 1984.1.22	RUA TERESINA, 70, 64.A. LONDRINA, PARANA TEL(0432)-22-5910	パラナ州在住日系文化協会日本人会	75団体 17,770戸	1968. 8. 17 C.C.C 73-228813/0001-89	パラナ農業博物館農事試験場 38 ha 事務職員 4名	なし	活動内容 加盟団の委託業務 （教育・文化・医療）他

V. ポルト・アレグレ支部

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び所属団体名，任期	連絡先（事務所所在地及び代表者の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	専従職員の有無・内容・職員数・内	事務所の有無及び広さ	備考
イボテ農業協同組合（COOPERATIVA HORTICRANIEKA MISTA IVOTI LTDA）	加賀美 [illegible]	R/c COLONIA JAPONESA VALE DAS PARMEIRAS IVOTI-RS（組合事務所）	イボテ地方農家名	41	（法人格認可）（1972年）	農協事務所職員兼務 事務局長 [illegible] 名	なし	
イボテ地区日伯文化体育協会（ASSOCIAÇÃO CULTURAL E ESPORTIVA NIPO BRASILEIRA DA COLONIA IVOTI）	[illegible]	R/c COLONIA JAPONESA, VALE DAS PALMEIRAS IVOTI-RS（仮事務所）	イボテ地区日系人	45	（法人格認可）1981年3月	[illegible]	なし	
ポルト・アレグレ日伯協会（ASSOCIAÇÃO GAUCHA NIPO-BRASILEIRA）	[illegible]	AV. JAIME VIGNOLI 235 PORTO ALEGRE-RS（仮事務所）	ポルト・アレグレ地方日系，邦人青年	50	（法人格認可）1978年	[illegible]	なし	
サン・ジョアキン日伯文化体育協会（ASSOÇIAC CULTURAL E ESPORTIVA NIPO-BRASILEIRA DE SÃO JOÃO QUIM）	[illegible]	CAIXA POSTAL 187, SÃO JOAQUIM-SC	サン・ジョアキン地方日系人	40	（法人格認可）1979年	[illegible]	なし	
南日伯協会（ASSOCIAÇÃO DE ASSISTENCIA NIPO-BRASILEIRA DO SUL）	山田伊知郎（1983.4～1984.3）	AV. JAIME VIGNOLI 235, BAIRRO ANCHIETA PORTO ALEGRE, RS, BRASIL 兼用事務所 電話 42-1486	南伯2州在住日系人（法人）	512戸 他民族地区関係の会員 2,560人	（法人格認可）1969.10.11	事務局（兼務3名）アルバイト 役員5名	事務所スペース有償提供	1. 活動内容 (1) 医療，福祉，厚生，文化事業 (2) 奨学金貸与，図書館 (3) 当地カトリック大学，法人病研究所との協定により研究の奨励を行う。 (4) 事業団の委託事業（教育・文化・医療）
ポルト・アレグレ日伯文化体育協会（ASSOCIAÇÃO CULTURAL E ESPORTIVA NIPO-BRASILEIRA DE PORTO ALEGRE）	熊田[illegible]	同上，仮事務所	リオ・グランデ・ドール州日系人	224	（法人格認可）1974年	なし（臨時事務）	なし	

団体名（日本語名，伯語名）	代表者名及び所属団体名，年齢	連絡先（郵便番号，所在地の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格設定の有無及び取得年月日	施設及び従業員の有無（内女・職員数）	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
クリチバーノス日伯文化協会 (ASSOCIAÇÃO CULTURAL BRASIL－JAPÃO DE CURITIBANOS)	宮田可作	CAIXA POSTAL D－23 CURITIBANOS－SC（仮事務所）	サンタ・カタリーナ州クリチバーノス都市在住	95	（法人格認可）（1977年）	無し/職員	なし	クーベス移住センター(仮事務所)
サンタ・マリア日伯文化協会 (SOCIEDADE NIPO－BRASILEIRA DE SANTA MARIA)	井田[illegible]蔵	RUA FRANCISCO CROSET 11,380 CAIXA POSTAL 319, SANTA MARIA－RS（仮事務所）	リオ・グランデ・ド・スール州サンタ・マリア地方日本人	30	（法人格認可）1977年	同上	なし	

VI ブエノス・アイレス支部

団体名（日本語名，西語名）	代表者名及び事務所名，住所	連絡先（本国事務所及事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	専従者の有無，内訳・職員数・号	事務所の有無名称及び住所	備考
農協法人 拓殖協同組合 Cooperativa de Colonizacion Argentina L.T.D.A.	宮 本 義 雄	Venezuela No 2130 Buenos Aires, Argentina. 電話 941－1675 942－6766	法定組合	組合員数 2,015名 1983.10. 1現在	1955.10.28 法人格取得	本国事務所 専従人 1名 職員数 3名 会計士 1名	なし 但し，不定期に了解書による巡回	1. 業務内容 (1) 日本人移住者の移住斡旋及び今後の移住斡旋 (2) 生産物の購買，販売とその仲介 (3) 国際農産品の輸出入の斡旋 (4) 農場運営（ミスオネス州における移住者グループ家族の管理） 2. 監督官庁： 通工省（現在，法人監督局）
ニッポン東部協同組合 Cooperativa de Nippon Provision Para Horticultores L.T.O.A.	大 内 力 太郎	Corrientes No4002, Buenos Aires, Argentina 電話 86－6806	法定組合	組合員 約470名	1980.3	職員数 1名 専従者約4名 役員 9名		1. 業務内容 (1) 生産者の組織化援助 (2) 組合員の農産品の購買販売斡旋 (3) 肥料の共同分析斡旋 2. 監督官庁： 通工省（現在，法人監督局）
ガルアペー日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE GARUHAPE	桑之下 実 1983.4～ 1984.3	COLONIA GARUHAPÉ DEP.L.G.SAN.MARTIN PROV.MISIONES	(1)個人 (2)日本人及日系人	19人	なし 1965.5.1設立	会館 職員職員： なし	なし	(1) 会員相互の親睦 (2) 学校教育的活動 (3) 各種催し
南部メンドサ日本人会 ASOCIACIÓN NIPPON SUR DE MENDOZA	東 竹 真 MAKOTO TOTAKE 1983.7～ 1984.6	COLONIA ANDEZU DISTRITO DE JAIME PRATS DEP.SAN RAFAEL PROV.MENDOZA	(1)個人 (2)日本人及日系人	48人	1968.12.1取得 1968.6.1設立	会館 職員職員： なし	なし	(1) 会員相互の親睦 (2) 日本語講習 (3) 各種催し
北部メンドサ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE MENDOZA NORTE	岡 部 常 夫 1983.9～ 1985.8	AV.LIBERTAD 663 (5521) VILLA NUEVA GUAYMA MELLEN PROV.MENDOZA TEL 061－262002	(1)個人 (2)日本人及び日系人	33人	1968.12.1取得 1968.6.1設立	会館 職員職員： なし	なし	(1) 会員相互の親睦 (2) 日本語講習 (3) 各種催し

団体名（日本語名、現地名）	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先（専用事務所、役事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	補助金等従業員の有無・内容・職員数・等	機関誌の有無名称並びに発行部数	備考
クジラ＊日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE LA PLATA	黒田孝弘 1983.9～ 1984.8	COLONIA URQUIZA MELCHOR ROMERO （1903） PART. LA PLATA PROV. BUENOS AIRES	(1)個人 (2)日本人及日系人	141人	1978.6.29取得 1963年設立	なし	会館 運動場 専従職員：なし	(1) 会員相互の親睦 (2) 日亜親善 (3) 各種催し
社団法人 在亜日本商工会議所 CAMARA JAPONESA DE COMERCIO E INDUSTRIA EN LA ARGENTINA	高畑博 1982.5～ 1984.5	LIBERTAD 836 2 4 （1012）BUENOS AIRES TEL 393－2104	(1)個人 (2)駐在商社員 進出企業会社社員 現地日系企業及び貿易商	170人 進出企業48社 地場企業38社	1949.6.22取得	専用事務所 専従職員5名	運営 1,000部 月報 600部	(1) 日亜間の貿易振興並びに文化交流 (2) 日亜経済合同委員会の現地常設連絡機関 (3) 商社、日系企業の発展のための情報提供
在亜日本人会 （邦人団体） ASOCIACION JAPONESA EN LA ARGENTINA	宍野文平 SR BUMPEI UNO 1983. 1～ 1985. 1	INDEPENDENCIA 732 （1099） BUENOS AIRES ARGENTINA TEL 26－8182 26－8149 23－9904	(1)個人 (2)在亜邦人及び日本人	約1,630名	1923.12.30取得	会館、別館、運動場、山の家等を所有 専従職員 4名	有り 「日系社会」（現在休刊）	会員相互の親睦、日亜親善、地方日会との交流、各種催し （映画会、演芸会、敬老会、運動会、ピクニック） 1916年8月1日設立
ロサリオ日本人会 （邦人団体） ASOCIACION JAPONSA DE ROSARIO	山口光 SR SEIICHIRO YAMAGUCHI 1983. 5～ 1984. 4	IRIONDO 1033（2000） ROSARIO PROV. SANTA FÉ 専用事務所 TEL 1041－386739	(1)個人 (2)在亜邦人及び日系人	約300人	1950.12.18取得	会館、専従職員 なし	なし	会員相互の親睦、日亜親善、文化の交流、各種催し （映画会、演芸会、敬老会、運動会、ピクニック） 1949年5月1日設立
サンタフェ日本人会 （邦人団体） ASOCIACION JOPONESA DE SANTA FÉ	伊藤誠一郎 SR SEIICHIRO ITO 1983. 7～ 1984. 6	Av. VICENTE LOPEZ YPLANES 3946（3000） SANTA FÉ PROV SANTA FÉ 専用事務所 TEL 1042－42436	(1)個人 (2)したがって日本人及び日系人、但し、役員会の承認があれば第四人認める	170人	1951.11.30取得	会館、専従職員 なし	なし	会員相互の親睦、日亜親善、各種催し （映画会、敬老会、ピクニック等） 1935年5月25日創立

団体名（日本語名、西語名）	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先（事務事務所仮事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	専属職員の有無・内容・職員数・等	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
ツルドバ州日本人会（邦人団体）	玉城康雄 SR YASUO TAMASHIRO	JUJUY 番63（5,000）PLOV. CORDOBA 事務事務所	(1)個人 (2)日本人及び日系人	約420人	1954. 4. 13取得	会館 専従職員 なし	ツルドバ州日会々報	会員相互の親睦及び福祉、日亜交流 1949年12月19日設立
サルタ日本人会（邦人団体）ASOCIACION JAPONESE DE SALTA	浜崎純朗 SR SUMINORI HAMASAKI 1983. 5～1984. 4	ITUZAINGO 番640（4,400）SALTA PROV. SALTA 事務事務所 TEL なし 連絡先 高元宅 TEL 087－212482	(1)個人 (2)日本人及び日系人	120人	1958. 5. 16取得	会館、専従職員 なし	なし	会員相互の親睦、日亜親善 1950年5月1日設立
ツクマン日本人会（邦人団体）ASOCIACION JAPONESA DE TUCUMAN	村上安雄 SR YASUO MURAKI	PASAJE JOSE A MOLINA 番1482（4,000）SANMIGUEL PROV. TUCUMAN 事務事務所	(1)個人 (2)日本人及び日系人	79人	1966. 5. 3取得	会館 専従職員 なし	なし	会員相互の親睦、日亜親善、各種催し（映画会、敬老会、ピクニック、運動会等）1938年7月9日設立
コリエンテス日本人会（邦人団体）ACOCIACION JAPONESA DE CORRIENTES	塚本茂雄 SR SHIGEMI TSUKAMOTO 1983. 1～1984. 3	Av. ALBERDI 番2501（3,400）CORRIENTES PROV. CORRIENTES 仮事務所 TEL 0712－64171	(1)個人 (2)日本人及び日系人	65人	1971. 10. 20取得	会館 専従職員 なし	なし	会員相互の親睦、日亜親善、各種催し（映画会、ピクニック、その他）1928年1月1日設立
ミシオネス日本人会（邦人団体）ASOCIACION JAPONESA DE MISIONES	松村昌明 SR MASAAKI MATSUMURA	BOLIVAR 番418（3,300）POSADAS PROV. MISIONES 仮事務所	(1)個人 (2)日本人及び日系人	58人	1978. 10取得	なし	なし	会員相互の親睦、日亜親善、各種催し（映画会、敬老会、ピクニック、運動会、その他）
フロレンシオ・ヴァレラ日本人会（邦人団体）ASOCIACION JAPONESA DE FLORENCIO VARELA	金城ホルヘ SR JORGE KANASHIRO 1983. 5～1984. 4	QUINTANA 番889（1888）FLORENCIO VARELA PROV. BUENOS AIRES	(1)個人 (2)日本人及び日系人	約430人	1978. 3. 5取得	会館 日本語学校校舎 運動場 専従職員 なし	なし	会員相互の親睦、日亜親善、各邦人団体との交流、各種催し（映画会、慰霊大会、敬老会、ピクニック、運動競技大会、その他）1960年設立
ブルサコ日本人クラブ（邦人団体）CLUB JAPONES DE BURZACO	崎原正吉 SR MASAKICHI SAKIHARA 1983. 7～1984. 7	BOULEVARD COLON 番985（1852）BURZACO PROV. BUENOS AIRES 事務事務所 TEL 299－0507	(1)個人 (2)日本人及び日系人	372人	1952. 5. 8取得	会館 日本語学校校舎 運動場 専従職員 なし	なし	会員相互の親睦、日系子弟への日本語教育、日亜親善、各種催し（運動競技大会、映画会、演芸会等親睦行事）1951年8月2日設立

団体名 （日本語名・西語名）	代表者名及び任期団体名，任期	連絡先（専用事務所，仮事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	施設等専従職員の有無・内容・職員数・等	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
ベレンクラブ （邦人団体） CLUB SOCIAL DEPORTIVO CULTURAL BELEN	中村 重 SR CHIKASHI NAKAMURA 1983. 7～ 1984. 7	CESAR F DIAZ 4178（1625）BARRIO. PARQUE. BELEN BELEN DE ESCOBAR PROV. BUENOS AIRES 専用事務所	(1)邦人 (2)日本人及び日系人	372人	有 9 1956. 6. 1	会館 日本語学校教室 運動場 専従職員 1名	機関誌ベレン 年4回 160部	会員相互の親睦，地域社会との交流，文化活動，日亜親善，日系子弟の日本語教育，各種催し
サルミエント日本人会 （邦人団体） ASOCIACION JAPONESA DE SARMIENTO （ベルクルツルエン体育協会とサルミエント日本文化協会が合併）	福富孝輔 SR KOUSUKE INATOMI 1983. 10～ 1984. 5	ROQUE SEANZ PENA 4050（1665）PART. CRAL. SARMIENTO PROV. BUENOS AIRES 専用事務所 TEL 032－2654	(1)邦人 (2)日本人及び日系人	303人	目下申請中	会館 日本語教室 運動場 （含プール） 専従職員 1名	会報 "BUNKYO SEINEN"	会員相互の親睦，日亜親善，文化交流，日系子弟の日本語教育各種催し 映画会，演芸会，歌之会，各種運動競技会，定例総会等，老舗表彰者研究会 1983年10月1日設立合併
メルロ日本人クラブ （邦人団体） CLUB JAPONES DE MERLO	亀川久男 SR HISAO KAMEGAWA 1983. 4～ 1984. 3	a/c FARMACIA BLANCO Av PATRICIO Y. AZAPA（1716）LIBERTAD PERT MERLO PROV. BUENOS AIRES 仮事務所	(1)邦人 (2)日本人及び日系人	71人	1969. 4. 3 取得	会館 日本語学校 運動場 子供遊園地 専従職員 1名	なし	会員相互の親睦，日亜親善，各種催し （バザー，映画会，各種運動競技会，演芸会，歌之会，その他） 1951年1月1日設立
西部クラブ （邦人団体） SEIBU CLUB	小松ロベルト SR ROBERTO KOMATSU 1983. 7～ 1984. 6	MENDOZA 4270 MORON PART. MORON PROV. BUENOS AIRES 仮事務所	(1)邦人 (2)日本人及び日系人	約300人	有 9 1979. 2. 28	会館 運動場 専従職員 なし	なし	会員相互の親睦 日亜親善 日系子弟の日本語教育 各種催し （映画会，バザー，歌之会，その他）

Ⅶ. アスンシオン支部

団体名（日本語名，西語名）	代表者名及び任期（就任年月，任期）	連絡先（事務所住所，事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	事務局専従職員の有無・内容・職員数・等	事務所の有無及び広さ・部屋数	備考
グラム日本人自治会	上村 実 NOBORU KAMIMURA 任期：1ヶ年 1984年12月まで	COLONIA FRAM, LA PAZ, DPT. DE ITAPUA, PARAGUAY TEL. LA PAZ 209	日本人及び日系人	182戸 人口：1,002人	法令第19,466号認可 期日	会館，運動場 職員 3名 専用事務所	なし	住民福祉の増進，地域社会の経済的社会環境等の整備など
チャベス日本人自治会	横村成治 SEIJI YOSHIMURA 任期：1ヶ年	SR. SEIJI YOSHIMURA COLONIA FEDERICO CHAVES, CALLE DISTRITO CAP. MIRANDA DPTO. ITAPUA, PARAGUAY TEL 12 DE CAP. MIRANDA	日本人及び日系人	38戸 197名	法令第37,193号認可 期日 1978. 2. 10	会館，運動場 日語教室，講演 上下水道完備他 専従職員（なし）	なし	(1) 会員の親睦と日パ友好増進 (2) 地区内道路補修工事 (3) 日本語学校，公民館管理
グラム農業協同組合 COOPERATIVA FRAM AGRICOLA LIMITADA	田辺 成 1ヶ年	Colonia Fram, La Paz, Dto. de Itapua, PARAGUAY	日本人及び日系人（グラム及びチャベス居住組合員）	140戸	1970年9月 10日法務省認可 第205号にて法定組合となる	組合事務所4 倉庫5 宿舎 9戸 乾燥共同施設 台所 1 トラック， 乗用車3		販売，購買，信用，利用，共済，営農指導の部 各部独立経営制
ピラポ日本人自治会 ASOCIACION JAPONESA DEL PIRAPO	下園田 健 TSUYOSHI SHIMOZOKEDA 1983.1.1～1984.12.31	COLONIA PIRAPO, CASILLA DE CORREO 464 ENCARNACION, PARAGUAY 専用事務所 TEL 0758－223	居住されている日本人及び日系人世帯1ヶ月	291戸	法人格取得 1978. 2. 20 （認可）	自治会事務所 兼公民館 職員 5	体育館 （自治会監視）	(1) 1967年4月1日設立 (2) 主な役務 ア日本戸籍及びパ戸籍関係，ア．労働問題，ア．治安，ア．入，教育，福祉 (3) 諸下組織 婦人会，青年部，体育連盟，各村（8）各学校PTA（4） 電化促進委員会
ピラポ農業協同組合 SOCIEDAD COOPERATIVA PIRAPO AGRICORA LDA.	小田 義 公 YONJIHIKO KODA	・COLONIA "ALTO PARANA", DISTRITO DE VELLA VISTA, DPTO. DE ITAPUA, PARAGUAY ・CANILLDE CORREO 464, ENCARNACION, PARAGUAY ・TEL: PIRAPO 3	アルトパラナ地区居住する日本人	188戸	1961.10.6付 農牧省認定 第127号にて法定組合となる。	組合事務所，倉庫，宿舎，ガソリンスタンドなど所有 車輌としてはトラック，乗用車，ブルドーザーなど 理事7名，監事3名，職員20名	なし	販売，購買，信用，共済，利用，営農指導等の事業を実施

団体名（日本語名、西語名）	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先（本国事務所及事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	常勤役職員の有無・内容・職員数・等	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
アカカラジー農業協同組合 COOPERATIVA AGRO-INDUSTRIAL "ACACARAYA" LDA		・COLONIA "ALTOPARANA", DISTRITO DE VILLA VISTA, DPTO. DE ITAPUA, PARAGUAY	同上	16戸	1963.6設立 1968.8.26付 農牧省決定 第175号により 法定組合となる。	専従職員はなく、財務担当職員が常勤する。	なし	販売、購買、信用、機械利用、農業
ビラボ婦人会	会長 藤井芳枝 1981.1.1～ 1981.12.31	同上 （自治会長）	自治会員の婦女子			公民館利用	機関紙「あゆみ」 年1回発行	下記6支部及びイタプア日系婦人協議会
ビラボ青年団	団長 工藤好孝 1981.1.1～ 1981.12.31	同上	独身地区居住する青年	48名		同上		下記4支部
イグアスー日本人会（邦人団体） ASOCIACION JAPONESA DE LA COLONIA YGUAZU	藤原利治 TOSHIHISA FUJIWARA 1983.1.1～ 1983.12.31	COLONIA YGUAZU KM41, ALTO PARANA PARAGUAY TEL #3 （事務：CAIXA POSTAL #153 FOZ DO IGUACU ENT DO PARANA, BRASIL）	日本人及び日系人	185名	1989年 取得 12月2日 #21006	事務所 専従職員 2名 日本語学校1校 日語教師 5名 調理手 1名	なし	会員相互の親和と協力を基調とし地域内の環境の整備充実を図り健全なる地域社会の建設につとめ、以って パラグアイ国社会、経済文化の発展に寄与することを目的とする。1978年4月1日設立
東京ジ・ポイラ農産業協同組合（邦人団体） COOP AGRO-INDUSTRIAL GANADERIA TAKUSHIN YOPOI-RA LTD	深見昭治 （FUKAMI AKISABURO） 1980.10～ 1982.9	COLONIA YGUAZU Km41 ALTO PARANA PARAGUAY TEL#5 （事務：CAIXA POSTAL #153 FOZ DO IGUACU ENT. DO PARANA BRASIL）	農業従事者で従事する18才以上の者。	140戸	1965年 7月20日取得 農牧省決定第209号により法定組合となる。	事務所 サイロ施設 ガソリンスタンド 製材工場 職員 34名		協同組合制度内において組合員の経済的、社会的の向上、利益を目的とし協同事業のようこいの共を計る 公的並びに私的機関と協力する。
アマンバイ日本人会（邦人団体） ASOCIACION JAPONESA DEL AMAMBAY	下元 米次郎 YONEJIRO SHIMAMOTO 1983.1.1～ 12.31	TTE HERRERO ESQ CURUPAYTY #300, PEDRO CADALLERO, DTO AMAMBAY, RCA DEL PARAGUAY, Casilla 14) TEL 2529	日系人及びその家族	139名	1972年 5月22日取得 DECRETO #26198	(1) 事務所 (2) 職員数 7名	なし	(1) 本会的機関の自主的運営 (2) 生活環境の改善改善 (3) 子弟教育、スポーツの振興 (4) 現地社会との協調親和 (5) 領事事務取次ぎ、学生奨学金、日本語学校運営 (6) 1959年8月設立

組合名（日本語名，西語名）	代表者名及び所属組合名，任期	連絡先（本国事務所及事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	経営規模（土地の有無・内容・職員数・その他）	地区統一の有無及び支所数	備考
アマンバイ農業協同組合（パラグアイ） SOCIEDAD COOPERATIVA "AMAMBAY" AGRICORA LIMITADA	森重三 （JUZO MORIOKA）	CADELA SPERATTI ESQ YTORRO CNTRO HERNANDARIAS, PEDRO JUAN CABAERERO, DTO DE AMAMDAY RCA DEL PARAGUDY 本国事務所	18才以上の農業者	40戸 人数 203	1961年 6月8日付農牧省決定第[illegible]により設立組合となる。	(1)土地所有状況 2ha 農作地 330ha (2)組合設備 精米工場 コーヒー精選工場 乾燥工場 農機具修理工場 (3)職員数(内)4名 (4)役員平均4名 監事3名	なし	(1) 組合員の社会的経済的地位の向上 (2) 国民経済への貢献 (3) 組合員の生活文化の高揚などなど農村の福祉を増進を目的とする。
コンポン農業協同組合（パラグアイ） COOPERATIVA DE PRODUCCION Y COMERCIALIZACION FORESTAL "TAYI LIMITADA	松本安広 （YASUMI MATSUNAGA） スーパーマーケット，製材所，レストラン経営 1986.1.1～ 1986.12.31	MCAL LOPEZ ESQ MCAL ESTIGARRIBIA PEDRO JUAN CABALLERO DTO DE AMAMDAY RCA DEL PARAGUAY 本国事務所	18才以上の農業従事者	戸 12 人数 56	1979年 6月13日 Decreto 第7481	(1)経営規模なし (2)資本金 一式 (3)職員数 2名 (4)役員，平均 4名 監事 3名	なし	(1) 農産業部門において農業，林業の商品を生産する (2) 組合員の社会的，経済的地位の向上を計る (3) 国民経済に寄与するための公的，私的，機関に協力すること を目的とする。
アマンバイ婦人会	須賀京子 YOKO SUGA 1983.1.1～ 12.31	TTE.IORRERO ESQ CURUPAYTY PEDRO JUAN CADALLERO.DTO.DE AMAMDAY.PARAGUAY CASILLA 14	日系人婦人	人数 80	なし		「ふれあいの」 年1回発行	(1) 会員相互の親睦と教養の高揚，文化の向上につとめる (2) 日系人地域社会の発展に婦人の立場から協力する (3) 1972年4月設立
ラ・コルメナ文化協会	三井波夫 NAMIO MITSUI 1983.1.1～ 12.31	LA COLMENA, TEL-3	在パラグアイ日系人婦人会会員	64	1981年12月 28日 第29810	文化会館，日本語学校設備 専従職員なし	なし	会員相互の親睦と文化の向上子弟の教育保育の奨励及び日パ親善交流，福祉施設管理

団体名（日本語名，西語名）	代表者名及び所属団体名，任期	連絡先（事務所，事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	専従職員の有無・内容・職員数等	機関誌の有無名称及び発行部数	備考
パラグァイ日本人会連合会 FEDERACION DE ASOCIACIONES JAPONESAS EN EL PARAGUAY	福嶋 深 FUKASHI MAEHARA 1983.3～1985.2	事務所 AV. REP. ARGENTINA CARION 日パ文化会館内 TEL 202－210	(1) 在留邦人及び日系人 (2) 同伴家族を含む	約7,000人（パ在住日系人1,170家族）	1982. 7. 28 取得 第34731	日本パラグァイ文化会館 専従職員 2名	「パラグァイ日本人会連合会会報」1,200部 年11回発行	1970年2月設立（在パ日系人の代表機関） (1) 福祉，文化，経済，教育等の向上，発展 (2) 現住家族との連絡 (3) 南米各国日系人諸団体との友好親睦 (4) パ国政府民間諸団体との交流
ンカルナシオン日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE ENCARNACION EN PARAGUAY	中林 哲雄 1982. 1. 1～1983. 12. 31	VILLARRICA 第450，ENCARNACION，DPTO. DE ITAPUA，PARAGUAY TEL 4706（仮事務所）	(1) 日本人及び日系人 (2) 同伴家族を個人会員に含める	100名	1974.11.18 取得	会館 現在，事務所，図書室，管理人室等建設中	な し	(1) 会員相互の親睦と日・パ親善を図る事 (2) 1970年1月11日設立

Ⅶ. サンタ・クルス支部

団体名（日本語名，英語名）	代表者氏名及び所属団体名，任期	連絡先（本部事務所及事務所の要）及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	諸施設及従業員の有無・内容・職員数・等	組織図の有無及び及び役員数	概況
サン・ファンヨポ協会（日系人団体） ASOCIACION BOLIVIANA-JAPONESA DE SAN JUAN DE YAPACANI	林 英次 EIJI HAYASHI （会長） 1981年1月～1981年12月	CASILLA 番－494 現在郵便物紛失中	サン・ファン地区居住している者	216戸 1,211名	1977年8月11日設立決議番－184389でもって法人格取得	職員数：会長1名，事務局長1名，職員4名計6名 施設：事務所，体育館	組織図なし	1965年1月1日，サンファン農協より分離してできた農業者を取り扱う住民団体であるサンファン自治体が結成され，1977年8月11日，サンファンヨポ協会と称し，RS番－184389でもって法人団体となった主な業務は内部，教育，土木行政，福祉，広報等である。
サン・ファン農牧総合協同組合 COOPERATIVA AGROPECUARIA INTEGRAL SAN JUAN YAPACANI	福井 福一 FUKUICHI OKANE （会長） 1981年1月～1982年12月 （2ヶ年）	CASILLA 番－1088 サン・ファン地区居住本部，事務事務所サンタ・クルス市内出張所事務事務所を兼ね，電話，本部0932－2006 サンタクルス市－3－4389，4－6537，ラパス市32－2978	出資金完納者，居住者本人 $10,000－	156戸	1971年12月16日法人格取得	職員，本部7名，精米工場2名，輸送部5名，製粉工場7名，サンタクルス4名，ラパス6名，労働者46名，計77名 施設：1.本部事務所事務兼倉庫2.サンタ・クルス出張所3.製粉工場4.サイロ5.乾燥機	農協のとおり 200部	1957年8月20日，48名で設立，1972年12月16日法人格取得，本部ーサン・ファン地区に設置し，製粉乾燥加工工場，精米工場，機械修理等をやっている業務はサンタクルス出張所，ラパスの販売所があり，製粉原料の購入等販売事業をやっている。
コロニア・オキナワ農牧総合協同組合 COOPERATIVA AGROPECUARIA INTEGRAL COLONIAS OKINAWA LTD	中田 喜正 KISEI NAKADA （組合・連合・農協・商業） 1981年1月～1982年12月 （2ヶ年）	CASILLA 番828 サンタクルス市ブントルスバーガーグ・番225V. CAICO 本部，電話2－6410 3－1374	出資金10分200ドル及び加入金5ドルを支払った者	187戸 （1983－11現在）	1971年8月19日取得	職員：総務2名，機械化2名，経理2名，第1支所1名，第2支所1名，第3支所1名，精米工場1名，ブルドーザー3名，直営農場2名。 施設：本部事務所，精米工場	組合員230部毎月15日，内容1.農産物の動き，2.農業物関係政策の動き，3.組合業務状況，4.組合員営農状況，5.諸統計資料等	目的：各種農産物の生産，国内工場へ原料供給，生産合理化の推進等 事業概要：信用事業，販売事業，加工事業，取売事業，利用事業，直営農場 機構図：理事8名，監事3名，職員15名 設立：1971年8月1日 その他第1，第2，第3農住地区支所を置く

団体名（日本語名、英語名）	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先（専用事務所及事務所の別）及び電話	会員の資格	会員数	広人格取得の有無及び取得年月日	施設及び従業員の有無・内容・職員数	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
オキナワ日ボ協会 ASOCIACION BOLIVIANO JAPONESA DE OKINAWA	山原興喜 KOHKI YAMABARA 1982.12～1984.12	CASILLA №582 SANTA CRUZ BOLIVIA	自然人又は広人（国籍、人種、信条、経済的、社会的地位に制限なし） 1）正会員、事務所に居住する家族の戸主 2）名誉会員 3）準会員	187戸 1,107名	広人格取得申請中	職員：事務職員2名 施設：公民館事務所	なし	目的：日系人相互の親睦、文化の交流日ボ相互親善の増進、子弟教育の向上 その他　設立1979・1・1
サンタ・クルス州日ボ文化協会	武田健司 KENJI TAKEDA 1982.12～1984.12	Av.MONSEÑOR RIVERO S/N. SANTACRUZ TEL.033－31452	在留邦人及び日系ボリビア人	(1)552人 (2)2,870人	なし	専用事務所 専従職員　1名	なし	サンファン、ボキナワ、サンタクルス邦人団体の連合体、団体間の調整、日ボ文化交流等 1973年5月3日設立
サンタ・クルス市中央日系人会	宮里清 KIYOSHI MIYASATO 1983.1～1984.12	Av.CARDENAL CUSING, SANTA CRUZ TEL.033－26891	(1)在留邦人 (2)日系ボリビア人 (3)長期滞在者	(1)138人 (2)719人	なし	専用事務所　有 管理人　1名	なし	日語普及、(4)研究修学、文化交流、日語補修、社会慈善事業 1965年3月15日設立
ラパス日系人会 SOCIEAD JAPONESA DE LA PAZ	宮本俊和 TOSHIKAZU MIYAMOTO 1983.3～1984.3	BATALLÓN COLORADOS ESQ. FEDERICO SUAZO. CASILLA №8305 LA PAZ TEL.02－355092	(1)日本人、日系人 (2)会員の妻は婦人部に属し、正会員にはならない。	(1)40名 (2)290名	広人格取得 1922年創立	会館（同会所有） 事務職員　1名 管理人　1名 食堂経営　1 ホール　2 日本語普及教室　1 日本語補修教室　2 柔道部　1 （地上3階、地下1階）	なし	在留邦人間の親睦、社会慈善事業、災害、救済等、日ボ文化交流、日本語の普及及び補習

Ⅸ. サント・ドミンゴ支部

団体名（日本語名，西語名）	代表者名及び所属団体名，任期	連絡先（事務所住所及び電話番号の別）及び電話	会員の資格	会員数	在人数取扱の有無及び取扱年月日	給与設定職員の有無・内訳・取扱数・他	機関紙の有無名称及び発行部数	備考
ドミニカ日本人会連合会 LA FEDERACION DE ASOCIACIONES DE JAPONESES EN LA REPUBLICA DOMINICANA	会長 小松豊重 TOYOSHIGE KOMATSU 1983. 10. 9 ～ 1984. 3. 31	瀬戸辰彦 SR. TATSUHIKO SETO CALLE HATUEY ENQ. MANUEL DE JESUS TRONCOSO ENSANCHE PIANTINI SANTO DOMINGO （APARATADO 2-2） REPUBLICA DOMINICANA TEL 565-3080	在留邦人及び日系人同伴家族を含む	87名	なし	なし	「ドミニカ日本人会連合会会報」85部 毎月 1回発行	1968年9月3日設立 (1) 相互の親睦及び福祉の向上に努めると共に併せて共通の利益を図る事業を推進する。 (2) 日本語学校及びその他の管理
サント・ドミンゴ日本人会連合会	会長 斎藤幸吉 YUKICHI SAITO 1982. 10. 1 ～ 1984. 9. 30	松本 護（顧問会長） SR. MAMORU MATSUNAGA HAIM LOPEZ PENHA 4630 ENSANCHE PARAISO, SANTO DOMINGO, REPUBLICA DOMINICANA TEL 565 ～ 3078	(1)在留邦人のみ (2)邦人会員(3)一時帰国会員	80名	なし	なし	「パンペ」64部 毎月1回発行	1982年10月1日設立 (1) 上記ドミニカ日本人会連合会との合同結成 (2) 親睦者相互の親睦及び社会発展，共通の利益の追求 (3) 各種催し

JICA